

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第521集

かわぐちいち

# 川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

2007

岩手県二戸地方振興局土木部

(財)岩手県文化振興事業団  
埋蔵文化財センター

# 川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

## 序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を越す遺跡や貴重な埋蔵文化財が数多く残されています。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解する上で欠くことの出来ない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければなりません。

一方、豊かな県土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれその土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。

当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の緊急発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、岩手県二戸市の一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業に関連して平成18年度に発掘調査を実施した、二戸市川口Ⅰ遺跡第2次調査の成果をまとめたものです。今回の調査では、縄文時代後期前葉の遺構や遺物を中心に、平安時代、旧奥州街道の名残を示す近世の遺物も見つかりました。本遺跡は、前年の調査結果も踏まえると縄文時代早期から現在まで歴史が連綿と続いていたことが明らかとなり、岩手県最北の地の歴史に新たに貴重な資料を提供することができました。本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査及び報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました岩手県二戸地方振興局土木部、二戸市教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

平成19年12月

財団法人 岩手県文化振興事業団

理事長 武 田 牧 雄

## 例 言

- 1 本書は、岩手県二戸市金田一字川口23番ほかに所在する川口 I 遺跡第 2 次の調査成果を収録したものである。
- 2 岩手県遺跡台帳における本遺跡の登録番号は I E 79-1188、遺跡の調査略号は K G I -06-02 である。
- 3 本遺跡の発掘調査は、一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業に伴い、岩手県教育委員会の調整を経て、岩手県二戸地方振興局土木部の委託を受けた（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが、記録保存を目的として実施した緊急発掘調査である。
- 4 調査期間・調査面積・調査担当者は以下の通りである。  
平成18年7月1日～9月15日 / 2,133㎡ / 木戸口俊子・村田 淳
- 5 室内整理期間・担当者は以下の通りである。  
平成18年11月1日～平成19年1月31日 / 木戸口俊子
- 6 本書の執筆および編集は、木戸口俊子が担当した。
- 7 野外調査では、岩手県二戸地方振興局土木部、二戸市立埋蔵文化財センター、遺跡周辺住民の方々より多大なご協力をいただいた。
- 8 各種分析・鑑定は以下の機関に依頼した(敬称略)。  
石質鑑定 …………… 花崗岩研究会  
琥珀分析 …………… (財)元興寺文化財研究所保存科学センター  
火山灰分析 …………… 弘前大学教授 柴 正敏
- 9 基準点測量は、有限会社下斗米測量設計が行った。
- 10 航空写真は、東邦航空に委託した。
- 11 本遺跡の出土遺物および諸記録資料は、岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。

# 目 次

I	調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	1
1	遺跡の位置と地理的環境	1
2	歴史的環境	4
3	基本層序	9
III	野外調査と室内整理の方法	13
1	野外調査	13
(1)	グリッドの設定	13
(2)	試掘・表土除去	13
(3)	遺構の検出と精査	13
2	室内整理	14
IV	検出された遺構と遺物	19
1	検出遺構	19
(1)	A 区	19
①	土 坑	19
②	柱穴状土坑	20
(2)	B 区	20
①	土 坑	21
②	溝状遺構	24
③	埋設土器遺構	25
④	柱穴状土坑	26
(3)	C 区	26
①	土 坑	26
(4)	D 区(西)	26
①	溝状遺構	27
②	柱穴状土坑	27
(5)	D 区(東)	27
(6)	E 区(東)	27
①	土 坑	27
②	柱穴状土坑	27
(7)	E 区(西)	27
①	竪穴住居状遺構	28
②	土 坑	28
③	配石遺構	29
④	柱穴状土坑	29
(8)	F 区	31

① 土    坑 .....	32
② 柱穴状土坑 .....	32
2 出土遺物 .....	50
(1) 縄文土器 .....	50
(2) 土師器 .....	51
(3) 石    器 .....	52
(4) 土製品・石製品・琥珀 .....	52
(5) 近世陶磁器・古銭・その他 .....	53
V ま    と    め .....	72
1 Ⅲ層（十和田南部浮石層）について .....	72
2 縄文時代(後期)の遺構・遺物について .....	73
3 柱穴状小土坑について .....	73
4 結        び .....	74
VI 自然科学分析 .....	76
1 川口Ⅰ遺跡第2次調査出土琥珀産地の同定 .....	76
2 川口Ⅰ遺跡の火山灰について .....	80
報告書抄録 .....	113

## 図版目次

第1図 遺跡位置図 .....	2	第17図 E区(西) P06～P17 .....	42
第2図 地形分類図 .....	3	第18図 E区(西) 遺構配置図 .....	43
第3図 周辺の遺跡位置図 .....	6	第19図 F区1～6号土坑・柱穴状土坑 .....	44
第4図 調査範囲と周辺の地形 .....	11	第20図 遺構内出土遺物① .....	54
第5図 基本層序 .....	12	第21図 遺構内出土遺物② .....	55
第6図 遺構配置図(1) .....	15・16	第22図 遺構内出土遺物③ .....	56
第7図 遺構配置図(2) .....	17・18	第23図 遺構外出土遺物① .....	57
第8図 A区1～5号土坑 .....	33	第24図 遺構外出土遺物② .....	58
第9図 A区柱穴状土坑群 .....	34	第25図 遺構外出土遺物③ .....	59
第10図 B区2・5～11号土坑 .....	35	第26図 遺構外出土遺物④ .....	60
第11図 B区12・14～19号土坑 .....	36	第27図 遺構外出土遺物⑤ .....	61
第12図 B区20～23号土坑・1～3・6号溝 .....	37	第28図 遺構外出土遺物⑥ .....	62
第13図 B区5号溝・埋設土器遺構・柱穴状土坑群① (東側) .....	38	第29図 遺構外出土遺物⑦ .....	63
第14図 B区柱穴状土坑群②(中央・西側) .....	39	第30図 遺構外出土遺物⑧ .....	64
第15図 C区、D区(西)、E区(西) 竪穴住居状遺構 .....	40	第31図 十和田南部浮石検出範囲 .....	74
第16図 E区(西) 配石遺構・1～5号土坑 .....	41	第32図 十和田中撤火山灰層面コンタ図 .....	75

## 表 目 次

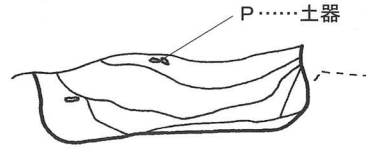
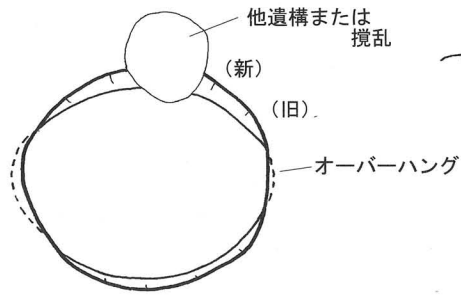
第1表 周辺の遺跡表	7	第6表 土師器観察表	69
第2表 柱穴状土坑観察表	45	第7表 近世陶磁器観察表	70
第3表 縄文土器観察表	65	第8表 古銭観察表	71
第4表 石器観察表	68	第9表 その他観察表	71
第5表 土製品・石製品観察表	69		

## 写真図版目次

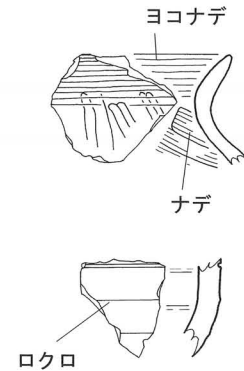
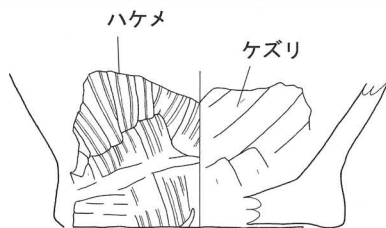
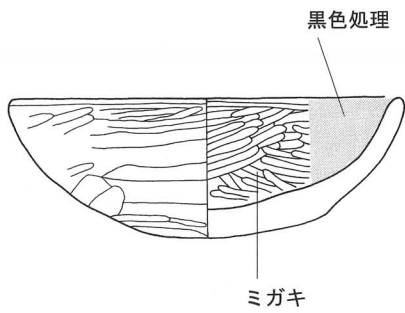
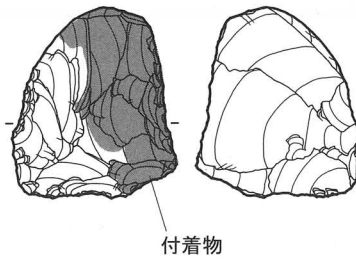
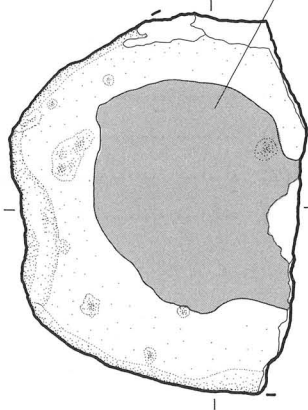
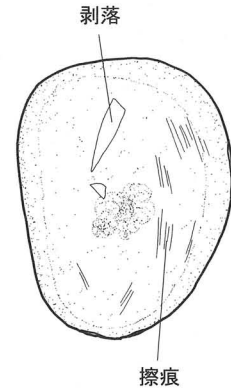
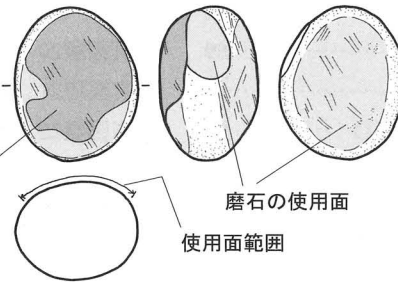
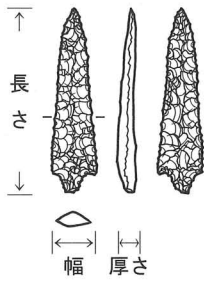
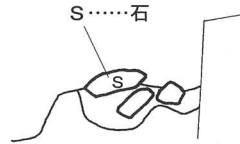
写真図版1 遺跡全景	83	写真図版16 E区(西)竪穴住居状遺構内琥珀出土状況 ・配石遺構	98
写真図版2 A区現況・基本層序・土坑(1)	84	写真図版17 E区(西)土坑(1)	99
写真図版3 A区土坑(2)・終了全景	85	写真図版18 E区(西)土坑(2)・柱穴状土坑(1)	100
写真図版4 B区現況・基本層序・土坑(1)	86	写真図版19 E区(西)柱穴状土坑(2)・終了全景・ 攪乱部	101
写真図版5 B区土坑(2)	87	写真図版20 F区現況・基本層序・土坑(1)	102
写真図版6 B区土坑(3)	88	写真図版21 F区土坑(2)	103
写真図版7 B区土坑(4)	89	写真図版22 F区土器出土状況・ 北壁・南壁断面・終了全景	104
写真図版8 B区土坑(5)	90	写真図版23 遺物写真(1)	105
写真図版9 B区土坑(6)・溝状遺構(1)	91	写真図版24 遺物写真(2)	106
写真図版10 B区溝状遺構(2)	92	写真図版25 遺物写真(3)	107
写真図版11 B区埋設土器遺構・終了全景	93	写真図版26 遺物写真(4)	108
写真図版12 C区現況・基本層序・土坑・D区(西) 現況・基本層序	94	写真図版27 遺物写真(5)	109
写真図版13 D区(西)溝状遺構・終了全景・D区(東) トレンチ・E区(東)現況	95	写真図版28 遺物写真(6)	110
写真図版14 E区(東)土坑・終了全景・E区(西)現況・ 基本層序	96	写真図版29 遺物写真(7)	111
写真図版15 E区(西)竪穴住居状遺構	97	写真図版30 遺物写真(8)	112

# 凡 例

## 遺 構



## 遺 物





## I 調査に至る経過

川口 I 遺跡は、「緊急地方道整備事業豊年橋工区」の道路改良工事に伴い、その事業区域内に存することから発掘調査を実施することとなったものである。

一般県道上斗米金田一線は二戸市北西部に位置し、主要地方道二戸田子線と一般国道4号とを連絡する道路であり、その機能は当該道路沿線の地域交通を広域的幹線道路である一般国道4号へと誘導する補助幹線道路である。事業対象地域である「豊年橋工区」においては、通学路としての指定や道路ネットワーク状況により生活基盤としての性格が強く、年間を通じて走行性や安全性および信頼性の確保のため平成12年度「地方特定道路整備事業」により事業着手したものであるが、平成17年度に新たに「緊急地方道路整備事業」の採択となり早期完成を目指すものである。

当事業の施工にかかわる埋蔵文化財の取り扱いについては、二戸地方振興局土木部から平成17年10月31日付二地土第300号「豊年橋地区道路整備にかかわる埋蔵文化財の試掘調査（依頼）」により岩手県教育委員会に対して試掘調査の依頼を行った。

依頼を受けた岩手県教育委員会は平成17年11月8日に試掘調査を実施し、工事に着手するには川口 I 遺跡の発掘調査が必要となる旨を平成17年11月14日付教生第1180号「一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備予定箇所における埋蔵文化財の試掘調査について（回答）」により当土木部へ回答してきた。

その結果を踏まえて当土木部は教育委員会と協議し、平成18年度に財団法人岩手県文化振興事業団との間で委託契約を締結して発掘調査を実施することとなった。

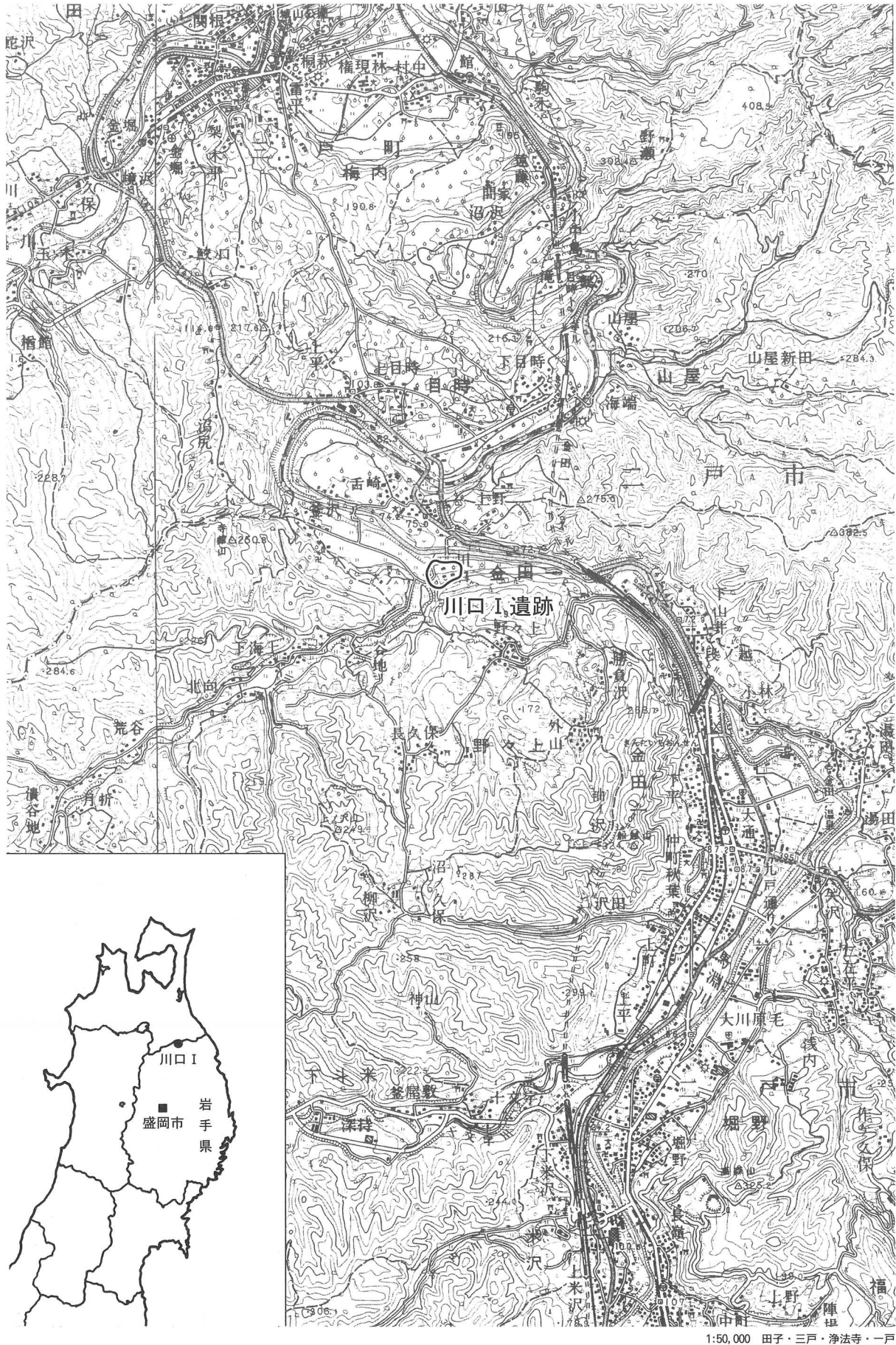
(岩手県二戸地方振興局土木部)

## II 遺跡の立地と環境

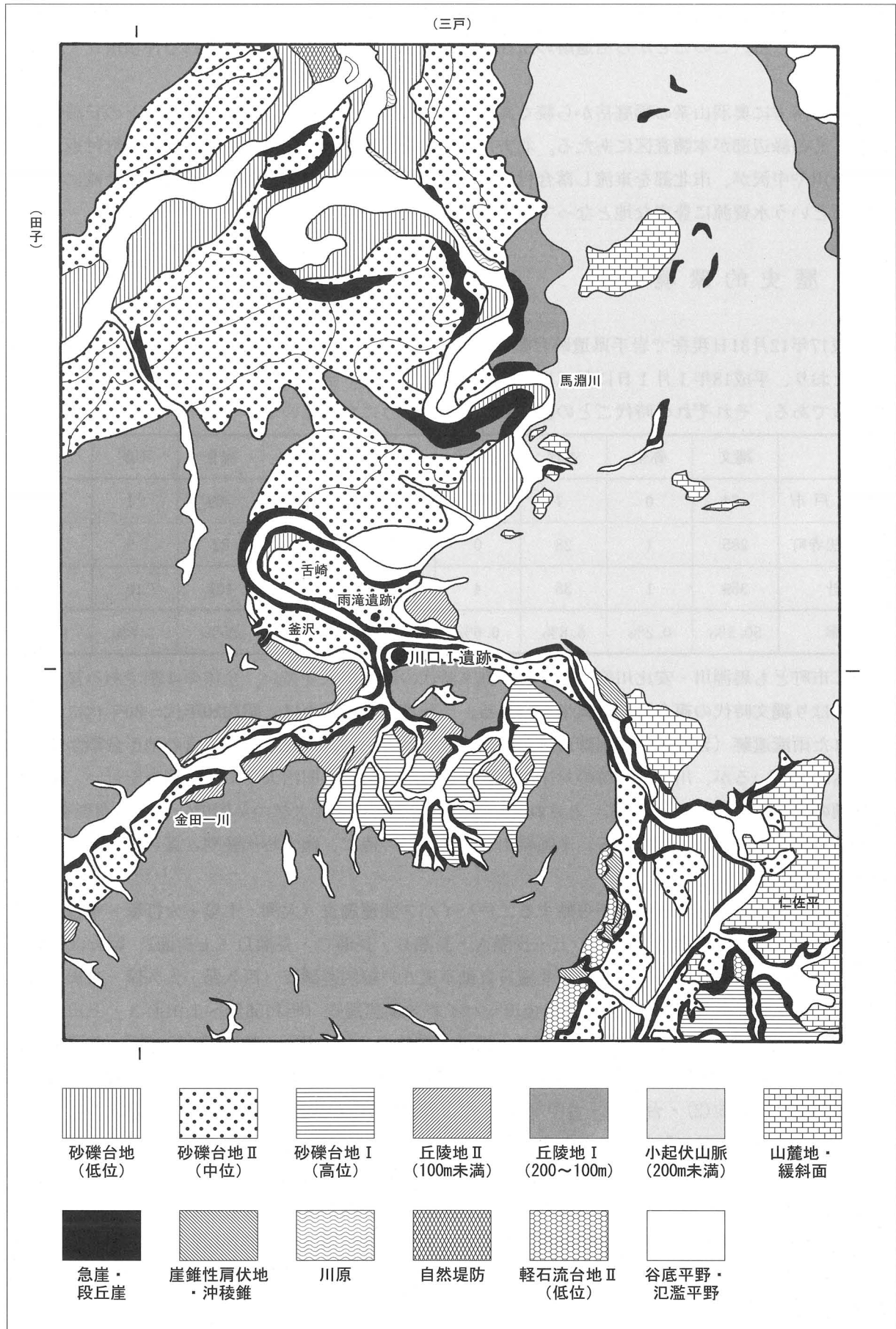
### 1 遺跡の位置と地理的環境

遺跡が所在する二戸市は、岩手県北端部に位置し県北地域の中心的都市としての役割を担っている。1972年に福岡町と金田一村が合併して市制施行し、平成18年のいわゆる「平成の大合併」に伴い、新たに隣町の浄法寺町と合併し「新二戸市」となった。東は軽米町・九戸村、南は一戸町、西は八幡平市、北は青森県三戸町、青森県田子町に囲まれ、総面積420.31km<sup>2</sup>、総人口3万1千人を数え、安比川と馬淵川とに開析された低位段丘地を中心に人々の生活は営まれている。北上山地、奥羽山脈に挟まれたこの地は、自然が豊富で多くの自然史跡も残っている。

川口 I 遺跡は、JR東北新幹線二戸駅から北東約9km、北緯40度20分13秒、東経141度16分34秒付近に位置している。旧二戸市を縦断し北流する馬淵川と支流海上川との合流地点に程近い馬淵川左岸段丘上に立地している。この馬淵川は、葛巻町東端部の北上山地を源とし、安比川・白鳥川・沢内川などの小河川を合流させながら北流し、当遺跡付近で舌状に屈曲して八戸湾へと注ぐ。流域では、狭い河岸段丘と深い浸食谷が形成され、高さや生成時期によっていくつかの段丘に区別することができる。大池氏や中川氏、松山氏らの馬淵川流域の段丘面の調査研究により、上位から仁左平段丘・福岡段丘・（長嶺段丘）・米沢段丘（中町段丘）・堀野段丘・（中曾根段丘）に分けられる。各段丘の概略については、既刊の市内の発掘調査報告書の多くに見られるためここでは割愛する。川口 I 遺跡の



第1図 遺跡位置図



第2図 地形分類図

載っている面は、標高74～76m、馬淵川との比高は16～18mであり、南部浮石粒以上の十和田系火山灰を載せている。このことから当遺跡の所在する段丘は「堀野段丘」に対比される沖積段丘であると思われる。

遺跡は南方に奥羽山系の稲庭岳から続く高鳥谷山（371m）や上ノ沢山（250m）などの丘陵地が拡がり、その縁辺部が本調査区にあたる。北方に馬淵川を望み、水源を県境の青森県田子町付近とする金田一川や中沢が、市北部を東流し落合付近で合流、海上川となり、遺跡西方を馬淵川合流に向けて流れるという水資源に豊富な地となっている。

## 2 歴史的環境

平成17年12月31日現在で岩手県遺跡台帳に登録されている二戸市の遺跡は、603遺跡である。前述したとおり、平成18年1月1日に新二戸市になったため、この数字は旧二戸市と旧浄法寺町とを合わせた数である。それぞれの時代ごとの遺跡数は次表のようになっている。

	縄文	弥生	古代	奈・平	中世	近世	複合	不明	計
旧二戸市	74	0	7	4	19	0	69	1	174
旧浄法寺町	285	1	28	0	22	2	82	9	429
計	359	1	35	4	41	2	151	10	603
率	50.5%	0.2%	5.8%	0.6%	7.8%	0.3%	25%	1.7%	100%

旧二市町とも馬淵川・安比川沿いを中心に縄文時代の遺跡が大変多い。全体の4割である複合遺跡でもやはり縄文時代の複合遺跡が大半を占める。二戸市の発掘調査は、昭和20年代～30年代にかけて行われた雨滝遺跡（舌崎A）や堀野遺跡が始まりとっていい。雨滝遺跡は前頁の地形分類図や一覧表にも載っているが、川口I遺跡の対岸に位置する遺跡である。明治大学が学術調査を行い、縄文時代晩期の土器が出土し、「雨滝式」とされている。堀野遺跡は岩手大学の草間俊一氏らが調査を行い、昭和40年に報告書が出されている。土師器出土の集落跡の他に、縄文時代後期と見られる組石遺構が検出されている。

これらの調査以降、昭和47年から始まる二戸バイパス関連調査（大淵・上里・火行塚・中曽根・上村・下村A・下村B・荒谷A・家の上・長瀬A・長瀬B・長瀬C・長瀬D・上田面）、昭和56年からの文化課分布調査実施から始まった東北縦貫自動車道八戸線関連調査（西久保・大久保・太田・馬立I・馬立II・青ノ久保）、一般国道4号金田一バイパス関連調査（昭和58年～上田面3・上田面2・荒田3・荒田4・八ツ長2・沖1・馬場2・馬場・駒焼場・府金橋）、東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連調査および新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業関連調査（平成6年度～下村・上村・米沢・諏訪前・諏訪前(2)・台中平・台中平(2)）など長期間かつ大規模な調査により、県北の考古学的資料が一気に我々の目に触れることとなった。

時代ごとに代表的な遺跡を上げてみたい。縄文時代早期では、長瀬B遺跡から南部浮石層下に5棟の住居跡が検出され、早期貝殻文の土器も出土している。沢内B遺跡からも早期後半の土坑や遺物が出土し、馬立I・太田遺跡では早期以降と考えられる住居跡が16棟も検出された。この遺跡は大規模な複合遺跡で、早期の住居跡の他に時代を特定できるものだけでも中期末2棟、後期初頭～前葉27棟を検出している。

縄文時代前期では、上里遺跡や中曽根遺跡などから当時の人々の精神世界を垣間見ることができる遺構が発見されている。上里遺跡は、大型住居を持つ前期末葉～中期前葉の集落跡である。その大型住居の中の前期末葉の土坑（住居廃棄後に構築）の中から7体の人骨（成人女性2体、成人男性1体、性別不明成人1体、小児3体）がまとまって出土し、それらの骨が死因は不明なものと同時期に葬られ、「縄文時代早前期人の特質を備えたもの」という分析結果に至っている。中曽根遺跡では、縄文前期末～中期初めにかけて、石器とともにまとまった土器が出土しており、人為的と見られ何らかの祭祀遺構と考えられている。市教委で調査した隣接している中曽根Ⅱ遺跡でも前期初頭の住居跡が検出されている。

縄文時代中期になると、上村遺跡・下村B遺跡・荒谷A遺跡、下村遺跡など隣接した地域から中期の遺構・遺物が発見されており、この地域が縄文時代中期後半に比較的大きな規模で集落が形成されていたことがわかる。荒谷A遺跡では円筒上層e、大木8b式、9式期と考えられる住居および配石遺構が、下村B遺跡では中期後半の住居跡、配石遺構が検出されている。

縄文時代後期では、安比川支流沢内川西岸の段丘上に立地している馬立Ⅰ・Ⅱ遺跡がある。この遺跡は、縄文中期末葉～後期の集落跡で、後期初頭の狩猟文土器が出土したことで知られる。

縄文時代晩期では、既述の今回調査した川口Ⅰ遺跡の対岸に位置する雨滝遺跡が知られている。遺構は検出してないが、橋場遺跡（九戸城跡）からも晩期の遺物が出土している。

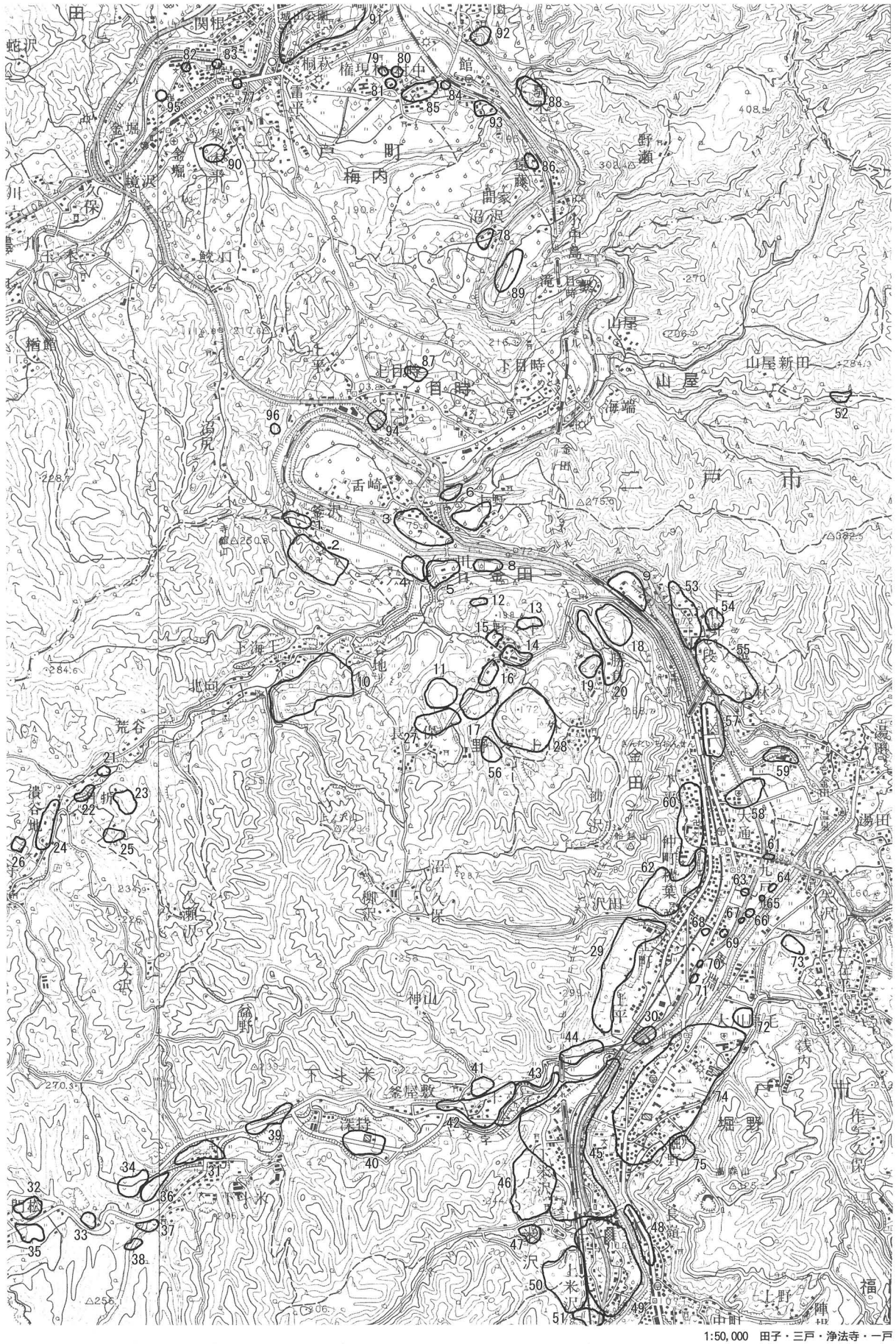
弥生時代の遺構・遺物が出土する遺跡はあまり多くない。当遺跡の川口Ⅰ遺跡も弥生土器を出土する遺跡とされているが、昨年度の調査でも今回の調査でも弥生土器は見つかっていない。上田面遺跡、火行塚遺跡、大淵遺跡から弥生前期の住居跡と遺物が、上村遺跡でも弥生初頭と見られる土器が出土している。

古代・奈良・平安では堀野遺跡、中曽根Ⅱで円形周溝が見つかっている。長瀬遺跡、荒谷遺跡で8世紀の住居が検出、金田一バイパスで調査した駒焼場遺跡では集落跡、大溝が検出されている。米沢遺跡では、大型住居を含む集落跡が検出している。

中世の遺跡としては、「九戸政実の乱」の舞台となる九戸城がある。昭和10年の国指定遺跡から年を経て、平成6（1995）年から史跡公園化整備事業として行われた九戸城および隣接する在府小路遺跡の調査が継続的に行われている。東北新幹線盛岡・八戸間建設事業関連調査および新幹線二戸駅周辺地区土地区画整理事業関連調査により調査された諏訪前遺跡（一覧表一上里遺跡群）では、鎌倉時代の大規模な堀跡が検出されている。詳細は不明だが、二戸駅周辺地区では現在も調査が継続され、今後まとまった形で報告されることであろう。

近世の遺構・遺物は比較的低地の複合遺跡で検出されているが、まとまった大規模な集落跡が確認された遺跡としては、諏訪前遺跡の北方にある下村遺跡がある。詳しくは報告書を参照されたい。

当遺跡は、中央を普通自動車1台強幅の道路が横断しているが、この道路はかつて奥州街道として釜沢に続いていた道路であった。当時の様子を示す『北奥路程記』には、堀野（村）を過ぎて長瀬（橋）、金田一（村）に入り、「長寿寺」「願海庵」、矢沢（村）、小林（村）、府金（坂）、下山井（村）、そして川口（村）を越えて釜沢（村）、舌崎（村）へと続く。これらは今も字名などに残り、往事を偲ぶことができる。



第3図 周辺の遺跡位置図

第1表 周辺の遺跡表

No.	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	種別	備考
1	道の下A	釜沢字道の下	縄文	縄文土器	散布地	
2	釜沢館	釜沢字上野平	中近世	空堀、腰郭、土塁	城館跡	
3	雨滝(舌崎A)	釜沢字白山、金田一字雨滝	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	S30年代に明治大学が学術調査。
4	道の下B	釜沢字道の下	縄文	縄文土器	散布地	H4新規
5	川口I	金田一字川口	縄文	縄文土器、弥生土器、石器	散布地	H4新規
6	山道	釜沢字上野	縄文	縄文土器(晩期)	祭祀遺跡	
7	石造(舌崎B)	釜沢字上野	縄文	縄文土器(晩期)	祭祀後・散布地	
8	川口II	金田一字川口	縄文	縄文土器	散布地	H4新規
9	小野	金田一字小野	縄文	縄文土器(中期)	散布地	
10	海上館	野々上字谷地	中近世	堀切	城館跡	
11	林向	野々上字大清水、字久保	縄文	縄文土器	散布地	
12	野々上I	金田一字川口、野々上字大清水	縄文	縄文土器	散布地	
13	野々上II	野々上字寺沢、字出張	縄文	縄文土器	散布地	
14	野々上館	野々上字出張	中世	堀切	城館跡	
15	出張	野々上字出張	奈良・平安	土師器	集落跡	
16	野々上III	野々上字大清水	縄文	縄文土器	散布地	
17	仏畑	野々上字蜂ヶ平	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
18	勝負沢I	金田一字小野	奈良・平安	土師器	集落跡	
19	勝負沢II	野々上字鳥子長根	縄文	縄文土器	散布地	
20	勝負沢III	野々上字鳥子長根、字上黒	縄文	縄文土器	散布地	
21	荒谷	野々上字荒谷	縄文	縄文土器	散布地	
22	荒谷館	野々上字荒谷	中世	堀切	城館跡	
23	月折館	野々上字月折	中世	堀切・平場・空堀	城館跡	
24	濱谷地I	野々上字濱谷地	縄文	縄文土器	散布地	
25	月折	下斗米字月折	縄文・弥生	縄文土器、弥生土器	散布地	
26	濱谷地II	野々上字濱谷地	縄文	縄文土器	散布地	
27	上ノ沢I	野々上字橋場	縄文	縄文土器	散布地	
28	上ノ沢II	野々上字萩盛、字妻ノ神	縄文	縄文土器	散布地	
29	上町	金田一字上平、字新田、日ノ沢	縄文・近世	縄文土器・弓場跡	散布地	
30	上田面	金田一字上田面	縄文、弥生、古代	縄文土器(早期)、方形周溝基、住居跡、土師器、鉄製品	集落跡	S51、52県文化課が調査。S52、53岩埋文調査。二戸バイパス関連。
31	下斗米館(下館)	下斗米字寺久保、上台	中世	空堀、平場	城館跡	
32	近江平	下斗米字近江平	古代	須恵器	散布地	H4新規
33	蝦夷森	下斗米字寺久保	古代	土師器	集落跡	
34	寺久保	下斗米字寺久保	縄文・古代	縄文土器、石器、土師器	集落跡	H4新規
35	門松	下斗米字門松	縄文	縄文土器	散布地	H13岩埋文調査
36	上台	下斗米字上台	縄文	縄文土器	散布地	H4新規
37	下斗米A	下斗米字寺久保、婦子葉平	古代	土師器	散布地	
38	下斗米B	下斗米字婦子葉平	縄文	縄文土器	散布地	
39	米田平	下斗米字米田平	縄文	縄文土器	散布地	H4新規
40	上野平	下斗米字上野平、八日市、米田平	縄文・奈良・平安	縄文土器、土師器	集落跡・散布地	H7年度市調査
41	十文字	下斗米字上野平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
42	釜屋敷	下斗米字釜屋敷	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
43	細越	下斗米字細越	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
44	海老田	金田一字海老田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
45	米沢遺跡群(米沢館・エン館)	米沢字下平、長瀬、家ノ上、荒谷	縄文・古代・中世	竪穴住居跡、工房跡、土埴群	集落跡・城館跡	S47～52県文化課が調査。S62岩埋文調査。二戸バイパス関連
46	佐々木館(稲荷館)	米沢字家ノ上	縄文・古代・中世	縄文土器、土師器、堀	散布地・城館跡	
47	上平I	米沢字上平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
48	長嶺	福岡字長嶺	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
49	下村	米沢字上平、上村、下村、荒谷	縄文・弥生・古代・中近世	住居跡(前期・中期)、配石、縄文土器(早～後)、弥生土器、土師器、須恵器	集落後	S51県文化課が調査(二戸バイパス関連)、S60二戸市教委調査、H11二戸市教委調査、H8・9・12岩埋文調査

2 歴史的環境

No.	遺跡名	所在地	時代	遺構・遺物	種別	備考
50	上平Ⅲ	米沢字上平	縄文・古代	縄文土器(晩期)、土師器	散布地	
51	上平Ⅳ	米沢字上平	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
52	新田	釜沢字新田	縄文	縄文土器	散布地	H 8 新規
53	下山井	金田一字下山井	縄文	縄文土器	散布地	
54	下山井	金田一字館	中世		城館跡	
55	段ノ越	金田一字段ノ越	縄文	縄文土器	散布地	
56	山館	野々上字大館	縄文・古代	縄文土器(後・晩期)、陥し穴、堀状遺構、溝	集落地	H18新規、H18岩埋文調査
57	駒焼場	金田一字駒焼場	平安	環境集落、鏑矢	集落跡	S 57 二戸市、H 1 岩埋文調査
58	馬場	金田一字大釜、字馬場	奈良	土師器	集落跡	S 60、61 岩埋文調査
59	大釜	金田一字大釜	縄文	縄文土器(中期)	散布地	
60	秋葉	金田一字下平道ノ上、字野月	縄文	縄文土器	散布地	
61	沖	金田一字八ツ長、字沖	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	S 63・H 2 岩埋文調査
62	四戸城(金田一城)	金田一字野月、字館	中世末～近世	空堀、平場、土塁	城館跡	H13 二戸市教委調査、範囲拡大
63	八ツ長Ⅰ	金田一字八ツ長	縄文・古代	縄文土器・土師器	散布地	
64	八ツ長Ⅱ	金田一字八ツ長	縄文・古代・中世	住居跡(中世)、縄文土器、土師器	散布地	H 2 岩埋文調査
65	八ツ長Ⅲ	金田一字八ツ長	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
66	八ツ長Ⅳ	金田一字八ツ長	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
67	荒田Ⅰ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
68	荒田Ⅲ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
69	荒田Ⅱ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
70	荒田Ⅳ	金田一字荒田	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
71	上田面Ⅱ	金田一字上田面	縄文・古代	縄文土器、土師器	散布地	
72	大川原毛	堀野字大河原毛	縄文	縄文土器	散布地	
73	戸花	仁左平字戸花	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	
74	堀野遺跡群	堀野字大谷地、馬場、長地、長瀬、大畑	縄文、古墳、古代	古墳、蕨手刀、竪穴住居、配石、土師器、縄文土器	集落跡・祭祀跡・古墳	S 28、37～39 に岩手大学草間俊一らが発掘調査。H13 二戸市教委調査
75	堀野館(小四郎館)	堀野字小四郎館	中世・縄文	空堀、平場、土師器、縄文土器	城館跡・散布地	
76	横山	福岡字横山	縄文	縄文土器(晩期)	散布地	

青森県

77	八日町	青森県三戸町八日町	縄文(晩)		散布地	
78	沼の沢	青森県三戸町梅内字沼の沢	縄文(前・中)		散布地	
79	松原(1)	青森県三戸町梅内字松原	縄文(前・晩)		散布地	
80	松原(2)	青森県三戸町梅内字松原	縄文(晩)		散布地	
81	松原(3)	青森県三戸町梅内字松原	縄文(後・晩)		散布地	
82	上川原	青森県三戸町同心町字上川原	縄文(晩)		散布地	
83	熊ノ林	青森県三戸町同心町字熊ノ林	縄文(晩)		散布地	
84	村中(1)	青森県三戸町梅内字村中	縄文(前)		散布地	
85	村中(2)	青森県三戸町梅内字村中	縄文(中・後)		散布地	
86	遠藤	青森県三戸町梅内字遠藤	縄文(前・中)		散布地	
87	目時中平	青森県三戸町目時中平	縄文(前・中)		散布地	
88	駒木	青森県三戸町梅内字駒木	縄文(後)		散布地	
89	湯出川原	青森県三戸町梅内字湯出川原	縄文(後)・平安		散布地	
90	(梅内)中平	青森県三戸町梅内字中平	縄文(晩)		散布地	
91	三戸城跡	青森県三戸町梅内字城の下	中世		館跡	
92	泉山館跡	青森県三戸町泉山字矢吹沢	中世		館跡	
93	梅内館跡	青森県三戸町梅内字館	中世		館跡	
94	目時館跡	青森県三戸町目時館の下	中世		館跡	
95	金堀館跡	青森県三戸町同心町字金堀	中世		館跡	
96	駕籠立場一里塚	青森県三戸町梅内字大反前田	近世		一里塚	



## 3 基本層序

川口 I 遺跡は、馬淵川にかかる豊年橋を渡ってまもなくの上斗米金田一線を含む一段高い段丘面突端部分が範囲である。昨年度の第 1 次調査では遺跡の東端部分の調査が行われ、今年度は昨年度の隣地を含む遺跡のほぼ中央を東西に横断する範囲で調査が行われた。前述したように、この遺跡は十和田南部浮石粒以上の十和田系火山灰を載せており、昨年度同様今年度も各火山灰の確認ができた。段丘の突端部ということもあり場所によって若干の相違が見られるが、基本的には以下のとおりである。

- I 10YR 2/2 黒褐色土主体 粘性弱 しまり弱 十和田 a 降下火山灰粒、十和田 b 降下火山灰粒、南部浮石粒混合土（表土・盛土）
- II a 10YR 4/4 褐色火山灰 部分的に10YR 7/1～2.5Y 8/2 灰白色火山灰 粘性弱 しまり疎 十和田 a 降下火山灰層①……検出面 1
- II b 10YR 6/4 にぶい黄褐色火山灰 やや粉質 粘性弱 しまり疎 十和田 a 降下火山灰層②
- III 10YR 5/6 黄褐色 しまり中 粘性中～やや強 黄褐色火山灰粒（南部浮石粒？）径 3～10 mm 30～40% 含む
- IV 10YR 1.7/1 黒色土 粘性中 しまりやや中 十和田 b 降下火山灰粒径 1～5 mm 10～30% 含む 十和田 b 降下火山灰層……検出面 2
- V 10YR 1.7/1 黒色土 粘性中 しまり中 十和田 b 降下火山灰粒径 1～5 mm 10% 含む（十和田 b 降下火山灰～十和田中撤火山灰漸移層）
- VI 10YR 2/1 黒色土主体 粘性弱 しまり中 十和田中撤火山灰粒径 1 mm～1 cm 2～5% 含む 十和田中撤火山灰層①（漸移層）
- VII a 10YR 4/3 にぶい黄褐色土 やや砂質 粘性弱 しまりやや密 VII b 層ブロック含むところもあり 十和田中撤火山灰層……検出面 3
- VII b 2.5Y 4/3 オリーブ褐色土 粘性弱 しまり極めて密（十和田中撤火山灰固塊層）
- VII c 7.5YR 5/4 にぶい褐色砂質土・2.5Y 4/3 オリーブ褐色砂質土・砂（1～3 mm）との混合層状堆積層（十和田中撤火山灰層 砂層～シルト層） 粘性なし しまり密
- VII d 2.5Y 7/4 浅黄色および 2.5Y 6/3～6/4 にぶい黄色砂との混合砂層 径 1～3 mm 粘性弱 しまり中（十和田中撤火山灰純層）
- VII e 5YR 3/6 暗赤褐色砂と 5YR 5/2 灰褐色砂との混合砂 粘性弱 しまり所々密……検出面 4
- VIII 10YR 2/1 黒色土 しまりやや密 粘性やや強 南部浮石粒 径 1～20 mm 20% 含む 下位ほど多い（十和田中撤火山灰層～南部浮石層漸移層①）
- IX 10YR 2/2 黒褐色土 粘性中 しまりやや弱 ゴロタ粒径 1～5 mm 50% 含む（十和田中撤火山灰層～南部浮石層漸移層②）
- X 7.5YR 4/4～4/6 褐色土 径 1 mm～5 cm（南部浮石層）
- XI 10YR 5/1～7.5YR 2/1 褐灰色粘質シルト～黒色シルト しまり密 粘性強 漸移層
- XII a 10YR 3/1～4/1 黒褐色～褐灰色粘土 しまり密 粘性強
- XII b 10YR 5/1～6/1 褐灰色粘土 しまりやや密 粘性強 若干砂質（上層に比べて粒子が粗い） A区では下位ほど八戸火山灰に相当する礫を多量に含む
- XII c 10YR 5/3 にぶい黄褐色土 砂質土 粘性中 しまり中 ところどころ酸化あり 一部砂

礫および湧水あり

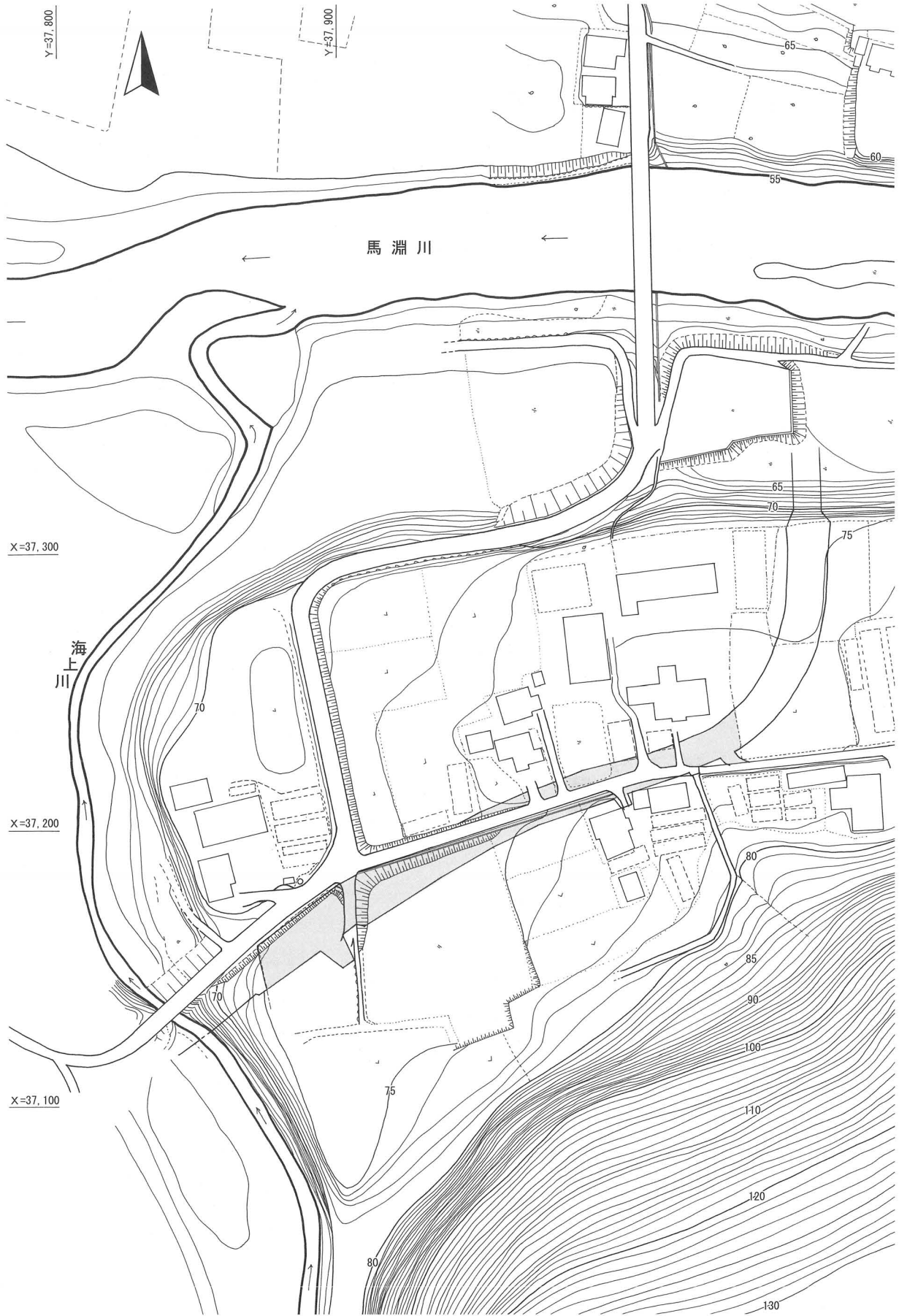
### XIII 礫層 部分的に10Y R 6/3 にぶい黄橙色砂層

今年度調査区は東西に細長くしかも生活用道路に区切られるため、任意的に西側からA～F区と名付けた。その中でB区での盛土（I層）が大変厚く、西に向かって徐々に厚くなりB区中央部で1 m 50cm、西端になるとさらに30cmほど厚さを増す。昨年の調査区でも十和田 a 降下火山灰と思われる白色火山灰層を上層として、十和田 b 降下火山灰、十和田中礫火山灰、南部浮石層と堆積している。しかし、B区の中央部から東の調査区全体においてみられる十和田 a 降下火山灰と十和田 b 降下火山灰との間にある南部浮石層の存在は異なる点である。分析の結果、白色火山灰は十和田 a 降下火山灰また白頭山苦小牧テフラであり、その下層の黄色火山灰は十和田南部浮石層の再堆積であることがわかった。堆積状況および広範囲におよぶことから、人為的と断定するには微妙であり、十和田 a 降下火山灰が降下する以前に周辺の地変があった可能性を示している。

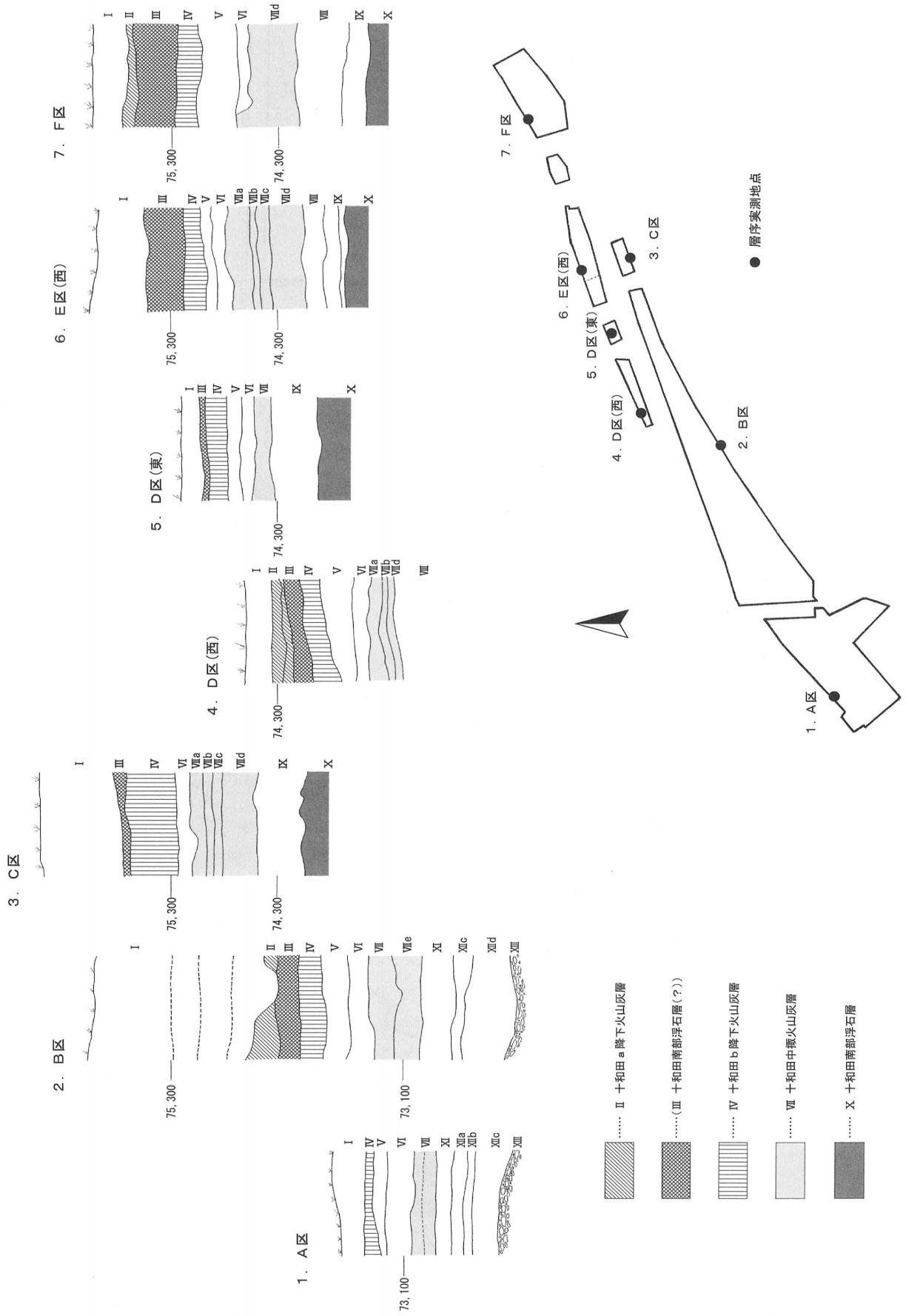
検出面は昨年も遺構の検出された十和田 a 降下火山灰面、十和田中礫火山灰面の他、確認作業として、十和田 b 降下火山灰面、十和田中礫火山灰下（十和田中礫火山灰～南部浮石層漸移層）も加えた。十和田 a 降下火山灰面では、中近世の遺構・遺物が、十和田中礫火山灰面では、主に縄文時代後期の遺構・遺物が検出した。十和田中礫火山灰層を取り除いた下層においては、今年度調査区からは遺構・遺物は全く見つからなかった。

## 参考文献

- 草間俊一 1965 福岡町教育委員会 「岩手県福岡町堀野遺跡」
- 高橋信雄 昆野靖共著 1996 日本の古代遺跡51「岩手」 保育社
- 青森県教育委員会 1998 「青森県遺跡地図」
- 岩手県文化財愛護協会 2002 「読み下し文 北奥路程記」（原著 江戸時代後期 漆戸茂樹著）
- 無明舎出版 2002 「奥州街道 歴史探訪・全宿駅ガイド」
- 岩手県教育委員会 2005 「岩手県遺跡台帳」（CD-ROM版）
- 岩手日報社 2006 「詳細岩手県市町村全図 新しいMAP」
- 二戸市教育委員会 1978 「二戸市中曾根Ⅰ遺跡発掘調査報告書」
- 二戸市教育委員会 1981 「中曾根Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
- 二戸市教育委員会 1983 「橋場遺跡（九戸城跡）」
- (財)岩埋文 1977 岩手県埋文センター文化財調査報告書第1集「岩手県埋蔵文化財調査略報」
- (財)岩埋文 1978 岩手県埋文センター文化財調査報告書第7集「二戸市沢内B遺跡」
- (財)岩埋文 1981 岩手県埋文センター文化財調査報告書第23集「二戸バイパス関連上田面遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 1983 岩手県埋文センター文化財調査報告書第55集「上里遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第123集「馬立Ⅰ・Ⅱ遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 1996 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第266集「岩手県埋蔵文化財調査略報」
- (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第323集「下村遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 2001 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第394集「諏訪前遺跡発掘調査報告書」
- (財)岩埋文 2006 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第477集「上野場3遺跡発掘調査報告書」



第4図 調査範囲と周辺の地形



第5图 基本層序

### Ⅲ 野外調査と室内整理の方法

#### 1 野外調査

##### (1) グリッドの設定

グリッドの設定は昨年度の調査に合わせて、日本測地系を用いた。調査区は、座標軸北に沿って10×10mを大グリッドとし、東西をA～S、南北をI～Ⅺとした。その中を2×2mの小グリッドとして25分割し、北西から1～25とした。記載については大グリッドと小グリッドを組み合わせてVII F 25などと表示した。

各基準点打設は有限会社下斗米測量設計に委託し、成果値と杭高（標高＝H）は次の通りである。また各地点の世界測地系値は、（ ）で示した。

基 1	X=37,150.000 (37456.975)	Y=37,870.000 (37571.428)	H=74.114m
基 2	X=37,185.000 (37491.974)	Y=37,928.000 (37629.426)	H=74.210m
補 1	X=37,150.000 (37456.975)	Y=37,882.000 (37583.428)	H=73.635m
補 2	X=37,185.000 (37491.974)	Y=37,916.000 (37617.426)	H=73.707m
補 3	X=37,224.000 (37530.972)	Y=38,016.000 (37717.422)	H=76.165m
補 4	X=37,224.000 (37530.972)	Y=38,030.000 (37731.422)	H=76.468m

\* 日本測地系座標値（世界測地系座標値）

##### (2) 試掘・表土除去

今年度の調査区は東西に長く、しかも調査区の中央を公道が横断し、更に生活用道路が分断するといった細かな区域での調査を行った。そのため任意的に西側からA区→B区→C区→D区（西）→D区（東）→E区（西）→E区（東）→F区と名付け、個々に調査、遺構名をつけて進めた。

A区については、旧金田一児童館があった場所ということもあり、整地層と家屋基礎が入り込み、試掘トレンチを入れることは不可能であったため、生文課試掘結果を頼りに重機による整地層剥ぎ及び家屋基礎除去を行った。除去作業により周辺の土まで一緒に取り上げる危険性のある場所については、手作業にて進めた。逆に地山と思われる層位まで基礎が達し、取り除くには周辺に大きな攪乱の影響があり、なおかつ手作業では到底無理な場合には、そのまま基礎を残すこととした。

調査面積の最も広いB区については、生文課試掘資料により50cmを超す厚い盛土が確認されていたため、当初より重機による表土除去を行った。しかし、実際は更に盛土が堆積しており、検出面を確認しながらの表土除去を行った。他の調査区では、先の2箇所の調査区よりも狭いため、遺構を傷つけないよう手作業でと考えたが、試掘トレンチの結果いずれの調査区からも厚い盛土が確認できたため、それぞれ作業効率から重機を入れての表土除去を行った。

##### (3) 遺構の検出と精査

当初は、全調査区とも昨年度の調査および生文課の試掘資料により、十和田 a 降下火山灰面と十和田中坳火山灰面（上面）と2面を遺構検出面と認識し調査を始めた。しかし、A区B区の表土除去状況などから、2面の他に、十和田 b 降下火山灰面（遺物包含層）と十和田中坳火山灰層下の2面も含

## 1 野外調査

めて、計4面の遺構検出確認を行った。各調査区、層序ごとに掘り下げを行い、遺構検出とともに遺物取り上げを行った。

遺構名については、調査状況から調査効率や混同を妨げるなどの観点により、調査区ごとにつけた。また、室内整理を調査と並行して実施した理由により、整理が混乱しないようにそのまま（調査時）の遺構名で掲載した。欠落した遺構名は調査途中また終了時において、現代のものと判断し、外したものである。

記録に必要な図面は、光波トランシットを用いて行った。図面の縮尺は20分の1を基本として平面図と断面図を作成した。

写真撮影は、精査の段階ごとに撮影し、メインカメラとして、今回は試験的にデジタルカメラ（キャノンEOS 5D1280万画素）を使用した。また、記録保存用として中判カメラ（6×9cm判モノクロ）、35mmカメラ（モノクロ）各1台ずつを使用した。遺跡全体および遺跡周辺の空撮は委託撮影とし、調査終盤に小型飛行機により6×7cm判（モノクロ・カラー）での撮影を行った。

## 2 室内整理

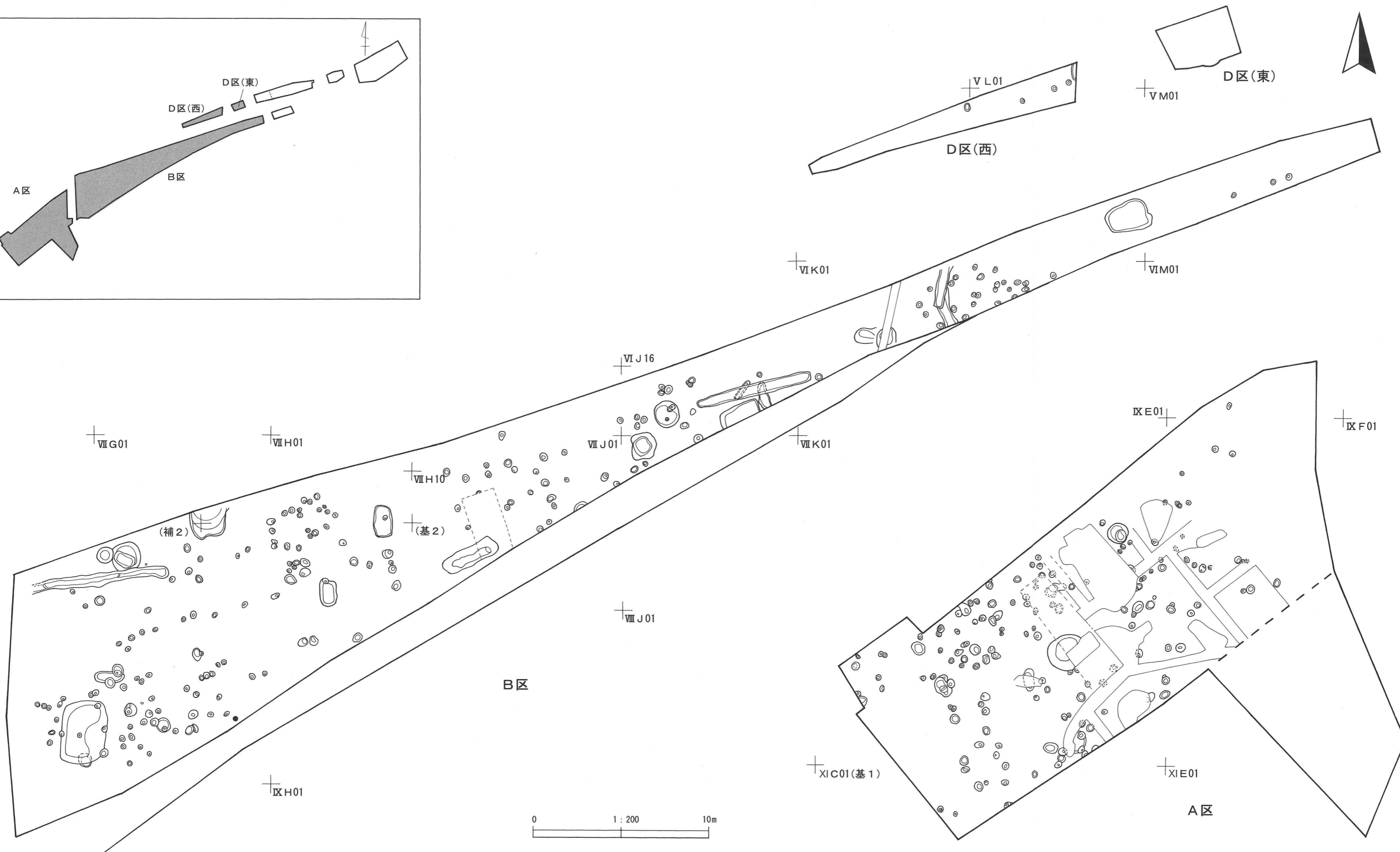
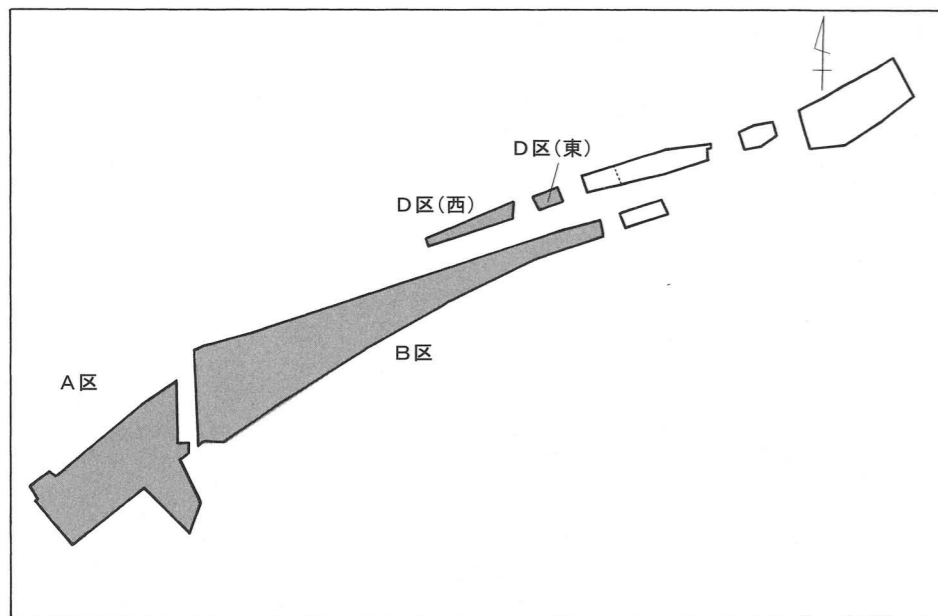
図面の点検、遺物の洗浄・接合・復元、写真の整理は、原則として野外調査と並行して行うことにしたが、写真整理の一部は野外終了後に行った。

遺構図面は、点検後に第2原図を作成した。挿図中の縮尺は60分の1を原則とし、任意の縮尺についてはそれぞれスケールを付している。掲載にあたっては、調査区を優先としてその後遺構ごととした。遺物は、洗浄後全出土遺物を点検し、遺構内外に分けて登録し、注記・接合・復元を行った。その後、掲載遺物を選択し、写真撮影・実測・トレース・図版作成と作業を進めた。

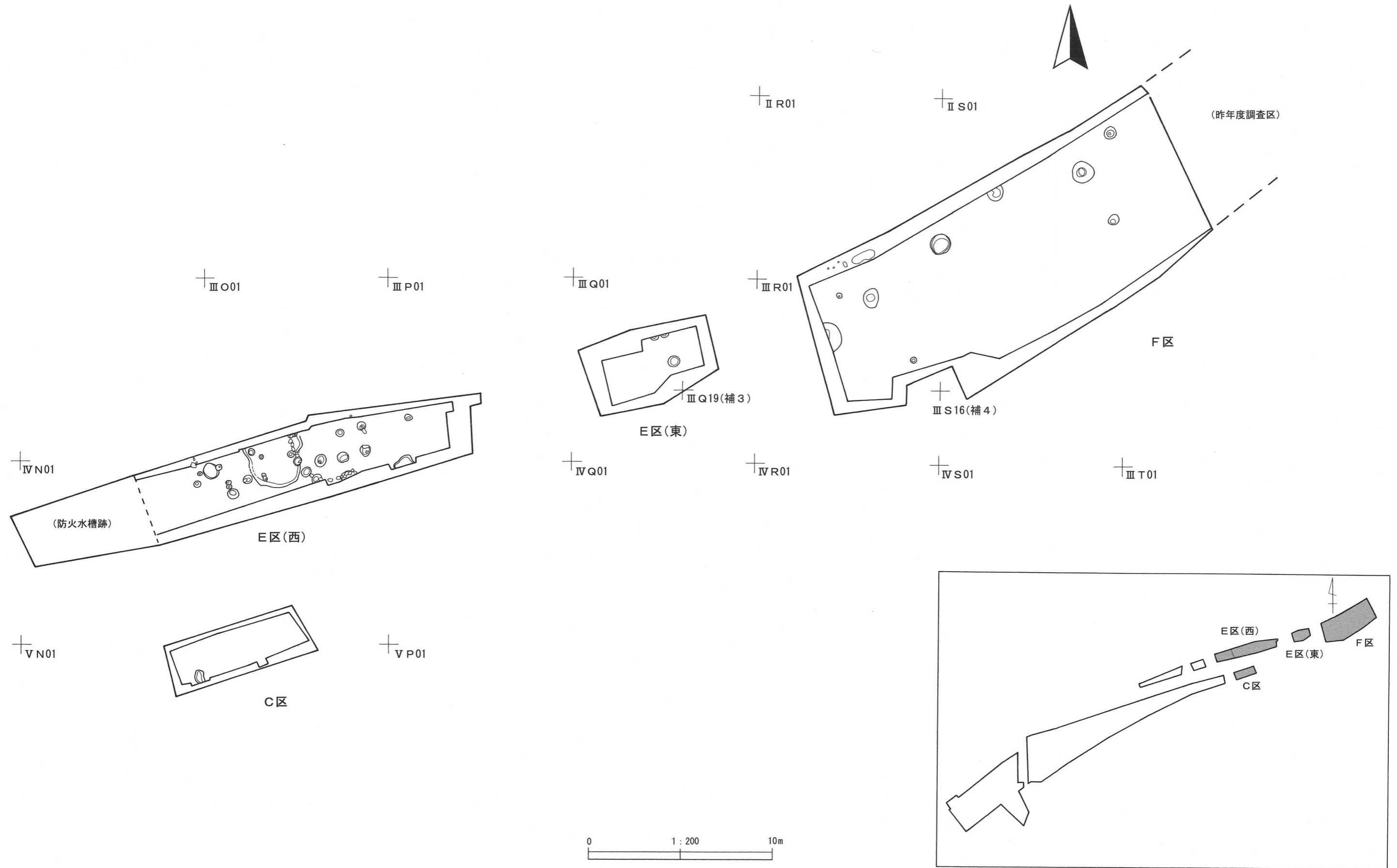
報告書に掲載した遺物の選択基準は、土器が、接合復元で実測可能になった大部分、口縁部と胴部資料は文様の明瞭なものを優先し、底部資料は出土数も少ないため実測可能なものをなるべく掲載した。また、破片資料についても、遺構埋土からの出土はなるべく掲載した。陶磁器類は、現代攪乱以外からの出土で、近世以前に関わるものは掲載した（一部写真のみ）。石器は、加工されたものはすべて掲載した。比較資料としたもので写真のみ掲載したものもある。

挿図中の縮尺は、土器類3分の1、石器類2分の1を原則としているが、任意の縮尺については各図版中に記してある。

野外調査中に撮影した写真は、モノクロはフィルムの規格ごとにネガアルバムに整理した。遺物は、報告書記載のもので立体遺物、陶磁器類、石器はキャノンEOS 1D（1670万画素）で、破片資料はキャノンEOS 5D（1280万画素）で撮影し、当センター職員が行った。遺構写真と同様に、RAWモード撮影を行い、当センター設置のハードディスクに遺跡名・遺構名・登録番号をつけ保存した。写真図版中の縮尺については、小破片遺物が多いため、見やすくするため任意で掲載した。実測図版を参照していただきたい。なお、図版中の遺物番号と写真図版中の遺物番号は一致している。



第6図 遺構配置図(1)



第7図 遺構配置図(2)



## IV 検出された遺構と遺物

### 1 検出遺構

今年度の調査で検出された遺構は、全調査区合わせて、竪穴住居状遺構1棟、配石遺構1基、土坑37基、溝6条、柱穴状小土坑354個、埋設土器遺構1基である。各調査区によって遺構の出方および時期が異なっているため、調査区ごとに検出された遺構について述べることとする。なお〈規模〉の項の( )内の数字は、調査区外に伸びている遺構や攪乱のある遺構などで、全容が明らかでなく検出された部分についての測定できた数字である。

#### (1) A 区

最も西側の調査区にあたる。土坑5基、柱穴状土坑146個検出している。以前、金田一児童館があった場所で調査前は建物がない状態で砂利が敷かれ、一部駐車場として利用されていた。生文課の試掘データにより児童館建物の基礎がまだ地中に残っているということで、重機により表土掘削および基礎除去を実施した。この段階で最も西側には十和田b降下火山灰を含む黒土が残っていたが、東側になるにつれ基礎の入り方、配水管跡など攪乱が著しく、また最も東側では既に黒土の下層にあたる十和田中撤火山灰層面をも削られている状態だった。そのため検出された遺構の残存状態は良好とは言えず、検出および精査は層序的(①十和田b降下火山灰層上面②中撤火山灰上面〈漸移層〉③中撤火山灰層下面④南部浮石層〈八戸火山灰層〉)にできる範囲で進めたが、明確な時期決定に至る資料は得られなかった。

#### ①土坑

##### 1号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XD23グリッドに位置する。〈概要〉第1～2検出面で検出した。西側攪乱により全容は不明だが、南北にやや楕円形ぎみである。北東壁際と南東壁際に柱穴状小土坑2基(46×45cm、深さ56cm・48×36cm、深さ62cm)を擁する。浅い土坑で底面はほぼ平らである。

〈規模〉127×60cm 深さ17cm。 〈堆積土〉3層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉不明。

##### 2号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XC14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。柱穴状小土坑3個を擁する。同時に検出されたため一遺構にしたが、1号土坑とは異なり4基の柱穴の重複遺構の可能性もある。不整の楕円形。壁は垂直気味に立ち上がる。

〈規模〉122×112cm、深さ45cm。 〈堆積土〉4層に分層される。状況から人為堆積の可能性もある。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉不明。

##### 3号土坑(第8図、写真図版2)

〈位置〉XD07グリッド、XD08グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出され、東側は攪乱

## 1 検出遺構

を受けていた。P39に切られる。平面形はやや楕円形。断面形はすり鉢形。底面はほぼ平らである。  
〈規模〉215×197cm、深さ53cm。〈堆積土〉9層に分層される。一部攪乱の影響からかレンズ状に堆積していないが、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉撚糸文を施した縄文土器片（胴下部）が1点出土している（1）。〈時期〉縄文土器は出土しているが、攪乱も受けているため、不明である。

### 4号土坑（第8図、写真図版3）

〈位置〉XC08グリッド、XC09グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉84×73cm、深さ18cm。〈堆積土〉2層に分層され、レンズ状に堆積する。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉無文の縄文土器片が1点出土している（2）。

〈時期〉縄文土器は出土しているが、出土層位がI層上位ということ、周辺の検出状況から積極的に縄文時代とは言い難い。

### 5号土坑（第8図、写真図版3）

〈位置〉IXD19グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状を呈する。南西側をP13に切られる。

〈規模〉122×120cm、深さ23cm。〈堆積土〉3層に分層される。レンズ状に堆積。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

## ②柱穴状土坑（第9図、写真図版3）

146個の検出のうち、第1検出面では52個、第2検出面では67個、第3検出面では27個の検出である。ただし第1検出面といっても、A区南西側はすでに削平により十和田中礫火山灰層面が露出していることもあり、時期差は確実とは言えない。またいくつか重複しているものもあり、時期差があるものの、同検出面から縄文土器、土師器、近世陶磁器（いずれも破片）などが出土しているため、不明である。いくつかの建物跡になると思われる、間尺、方向性などから検討してみたが、掘立柱建物に組むことはできなかった。P11・P13から土器片（3・4）がそれぞれ出土している。No.3は地紋の縄文が施されているが、No.4については、文様がなく底部破片のため縄文土器か土師器なのか判断しにくい。

## (2) B 区

調査区中央のもっとも範囲の広い調査区である。現況は畑と水田である。土坑19基、溝5条、埋設土器1基、柱穴状土坑183個が検出した。基本層序にも示したとおり、水田であったところは厚い盛土に覆われ最厚で2m近くも盛られていた。その盛土の下からは、現代の遺物であるビニールからガラス製品、近世陶磁器などが出土しており、周辺の住人からの話からも戦前くらいまではもとの地形を残していたようである。検出面は、十和田a降下火山灰と思われる面を第1検出面、十和田b降下火山灰層面を取り除いた面を第2検出面、確認のため十和田中礫火山灰層を取り除いた面（南部浮石層上面もしくは八戸火山灰層上面）を第3検出面として精査した。

## ①土坑

## 2号土坑（第10図、写真図版4）

〈位置〉VL20グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面であるが、この周辺は現耕作土を剥ぐとIV層上面となる。黒色土の地山に対し、黒褐色土の埋土で検出された。隅丸の長方形をなし、大変浅いが、底部はIV層下のVII層（十和田中樞火山灰層）が顔を出している。周辺には現代と見られる遺構（生活跡）がいくつかあった。当遺構もその類と思われたが、決定的な証拠となるものが出土せず、土坑として登録した。

〈規模〉241×183cm、深さ31cm。 〈堆積土〉5層に分層される。有機物の腐食したような土の堆積もあり、人為的な堆積と考えられる。

〈出土遺物〉縄文土器（5・6・7）、寛永通宝2点が出土している。 〈時期〉縄文土器は出土しているが、検出状況、埋土状況から近世以降～近現代の新しい遺構と思われる。

## 5号土坑（第10図、写真図版4）

〈位置〉VIK13グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面（第2）で検出した。2号土坑と同様、耕作土を剥ぐとIV層となる。埋土は黒色土で、火山灰粒などはほとんど含まない。中央部は用水路のパイプによる攪乱と南側は調査区外へ伸びるために、全容は明らかではないが、推測として平面形は円形を呈すると考えられる。断面形は残存部分からすり鉢状となる。

〈規模〉(111)×(96cm)、深さ(36cm)。 〈堆積土〉4層に分層される。上部は人為的な部分も見られるが、自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉土師器甕破片1点が出土している（8）。

〈時期〉周辺の現代と見られる遺構とは明らかに違う埋土であり古いと思われるが、検出状況や遺物出土から断定するには至らない。

## 6号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VIJ23・24グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。南側が調査区外に伸びるため全容は不明である。検出できた部分での推測では、2号土坑と同様である隅丸の長方形を呈し、断面形はすり鉢状である。精査段階で北西部分を掘りすぎてしまった。

〈規模〉234×(90cm)、深さ(22cm)。 〈堆積土〉5層に分層される。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉近世陶磁器碗1点（9）が出土している。

〈時期〉近世の可能性が高い。

## 7号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VIIJ01グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。8号土坑とともに、B区調査区第1層を重機で掘り下げたときから検出していた土坑である。平面形はほぼ円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉163cm×162cm、深さ49cm。 〈堆積土〉単層である。植物痕含む。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉近世以降の新しいものと思われる。

## 8号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VIJ22グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。8号土坑より北東2mに位置

## 1 検出遺構

する。底面に凹凸があり木根痕の可能性もある。柱穴状土坑（？）4個擁する。平面形はほぼ円形。断面形は浅いビーカー状を呈する。

〈規模〉158×148cm、深さ28cm。柱穴状土坑 径約50cm。〈堆積土〉3層に分層される。自然堆積か。〈出土遺物〉なし。 〈時期〉7号土坑同様新しい遺構と思われる。

### 9号土坑（第10図、写真図版5）

〈位置〉VII I 14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。T o - a層を切って構築される。南側調査区外に伸びる。残存部では平面形は円形であるが、ごく一部のため断定できない。断面形はややフラスコ状になる。

〈規模〉(94)×(42cm)、深さ(43cm)。〈堆積土〉2層に分層される。人為堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。 〈時期〉平安時代以降。

### 10号土坑（第10図、写真図版6）

〈位置〉VII H 14グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。ただし当該遺構の周辺にはT o - a火山灰はなく、III層（南部浮石再堆積層？）での検出となる。柱穴状土坑1個を擁する。平面形は隅丸の長方形。断面形はややビーカー状を呈し、底面は平らである。

〈規模〉180×104cm、深さ21cm。 〈堆積土〉単層である。ただしところどころ被熱した礫を伴う。炭化物はない。〈出土遺物〉なし。 〈時期〉不明。

### 11号土坑（第10図、写真図版6）

〈位置〉VII H 23グリッドに位置する。10号土坑より南東に5mにある。

〈概要〉第1検出面。10号土坑と検出面は同じ。P 124に切られる。平面形は隅丸の長方形。断面形はすり鉢状であるが、底面中央部は平らになる。10号土坑よりも若干小規模であるが、どちらも長軸を真北に持つなど検出状況、形、埋土など類似している。

〈規模〉163×96cm、深さ22cm。

〈堆積土〉3層に分層される。〈出土遺物〉なし。 〈時期〉不明。

### 12号土坑（第11図、写真図版6）

〈位置〉VIII F 15・VIII F 20・VIII F 25グリッド付近に位置する。 〈概要〉B区最西部からの検出である。第1検出面。当遺構の周辺より近世陶磁器や釘片などが採取された。平面形は隅丸の長方形、断面形は浅いすり鉢状だが、底面は平らである。P 157・P 160・P 166・P 169に切られる。

〈規模〉359×252cm、深さ16cm。 〈堆積土〉3層に分かれる。

〈出土遺物〉縄文土器（10）、近世陶磁器（11・12）、石器（13）が出土している。

〈時期〉周辺の遺物、検出状況などから近世以降と思われる。

### 14号土坑（第11図、写真図版5）

〈位置〉VIII G 17グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出した。P 139・P 144に切られる。平面形はほぼ円形、断面形は底面の平らなすり鉢状を呈する。

〈規模〉80×79cm、深さ27cm。 〈堆積土〉単層である。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不明。

## 15号土坑（第11図、写真図版6）

〈位置〉ⅧG06グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は長楕円形、断面形はすり鉢状である。北西部に柱穴状土坑を1個擁する。

〈規模〉168×64cm、深さ18cm。〈堆積土〉単層である。一部木痕と見られる攪乱を受けている。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出面から近世以前と推測される。

## 16号土坑（第11図、写真図版7）

〈位置〉ⅧG16グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。東部壁際において17号土坑と重複しており、17号土坑よりも新しい。ほぼ円形を呈し、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉100×97cm、深さ38cm。〈堆積土〉4層に分層される。1層は植物痕多い。自然堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出面から近世以前と推測される。

## 17号土坑（第11図、写真図版7）

〈位置〉ⅧG16・17グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。南側の上層面において5号溝が作られている。西部壁際において16号土坑と重複し、16号土坑よりも古い。上端はほぼ円形を呈し、中端から下位において長方形となる。底部は平で、壁はすり鉢状に立ち上がる。精査経過では同一遺構としたが、円形の土坑と上部を削平された長方形の土坑との重複した2遺構である可能性もある。

〈規模〉182×172cm（中端～下位126×69cm）、深さ66cm（中端～下位26cm）。

〈堆積土〉13層に分層される。長方形分はほぼ同一層で一度に埋まった様子が窺える。人為堆積と思われる。〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、検出状況から縄文時代と思われる。

## 18号土坑（第11図、写真図版7）

〈位置〉ⅧF25グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。ほぼ円形を呈し、断面形はピーカー状である。

〈規模〉83×76cm、深さ26cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉詳細は不明だが、近世以前と思われる。

## 19号土坑（第11図、写真図版7）

〈位置〉ⅧI16・17グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は長楕円形、断面形はすり鉢状を呈し、北東側はより深くなる。

〈規模〉350×105cm、深さ21cm。〈堆積土〉2層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉縄文土器（14・15）が出土している。〈時期〉縄文時代か。

## 20号土坑（第12図、写真図版8）

〈位置〉ⅧG13・14グリッドに位置する。〈概要〉第1～2検出面で検出した。B区北西側は道路に向かって、ゆるく傾斜しており上層の堆積土が厚く堆積している。周辺から第2検出面として実測精査したが、第2検出面よりも上層での検出である。遺構は北側に伸びるが、北側は道路となっているため全容は明らかでない。残存状況は楕円形を呈しているが、北側（道路側）に向かって低く傾斜しており、推測しがたい。

〈規模〉(205)×(142cm)、深さ(34cm)。〈堆積土〉単層である。

## 1 検出遺構

〈出土遺物〉近世陶磁器（16・17）、寛永通宝1点が出土している。〈時期〉検出された場所、検出状態、形態などから、出土遺物と同じ近世～近代の可能性を否めない。

### 21号土坑（第12図、写真図版8）

〈位置〉VIIH07グリッドに位置する。〈概要〉同位置の上層面（第1検出面）には、P126が作られている。平面形は楕円形で、大変浅いすり鉢状に立ち上がる。遺構の約半分ほど北西側に炭化材が出土している。焼土はないが、炭化材の残存状態から窪地に投げ入れたものとは考えにくい。状況や形状などから墓壇の可能性はあるが、骨片などは見つかっていない。

〈規模〉127×104cm、深さ17cm。〈堆積土〉1層。炭化物を多く含む。

〈出土遺物〉土器は出土していないが、炭化材とともに被熱した石器（18～20）が出土している。

〈時期〉不明。

### 22号土坑（第12図、写真図版8）

〈位置〉VIJ19グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。同位置の上層（第1検出面）に2号溝が作られている。細長い陥し穴状（溝状）の形状を呈する。これ以外には似たような遺構はない。

〈規模〉130×33cm、深さ24cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から縄文時代と思われる。

### 23号土坑（第12図、写真図版9）

〈位置〉VIK12グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面。東側は用水路パイプ攪乱のため、全容は明らかでない。残存部は楕円形を呈する。断面は浅いすり鉢状である。同位置上層部（第1検出面）に5号土坑が作られている。

〈規模〉(110) × (86cm)、深さ(27cm)。〈堆積土〉2層に分層される。自然堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から縄文時代と思われる。

## ②溝状遺構

### 1号溝（第12図、写真図版9）

〈位置〉VIK05・VIK10グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面であるが、周辺では十和田a降下火山灰層がなく、Ⅲ層（南部浮石再堆積層）やⅣ層（十和田b降下火山灰層）が露出している。南側において、6号溝と重複しており、6号溝よりも新しい。6号溝よりも深く構築されており、中央部の底面がやや低く平らである。

〈規模〉234×60cm、深さ25cm。〈堆積土〉単層である。5号土坑と類似している。

〈出土遺物〉石器（316）が出土している。〈時期〉不明。

### 2号溝（第12図、写真図版9）

〈位置〉VIJ19・20・23付近に位置する。〈概要〉B区ほぼ中央の第1検出面、T o - a火山灰を切る状態で検出された。3号溝を切っている。北東→南西に向かってゆるやかに傾斜し、西側では上部が削平されて途切れている。

〈規模〉663×73cm、深さ22cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉検出状況から平安時代以降と思われる。

## 3号溝（第12図、写真図版10）

〈位置〉VI J 19・20・25グリッドに位置する。〈概要〉第1検出面で検出し、2号溝とともに確認した。2号溝に北側を切られ、南側は調査区外に伸びている。2号溝に横断された状態だが、2号溝よりも北側については、3号溝の延長部分と見られる遺構は見つからなかった。2号溝内で完結していると思われる。南側から北側に向かって若干傾斜している。

〈規模〉(158) × (165cm)、深さ22cm。〈堆積土〉3層に分かれる。〈出土遺物〉なし。

〈時期〉2号溝とともに平安時代以降と思われる。

## 5号溝（第13図、写真図版10）

〈位置〉VII F 24・25・VII G 21・22グリッド付近に位置する。〈概要〉B区の最西部において第1検出面で検出した。ほりこみの形状は不定形で、底面も一方に傾斜するような安定した掘られ方をしていない。中央部がやや深くなり、ところどころ起伏を繰り返す。西側に続く様子が見られるが、調査区西側は道路によって分断されており、確認できなかった。

〈規模〉(770) × (85~60cm)、深さ(48cm)。〈堆積土〉4層に分かれる。最も残りの良い深さのある場所での確認であり、浅いところでは2層までしかない。

〈出土遺物〉土師器甕片(23)が出土している。〈時期〉土師器片は出土しているものの、検出場所が道路に大変近いこと、周辺から現代のものも含んだ攪乱部分もあり、近世の可能性が高い。

## 6号溝（第12図、写真図版10）

〈位置〉VI K 10グリッドに位置する。

〈概要〉第1検出面。1号溝とともに確認された。1号溝よりも古い。北側を1号溝によって切られ、南側は調査区外で更に伸びるとと思われる。道路側(1号溝側)に向かって若干傾斜する。

〈規模〉(228) × (60cm)、深さ(30cm)。〈堆積土〉3層に分かれる。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉不明。

## ③埋設土器遺構（第13図、写真図版11）

〈位置〉VIII G 14・15グリッドに位置する。〈概要〉B区西寄りの南側壁(調査区法面)にて検出した。十和田b降下火山灰層を下げ、第2検出面調査の際、南側法面に土器口縁部の一部が出土しており、精査段階で埋設土器と確認した。十和田b降下火山灰層と十和田中撤火山灰層との漸移層で掘り込まれている。土器よりも周辺をやや大きめに掘り込み(深さは土器とほぼ同じ)をし、正位状態で土器を設置している。底部穿孔はなかった。土器内埋土は洗浄の結果、何も見つけることはできなかった。当該遺構の周辺ではこの遺構に関連するような遺構は見つかっていない。

〈規模〉掘り込み規模(43) × (33cm)、深さ45cm。〈堆積土〉土器内5層に分層された。底部近くの埋土は上部よりも粘性が強かった。骨片など土以外のものは見つからなかった。

〈遺物〉No.22。頸部から口縁部にかけてやや外反する深鉢である。器高は36cm強である。口縁部1/2ほどが欠損している。底部は円形だが、胴部から口縁部にかけてやや楕円形に作られている。肩上部から胴下部まで網目状撚糸文、胴下部から底部まではヨコナデ調整が施される。胴部においても縄文が施された後、ヨコナデなどの調整痕が若干見られる。スス付着が内外面にみられ、とくに外面にはふきこぼれ痕が幾筋もあり、その部分を拭いたような摩耗痕(縄文が擦れて消えかかっている)も確認できる。転用されたものか。〈時期〉縄文時代後期前半である。

#### ④柱穴状土坑（第13・14図、写真図版第11図）

B区では183個検出した。ほとんどは第1検出面での検出である。前述したように、この地は戦前まで屋敷が建っていたらしいという話を裏付けるように、柱穴状土坑の検出された周辺では縄文土器片をはじめ、近世近代～現代の陶磁器類、ガラス類などが見つかっている。B区東側VIK09～VII L01グリッド周辺、中央部VII I 01～VII I 04グリッド周辺、西側VII H11～VII H12グリッド周辺、VIII G06～VIII G09グリッド周辺に集中して遺構が見られる。VII H11～VII H12グリッド周辺のものは規模からみて小屋のような小規模の建物、それ以外は母屋のような建物の可能性が高い。ただしA区と同様、掘立柱建物跡は立たなかった。

遺物は柱穴状土坑の埋土中から、縄文土器（掲載26・27）、近世陶磁器片、ガラス片、石器（掲載110）が出土している。この遺構に関わるとされる周辺からの出土遺物は遺構外出土として別に掲載している。

### (3) C 区

C区は、調査区の横断する道路よりも南側、最東に位置する調査区である。現況は民家の庭になっており、草木が植樹されていた。この地も、十和田b降下火山灰層面までは盛土がなされ、十和田b降下火山灰直上では南部浮石粒らしきものがある範囲を持って占めていた。このことはB区同様である。十和田a降下火山灰は確認できなかった。遺物が集中して出土したのは、十和田b降下火山灰層である。検出した遺構は土坑1基のみで、この層の下から検出した。

#### ①土坑

##### 1号土坑（第15図、写真図版12）

〈位置〉VN05グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面（T o - C u層上面）での検出である。埋土底部に固塊ブロックが混じってくる。南側は調査区外に伸びている。平面形は不定形、断面はすり鉢状である。

〈規模〉(73) × (50cm)、深さ18cm。 〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし 〈時期〉検出面から縄文時代と思われる。

### (4) D 区（西）

横断している道路よりも北側にあり、最西に位置する調査区である。現況は庭兼畑で、野菜の他に草花が植えられている。民家入り口ということもあり、細長く狭い調査でほとんど手作業による掘り下げを行った。十和田中撤火山灰層面で東側から西側に向かって徐々に深くなっており、道路際ということもあり、安全上南部浮石層まで下げることはできなかった。十和田中撤火山灰の傾斜に合わせて十和田b降下火山灰層（漸移層も含む）も堆積しており、盛土によってほぼ同調査区は平坦にされる。そのため西側はより厚い盛土となっていた。土器は中央部からやや東寄りの十和田b降下火山灰層上面にて集中して出土した。十和田a降下火山灰は確認できなかったため、十和田b降下火山灰上面（第1検出面）、十和田中撤火山灰層面（第2検出面）をそれぞれ検出面として精査した。溝1条、柱穴状土坑3個が検出している。いずれも民家入り口寄りである。



## ①溝状遺構

## 1号溝（第15図、写真図版13）

〈位置〉IV L23グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面で検出し、調査区外（民家入口道路）に伸びており、全容は不明。

〈規模〉(96) × (23cm)、深さ18cm。 〈堆積土〉単層

〈出土遺物〉なし 〈時期〉第2検出面ながら、検出位置的に上面を削平されている可能性が高く、不明である。

## ②柱穴状土坑（第15図、写真図版13）

1号溝と同様の第2検出面にて、4個の柱穴状土坑を確認した。3個は一直線上に並び、建物跡の一部と考えられるが、狭い調査区であり建物本体のほとんどは調査区外にあるものと思われる。

## (5) D 区（東）（写真図版13）

民家入口道路を挟んで、D区（西）の東側に位置する大変狭い調査区である。北東側には井戸が掘られ、削平及び攪乱を確認した。基本層序は他調査区とほとんど変わらない。遺構・遺物は確認されなかった。

## (6) E 区（東）

民家入口道路に挟まれた小範囲の調査区である。基本層序はF区同様である。盛土が厚く堆積しており、重機による表土剥ぎ、検出面掘り下げを行った。IV層で縄文土器が出土したが、遺構はなかった。VII層（T o - C u層）上面で土坑1基、柱穴状土坑2基を検出した。

## ①土坑

## 1号土坑（第15図、写真図版14）

〈位置〉III Q13グリッドに位置する。〈概要〉中礫火山灰層（第2検出面）にて検出されたものである。周辺は中礫火山灰純層（砂層）で、上端がもろかった。平面形はやや円形、断面形はややすり鉢形状である。

〈規模〉60×59cm、深さ22cm。 〈堆積土〉2層に分かれる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代（後期前半～）と考えられる。

## ②柱穴状土坑（第15図、写真図版14）

1号土坑と同じ面での検出である。2個検出した。北側を壁（北側法面）により遮られているため、全容は不明である。

## (7) E 区（西）

横断する道路を挟んで、C区の北側に位置する調査区である。西側3分の1は、調査前に防火水槽があった場所で、4～5mは掘っていたという。重機で確認できるところまで下げたが、砂利、礫が

## 1 検出遺構

続き、安全上途中で断念した。残り3分の2からは十和田b降下火山灰層下（漸移層～十和田中礫火山灰面―第2検出面）より、配石遺構1基、竪穴住居状遺構1棟、土坑5基、柱穴状土坑17個を重複する状態で検出した。遺物は縄文時代後期前半の土器が中心に出土した。道路を挟んで10m弱の南側のC区からは当調査区に関わるような遺構が全く見つからず、等高線などから検討してもE区（西）よりも北側に更に遺構が広がっていることが推測される。

### ①竪穴住居状遺構（第15図、写真図版15）

〈位置〉Ⅲ〇22～23、Ⅳ〇02～03グリッド付近に位置する。

〈概要〉第2検出面。配石遺構、P06、P07、P08、P17と重複する。いずれの遺構よりも古い。柱穴状ピット4個を擁する。調査区外の北側に遺構は伸びており、全容は不明である。焼土等炉は確認できなかった。先の重複遺構のためか平面形はやや楕円形ながら不定形を呈する。壁は緩やかに立ち上がる部分、垂直に立ち上がる部分と様々である。床は中礫火山灰層の固塊層上面を利用しており、大変固く締まり、ほぼ平坦である。

〈規模〉(310) × (268cm)、深さ30cm。 〈堆積土〉18層に分層される。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉埋土中位～上位にかけて縄文時代後期前半の土器片(33～51)、石器(54～56)、土器片円板(52・53)、円盤状石製品(57)が出土している。また、東西ベルト上位で琥珀片が出土した。加工は見られず、小片である。琥珀片の分析結果については後記している。柱穴状土坑(p p 01)からは、縄文土器(49)が出土している。 〈時期〉検出面、遺物から縄文時代後期(前半)と思われる。

### ②土坑

#### 1号土坑（第16図、写真図版17）

〈位置〉Ⅳ〇01グリッドに位置する。 〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、断面形はすり鉢状である。

〈規模〉56×55cm、深さ21cm。 〈堆積土〉単層である。 〈出土遺物〉なし。

〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 2号土坑（第16図、写真図版17）

〈位置〉Ⅳ〇01グリッドに位置する。 〈概要〉第2検出面で検出し、P03に切られている。平面形はほぼ円形、断面形は一部フラスコ状を呈する。掘り込み面、底面の様子から竪穴住居状遺構と同時期に存在した可能性が高い。

〈規模〉88×80cm、深さ56cm。 〈堆積土〉4層に分かれる。自然堆積とは言い難い。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 3号土坑（第16図、写真図版17）

〈位置〉Ⅲ〇24グリッドに位置する。 〈概要〉第2検出面で検出した。平面形は円形、中端にて柱穴状に下がる。断面形は段差を持つすり鉢状である。

〈規模〉69×60cm、深さ32cm。 〈堆積土〉3層に分かれる。人為的と思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 4号土坑（第16図、写真図版17）

〈位置〉IVO04・IVO05グリッドに位置する。〈概要〉南側が調査区外（現道路下）に伸びるため、全容は不明である。配石遺構の石除去後に検出した。平面形は残存部でやや円形、断面形は一部フラスコ状になる。

〈規模〉(93) × (41cm)、深さ30cm。〈堆積土〉5層に分かれる。自然堆積か。

〈出土遺物〉縄文土器（58～60）が出土している。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 5号土坑（第16図、写真図版18）

〈位置〉IVP01グリッドに位置する。〈概要〉4号土坑の西側にあり、同様に南側部分が調査区外に伸びており全容は不明である。平面形、断面形とも4号土坑に類似している。

〈規模〉(106) × (55cm)、深さ27cm。〈堆積土〉3層に分かれる。自然堆積か。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## ③配石遺構（第16図、写真図版16）

〈位置〉III023～25、IVO03～05グリッドに位置する。

〈概要〉第2検出面。十和田b降下火山灰層直下にて検出した。4m10cm～4m30cmほどのほぼ円形を呈する小環状列石である。20～34cmほどの人頭大の礫が円形になるように並べられている。全体の約2分の1の礫が確認できた。北側は調査区外に伸びている。礫の中央に掘り込みなど別施設はない。当遺構の周辺に同じ高さ（出土面）でいくつかの礫が見つかったが、この列石に伴うものと見ていいと考えられる。この配石を取り除いた状態で柱穴状土坑、住居状遺構が見つかった。

〈規模〉430×410cm（径）。〈出土遺物〉同じ面より、縄文土器（28～32）が出土している。特に29は、鋸歯状の刻みが口唇部にめぐる切断蓋付土器片（壺）である。受け口部分の破片と蓋部分の破片とは文様が合い、同一個体のものと見られる。〈時期〉縄文時代後期前半と思われる。

## ④柱穴状土坑

## 1号～5号柱穴状土坑（第18図、写真図版19）

いずれも住居状遺構よりも西側に位置し、十和田中礫火山灰層上面で検出した。1号柱穴状土坑は2号柱穴状土坑と重複し、1号柱穴状土坑のほうが新しい。3号柱穴状土坑は、2号土坑を切っている。1号～4号柱穴状土坑は、3号柱穴状土坑のみやや深さはあるが、底面レベル値、形状などほぼ同じような掘り方がなされる。5号柱穴状土坑はそれと比べ87cmの深さであり、底面レベル値、形状などから住居状遺構～配石の位置に検出された柱穴状土坑類と関わる可能性が高い。これらの柱穴状土坑は縄文時代後期前半と考えられる。

## 6号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉III023グリッドに位置する。〈概要〉第2検出面での検出である。住居状遺構および住居状遺構に伴うpp04を切る。調査区北壁に検出し、2分の1のみ確認できた。

〈規模〉(37) × (18cm)、深さ82cm。〈堆積土〉単層である。堅穴住居状遺構に伴う柱穴状土坑よりも黒色土が堆積している。上位には土器片の風化土粒が散在していた。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

## 1 検出遺構

### 7号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉Ⅲ〇22グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構精査中に別遺構と判断した。検出面では住居状遺構との明確な区別はなかった。ほぼ垂直に立ち上がる。竪穴住居状遺構を切る。

〈規模〉37×33cm、深さ74cm。〈堆積土〉単層である。6号柱穴状土坑同様黒色土堆積である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 8号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉Ⅲ〇23グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構精査中に別遺構と判断した。検出面では住居状遺構との明確な区別はなかった。やや北に傾く。竪穴住居状遺構を切る。

〈規模〉37×37cm、深さ52cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 9号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉Ⅲ〇24グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中礫火山灰層上面で検出した。やや北に傾く。〈規模〉55×53cm、深さ77cm。〈堆積土〉4層に分かれる。中～底部は単層。上面は自然堆積か。〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 10号柱穴状土坑（第17図、写真図版18）

〈位置〉Ⅲ〇24グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中礫火山灰上面にて検出した。やや南に傾く。〈規模〉45×40cm、深さ55cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 11号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉Ⅲ〇25グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中礫火山灰上面にて検出した。やや北に傾く。〈規模〉50×48cm、深さ85cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 12号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉Ⅲ〇25グリッドに位置する。〈概要〉配石遺構下の中礫火山灰上面にて検出。ほぼ垂直に立ち上がる。〈規模〉60×51cm、深さ75cm。〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 13号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉ⅢP16グリッドに位置する。〈概要〉もっとも東寄りで検出した。他の柱穴状土坑とは様相を異にする。むしろ1号柱穴状土坑～4号柱穴状土坑に近い。浅い。やや北に傾く。

〈規模〉38×37cm、深さ20cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### 14号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉Ⅳ〇02グリッドに位置する。〈概要〉竪穴住居状遺構よりも西側において住居状遺構検出

時に確認できたもの。状況から竪穴住居状遺構よりも新しいと考えられる。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉52×44cm、深さ51cm。 〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 15号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉IV〇03グリッドに位置する。 〈概要〉他柱穴状土坑検出の際に当初確認できず、中坵火山灰火山灰層を剥ぐ確認作業時に見つかったものである。埋土の様子、規模、底部レベル値などから周辺の中坵火山灰層漸移層にて検出されている柱穴状土坑と同時期のものと判断した。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉50×43cm、深さ41cm。 〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 16号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉IV〇04グリッドに位置する。 〈概要〉15号柱穴状土坑と同様の検出、精査、判断をしたものである。ほぼ垂直だがやや北に傾く傾向がある。

〈規模〉58×（44cm）、深さ58cm。 〈堆積土〉単層である。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

#### 17号柱穴状土坑（第17図、写真図版19）

〈位置〉III〇23グリッドに位置する。 〈概要〉15号柱穴状土坑と同様の検出、精査、判断をしたものである。ほぼ垂直に立ち上がる。

〈規模〉43×43cm、深さ88cm。 〈堆積土〉単層である。人為堆積を思われる。

〈出土遺物〉なし。 〈時期〉縄文時代後期前半と考えられる。

### (8) F 区

昨年度の調査区の南側に続く調査区である。昨年度と同様ここでも火山灰は確認された。ただし、B区のところでも述べたような、十和田 a 降下火山灰下の南部浮石層については、昨年度は全く確認されておらず、十和田 a 降下火山灰層下は十和田 b 降下火山灰層と自然な堆積状況を示している。昨年度の調査区と今年度の調査区との境の部分において、現表土からの広範囲にわたる攪乱を受けており、どのような堆積状況で今年度の層序から昨年度の層序へと移るかは確認できなかった。昨年度検出された近世と思われる遺構は、今回F区では確認できず、十和田 a 降下火山灰層上面で見られた柱穴状ピットからは現代の遺物であるビニール片などが見つかったため、登録しなかった。次項から記載する遺構は全て十和田 b 降下火山灰層を下げた中坵火山灰層との漸移層中からの検出である。なお、他の調査区と同様、遺物については、十和田 b 降下火山灰層（上位～下位）からの出土が最も多かった。特に、北側の調査区壁際には一括で採取できた土器が見つかっており、今回掲載した土器でもっとも接合率が高かったものである。さらに北側には今回出土した土器の同一遺物破片など確認できそうであったが、調査区外ということで断念した。またF区の遺構の出方を見ると、遺物と同様北側寄りに検出されており、遺構の主体部はF区調査区よりも北側の可能性が高い。検出された遺構は土坑が6基、柱穴状小土坑が3個である。

## 1 検出遺構

### ①土坑

#### 1号土坑（第19図、写真図版20）

〈位置〉ⅢR08グリッドに位置する。〈概要〉調査区外である西側に遺構が伸びている。残存部分から平面は円形、断面形はすり鉢状であるが、全容は不明である。

〈規模〉(168) × (84cm)、深さ45cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と思われる。

#### 2号土坑（第19図、写真図版20）

〈位置〉ⅢR04グリッドに位置する。〈概要〉平面形はやや楕円形、断面形はすり鉢状を呈する。

〈規模〉110×80cm、深さ38cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と思われる。

#### 3号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅢR20、ⅢS21グリッド付近に位置する。〈概要〉平面形はやや円形、断面形はフラスコ状を呈する。

〈規模〉113×96cm、深さ52cm。〈堆積土〉4層に分かれる。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

#### 4号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅡS12グリッドに位置する。〈概要〉北側が調査区外に伸びており、全容は不明である。残存部分からでは平面形はやや楕円形を示す。断面形は平坦ではなく、凹凸がある。

〈規模〉(82) × (76cm)、深さ(20cm)。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

#### 5号土坑（第19図、写真図版21）

〈位置〉ⅡS05・ⅡS10グリッドに位置する。〈概要〉平面形はほぼ円形、断面形はすり鉢状である。〈規模〉74×66cm、深さ21cm。〈堆積土〉単層である。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

#### 6号土坑（第19図、写真図版21）

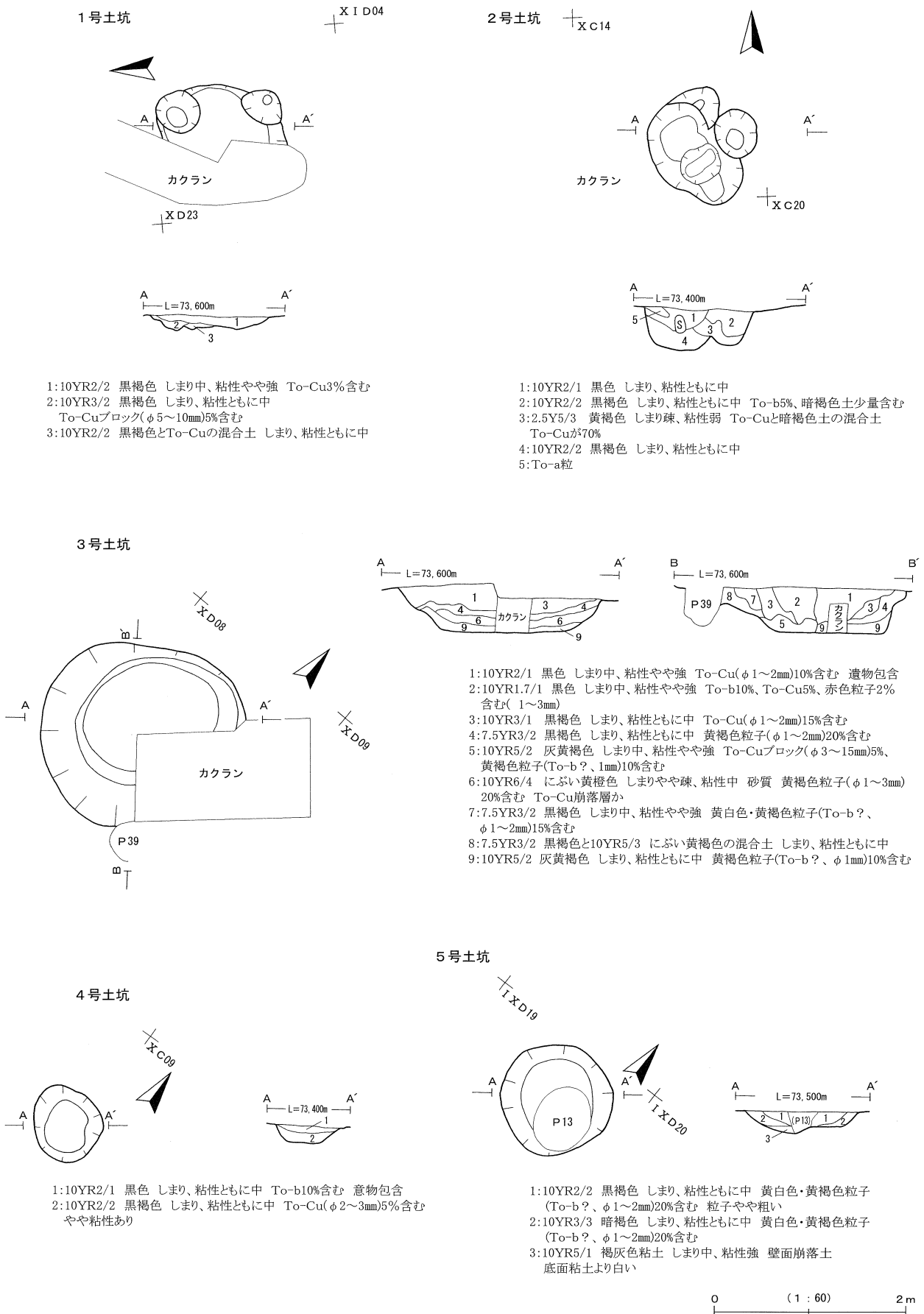
〈位置〉ⅡS09・ⅡS14グリッドに位置する。〈概要〉平面形は円形を呈し、朝顔状に広がっている上端が、中端にてすぼまり底部へと続く。

〈規模〉120×117cm、深さ53cm。〈堆積土〉5層に分かれる。人為堆積と思われる。

〈出土遺物〉なし。〈時期〉縄文時代（後期）と考えられる。

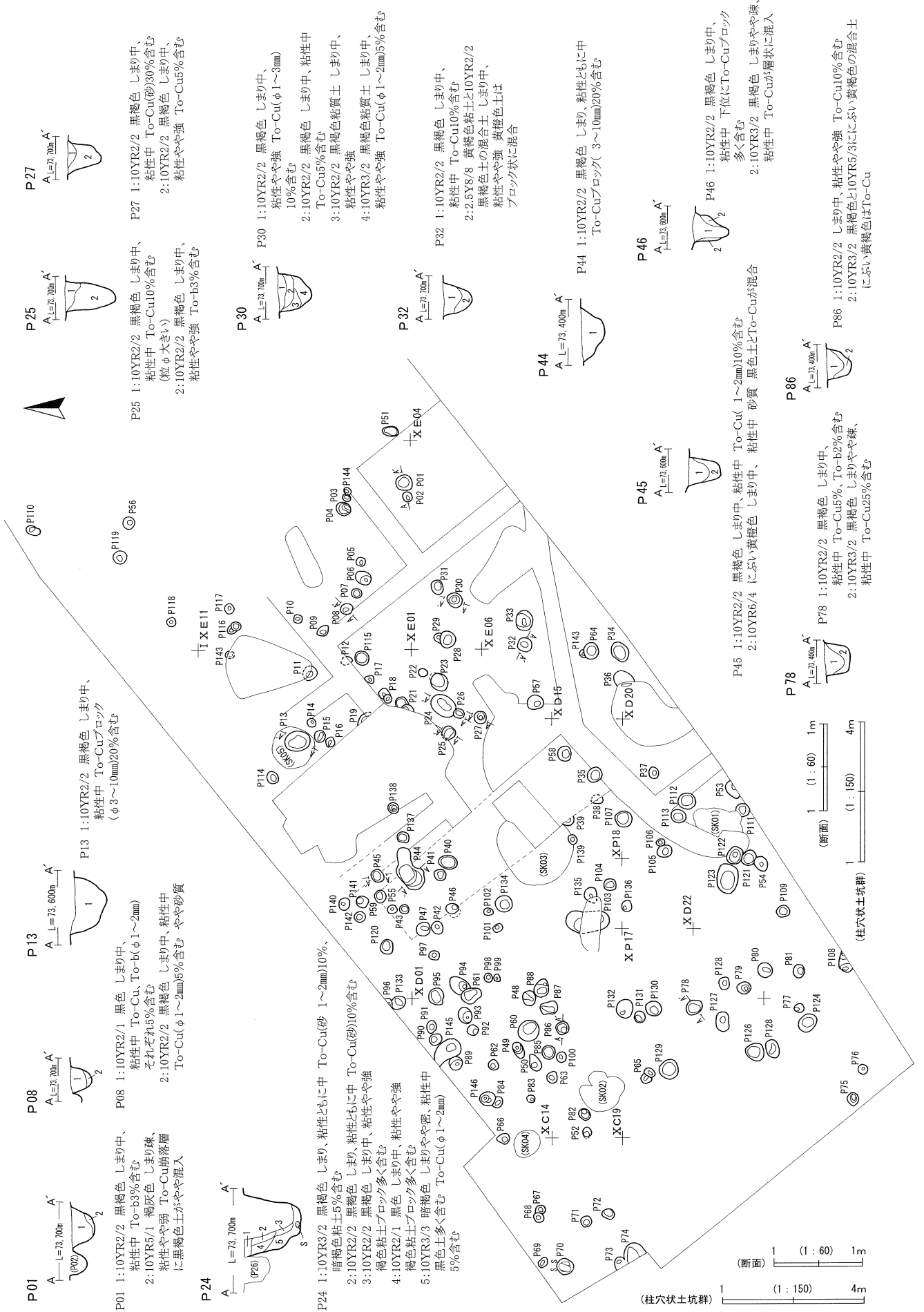
### ②柱穴状土坑（第19図、写真図版22）

F区では3個確認された。いずれの柱穴状土坑も、1号土坑～6号土坑検出面と同じ面での検出である。E区（西）の柱穴状土坑のようにレベル値の深くなるものはなかった。遺物等の出土はなかったが、検出面から周辺の土坑群と同様、縄文時代後期に属すると思われる。



第8図 A区1~5号土坑

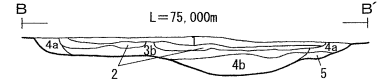
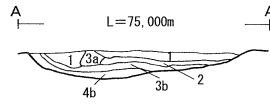
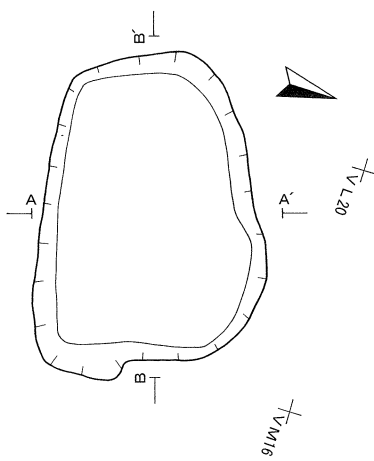
1 検出遺構



第9図 A区柱穴状土坑群

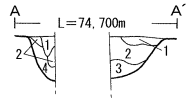
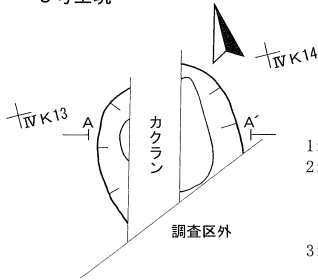


2号土坑



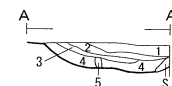
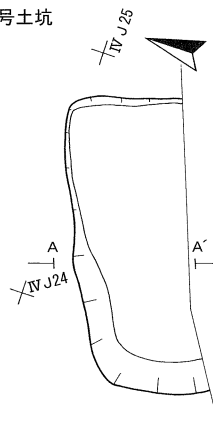
- 1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中 白色火山灰粒 φ1~5mm1%以下含む
- 2:10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまり中 白色火山灰粒 φ2mm以下1%以下含む
- 3a:10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘土質 10YR2/2 黒褐色土との混合土(20%前後) 粘性中 しまりやや密
- 3b:10YR5/4 にぶい黄褐色土 粘土質 10YR2/2 黒褐色土との混合土(50%) 粘性やや中 しまりやや密
- 4a:10YR2/2 黒褐色土 粘性中 しまり中
- 4b:10YR2/3 黒褐色土 粘性やや弱 しまり疎 黄褐色火山灰細粒若干含む
- 5:7.5YR1.7/1 黒色土 粘性やや中 しまりやや中

5号土坑



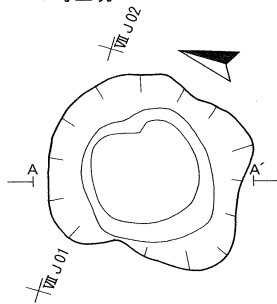
- 1:10YR2/1 黒色土 粘性 しまりともに弱
- 2:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや弱 しまりやや疎 南部浮石粒 φ5mm~1cm 1%未満含む 十和田b降下火山灰粒 φ1mm 1%含む
- 3:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり疎 南部浮石粒 φ5mm~1cm 1%未満含む 10YR4/4褐色土(地山)ブロック状に所々含む
- 4:10YR2/1 黒色土 粘性弱 しまり疎 南部浮石粒 φ1~5mm 5%含む

6号土坑



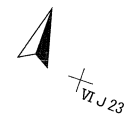
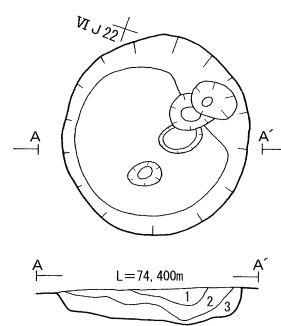
- 1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中
- 2:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中 十和田a降下火山灰粒 10%散在
- 3:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎 南部浮石粒 φ1~5mm 10%含む
- 4:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎 南部浮石粒 φ1mm~1cm 15%含む 10YR3/4 暗褐色土(地山)ブロック状に含む
- 5:10YR4/3 にぶい黄褐色土 砂質 粘性しまり極めて弱

7号土坑



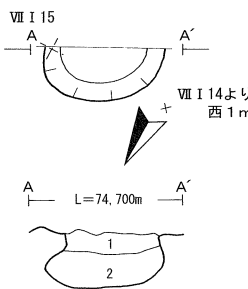
- 1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中 白色火山灰粒 φ2cm1%含む 南部浮石粒 φ5mm以下1%含む (底部近世磁器点出土)

8号土坑



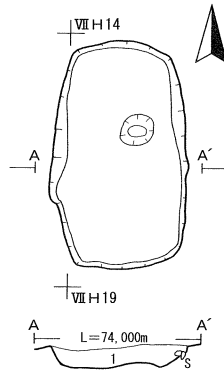
- 1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり中 白色火山灰粒 φ2cm以下1%含む
- 2:10YR2/1 黒色土 粘性やや弱 しまり疎 黄褐色火山灰粒1mm~1cm 1%以下含む
- 3:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎 黄褐色火山灰粒 φ1mm~2cm30%含む

9号土坑



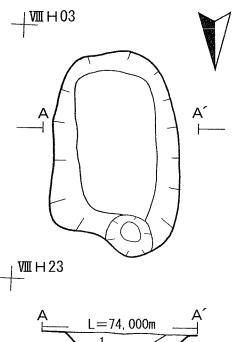
- 1:10YR2/1 黒色土~10YR2/2黒褐色土の混合土 粘性やや弱 しまり疎
- 2:10YR2/1 黒褐色土10YR2/2 黒褐色土混合土 ブロック状に入る 南部浮石粒 φ1mm~1cm1%含む 白色火山灰粒 φ5mm以下1%含む 粘性弱 しまり疎 (I層よりも弱)

10号土坑



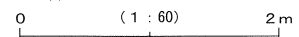
- 1:10YR3/3 暗褐色土 しまりやや疎 粘性中 φ3~10mm角礫10% To-Cuブロック少量含む

11号土坑

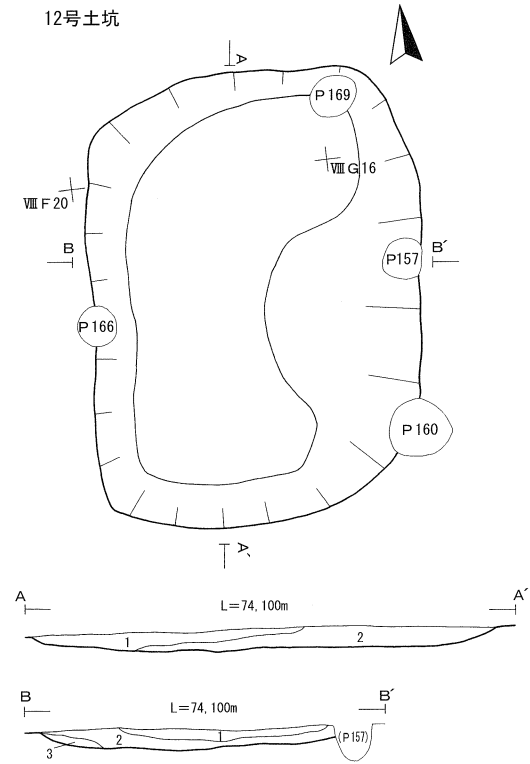


- 1:10YR3/3 暗褐色土 しまりやや疎 粘性中 φ3~10mm角礫10%
- 2:10YR2/2 黒褐色土 しまりやや疎 粘性やや弱 To-Nbブロック30%含む
- 3:10YR2/2 黒褐色土 しまりやや疎 粘性やや弱 To-Nb粒 φ1~2mm10%含む

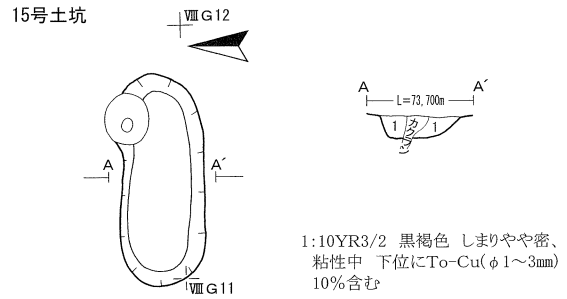
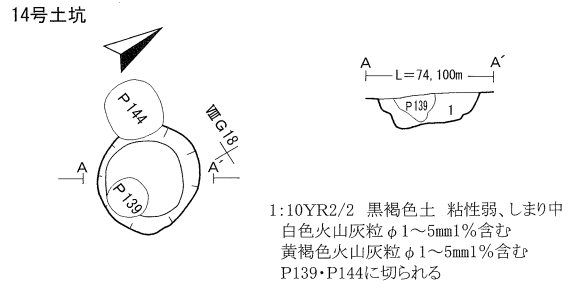
第10図 B区2・5~11号土坑



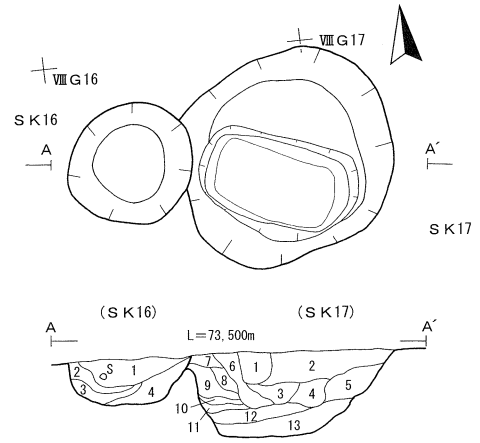
1 検出遺構



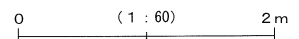
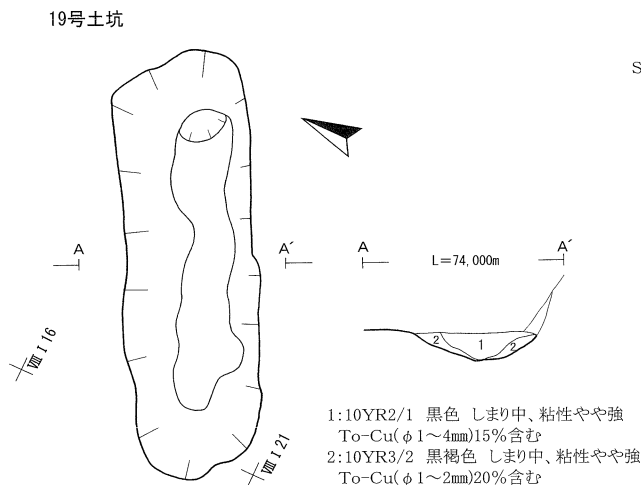
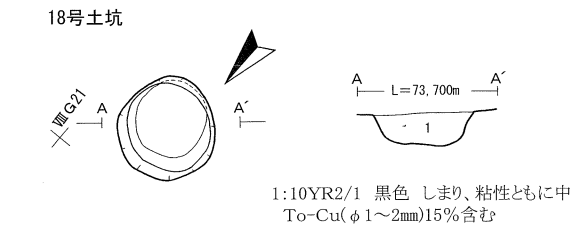
- 1:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 黄褐色粘土ブロック(φ1~5mm)15%含む  
 2:10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 黄褐色土ブロック(φ5~15mm)30%含む  
 3:2.5Y7/8 黄色 しまり疎、粘性やや弱 ゴロタ層(仮称) 粒子粗い



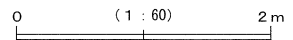
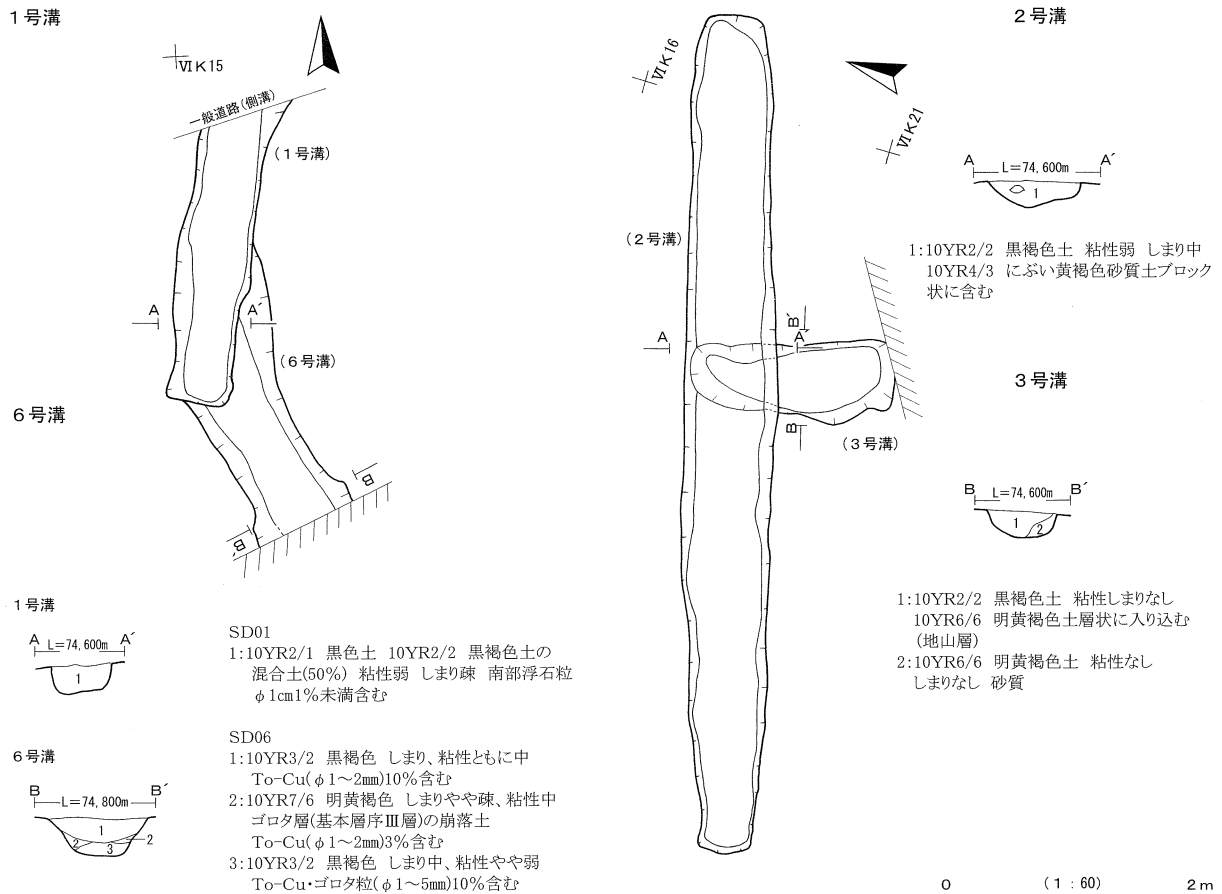
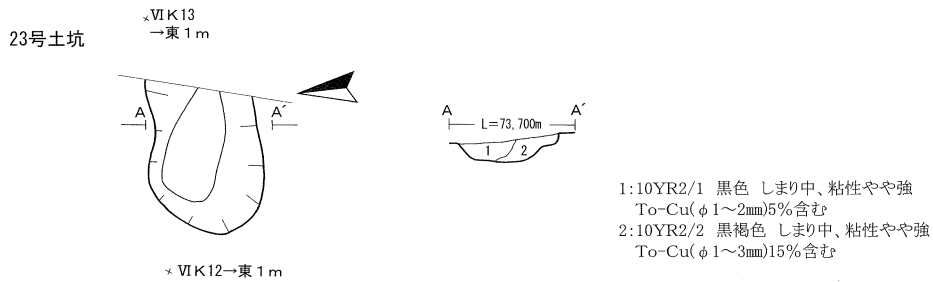
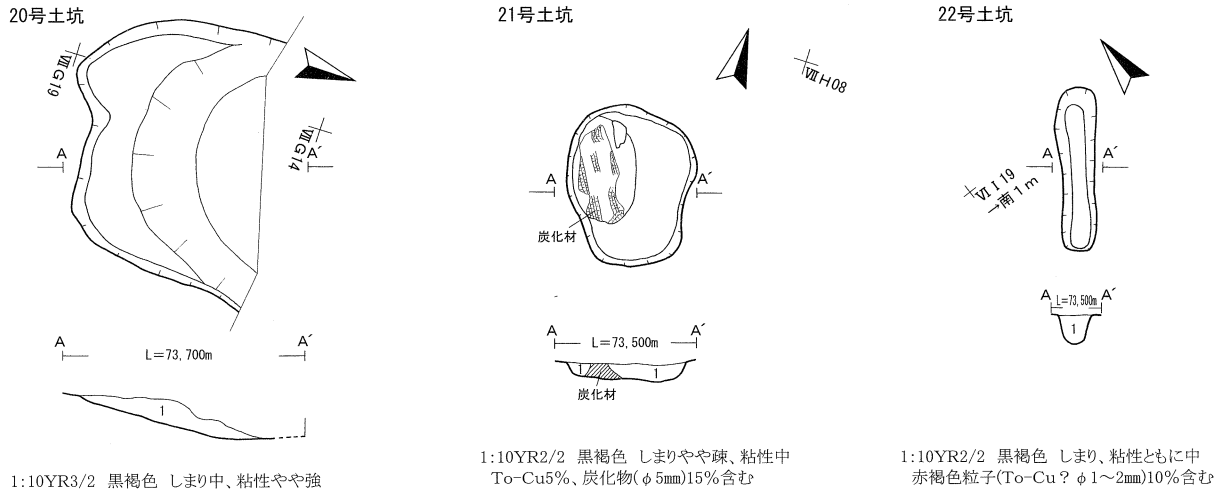
16号土坑・17号土坑



- SK16 1:10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中 To-Cu(φ1mm)3%含む  
 2:10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中 部分的に黒褐色土含みやや固くしまる  
 3:10YR4/4 褐色 しまりやや疎、粘性やや弱 To-Cu40%含むため黄色がかる  
 4:10YR2/2~3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1mm)3%、下位に十和田八戸3%含む
- SK17 1:10YR4/1 褐灰色 しまりやや疎、粘性やや弱  
 2:10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)20%含む  
 3:10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中 To-Cu3%含む  
 4:10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu5%含む  
 5:2.5Y5/4 黄褐色 しまりやや密、粘性やや弱 To-Cu由来の砂質土 白色のTo-Cu3%含む  
 6:10YR3/4 黒褐色 しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ1~2mm)20%含む  
 7:10YR3/3 暗褐色 しまり、粘性ともに中 やや砂質  
 8:10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu10%含む  
 9:10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu5%含む  
 10:10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 やや砂質  
 11:10YR4/3 にぶい黄褐色 しまり中、粘性やや弱 粒子細かい砂質土  
 12:10YR5/3 にぶい黄褐色 しまり、粘性ともに中 To-Cu由来の砂質土 5層より暗い  
 13:10YR6/3 にぶい黄褐色土 しまり中、粘性やや弱 砂質土(To-Cu層)



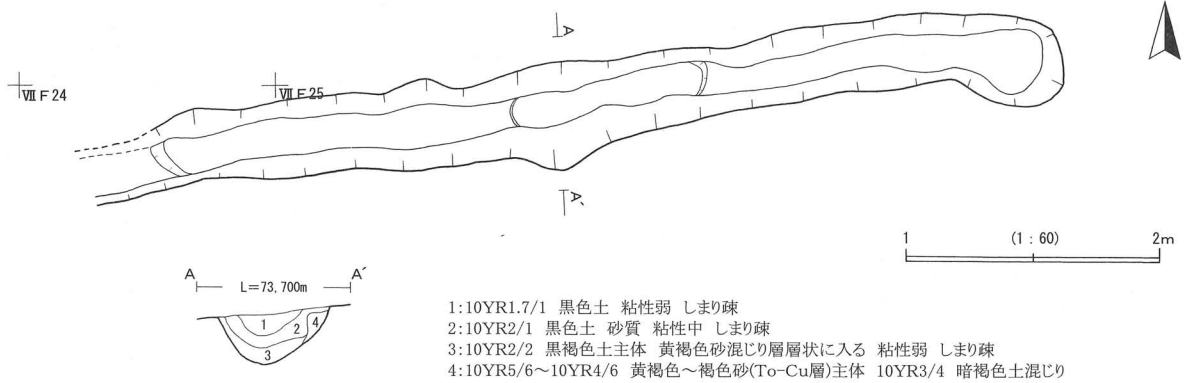
第11図 B区12・14~19号土坑



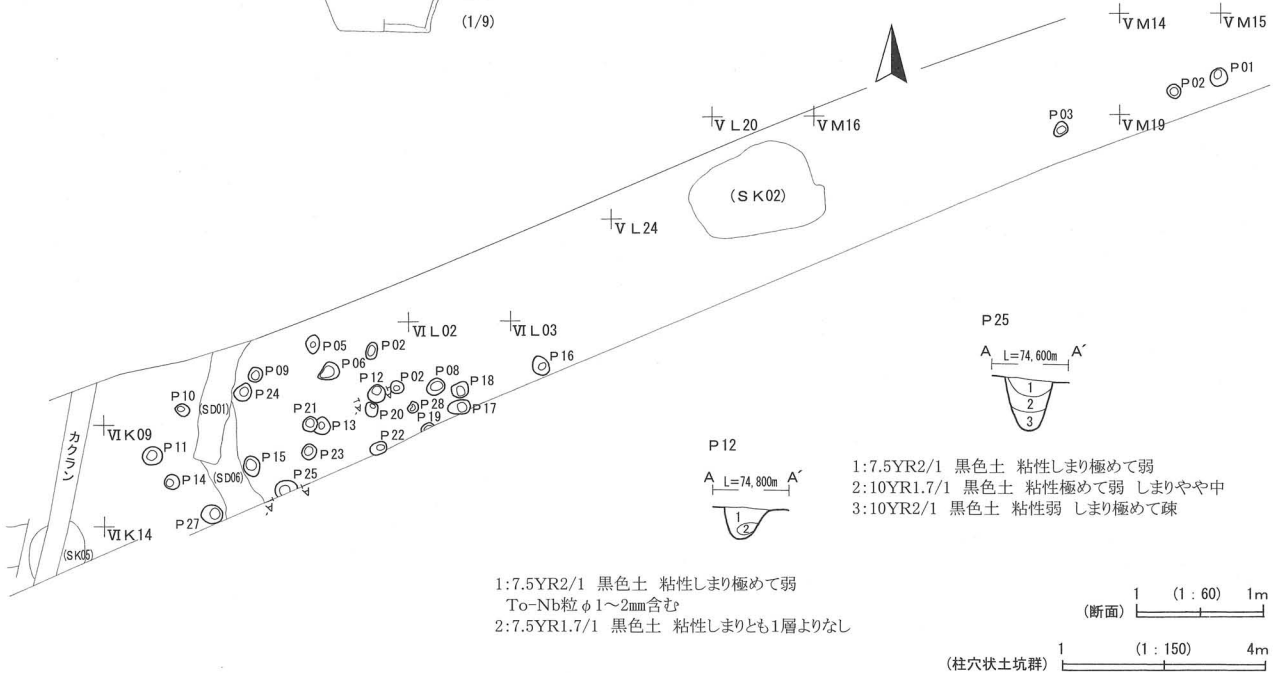
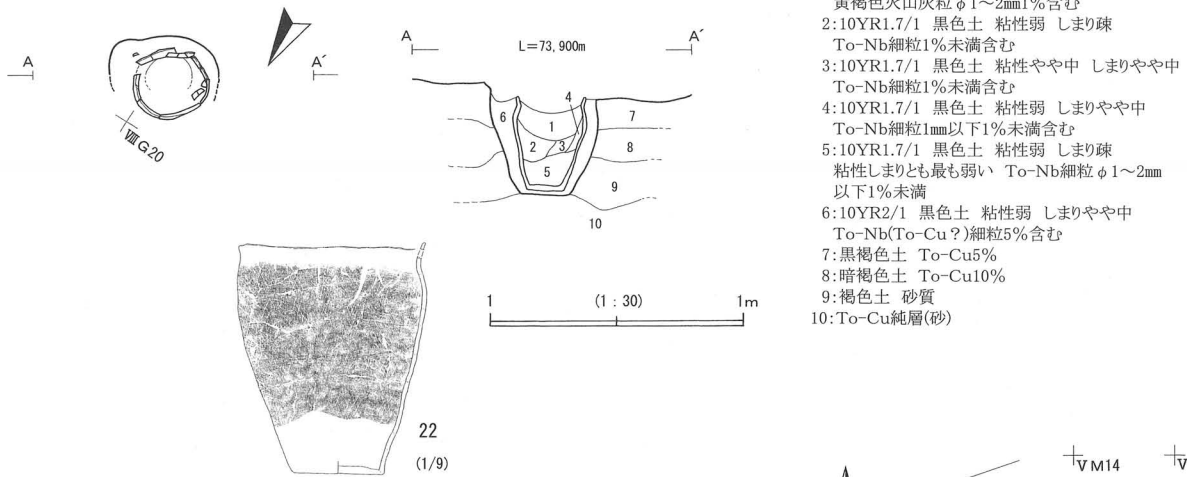
第12図 B区20~23号土坑・1~3・6号溝

1 検出遺構

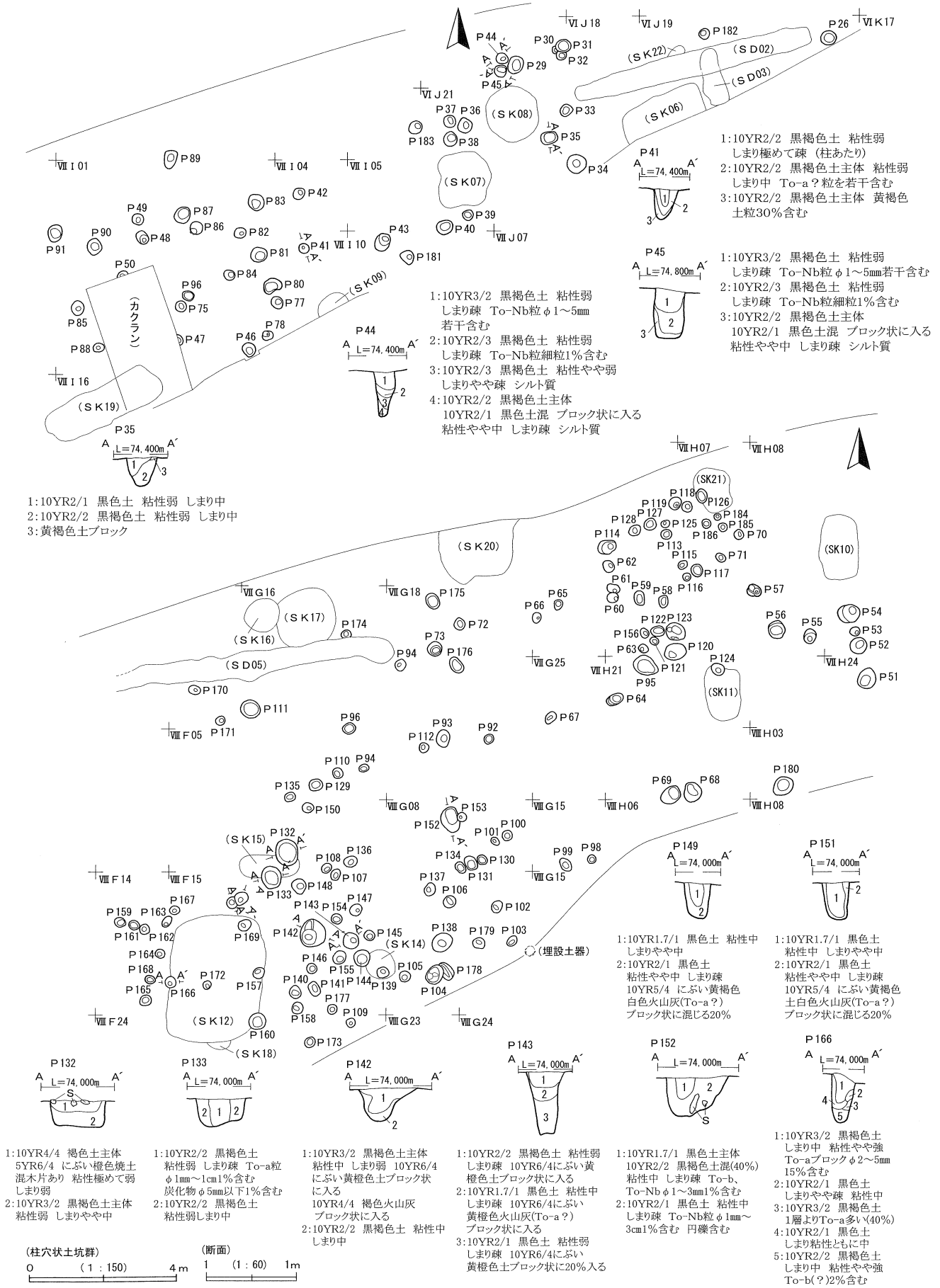
5号溝



埋設土器

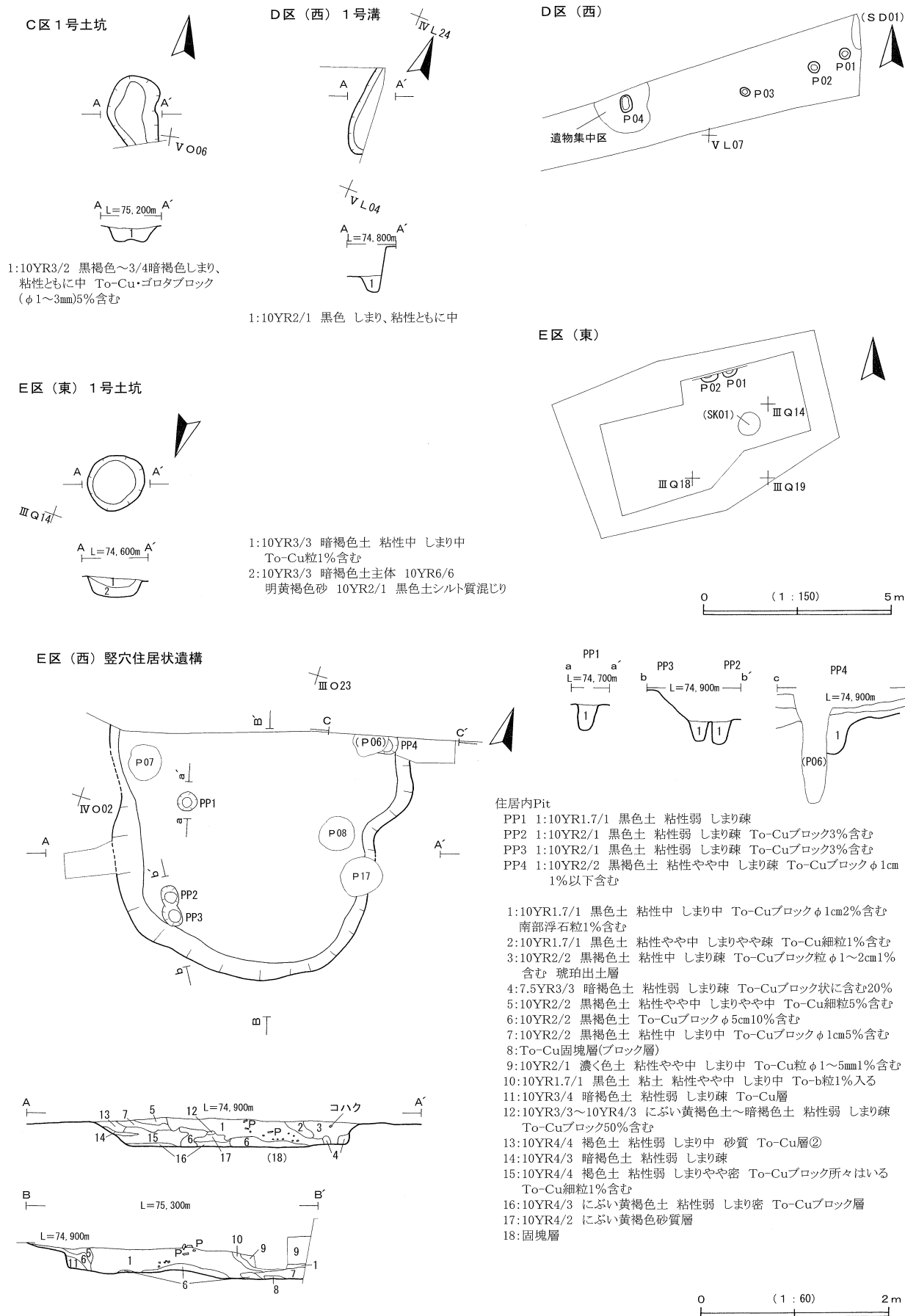


第13図 B区5号溝・埋設土器遺構・柱穴状土坑群①(東側)



第14図 B区柱穴状土坑群②(中央・西側)

1 検出遺構

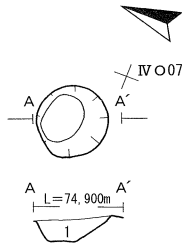


第15図 C区、D区(西)、E区(西)竪穴住居状遺構

配石遺構

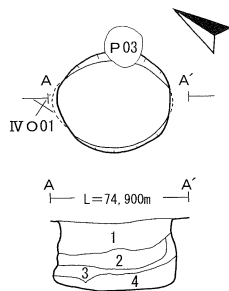


1号土坑



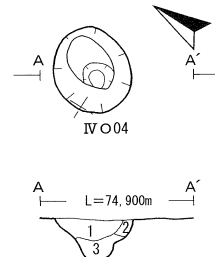
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
 しまり疎 To-Cu固塊(2~3cm)  
 ブロック状に5%含む

2号土坑



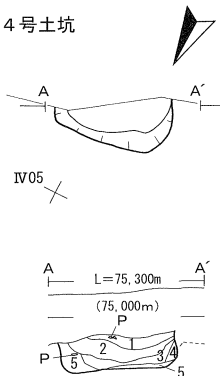
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
 しまり疎 To-Cu固塊(2~3cm)  
 ブロック状に5%含む  
 2:10YR2/3 黒褐色砂質土 粘性弱  
 しまり疎 To-Cu固塊ブロック状に5%入る  
 3:To-Cu層固塊ブロックφ3~5cm10%含む  
 4:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
 しまりやや中 To-Cu固塊ブロック  
 φ2~5cm5%含む

3号土坑



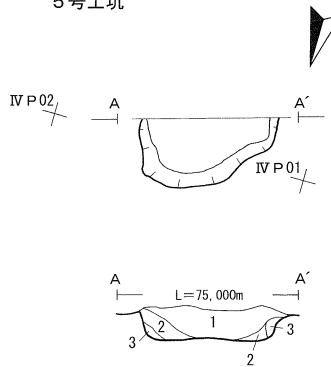
1:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり疎  
 To-Cu細粒1%含む  
 2:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中  
 しまり疎(1層より弱) To-Cuブロック  
 底部に入る  
 3:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎  
 To-Cuブロックφ1~2mm1%含む

4号土坑

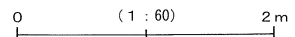


1:10YR2/1 黒色土 粘性中 しまり疎  
 To-Cuブロックφ1~3cm1%含む  
 To-Nb粒φ1cm1%含む  
 2:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中  
 しまりやや中 To-Cu細粒  
 φ1~3mm1%含む To-Nb粒  
 φ5mm1%未満含む  
 3:10YR1.7/1 黒色土 粘性弱 しまり疎  
 To-Cuブロックφ1~3cm5%含む  
 4:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
 しまり疎 To-Cu細粒1%含む  
 5:10YR2/2 黒褐色土 砂質 粘性弱  
 しまり疎 To-Cuブロック粒  
 φ1~2cm1%含む

5号土坑



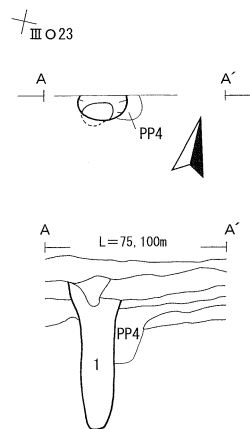
1:10YR2/1 黒色土 粘性中  
 しまり疎 To-Cuブロック  
 φ1~3cm1%含む  
 2:10YR1.7/1 黒色土  
 粘性やや中 しまりやや中  
 To-Cu細粒φ1~3mm1%含む  
 3:10YR2/2 黒褐色土 砂質  
 粘性弱 しまり疎  
 To-Cu細粒1%含む



第16図 E区(西)配石遺構・1~5号土坑

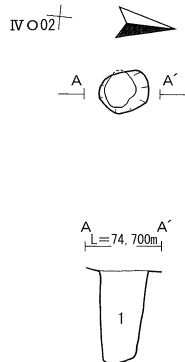
1 検出遺構

P06



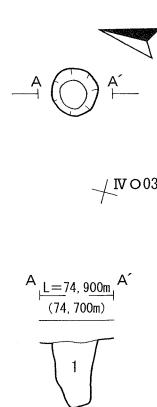
1:10YR2/1 黒色土 粘性中  
しまり中 To-Cu細粒  
φ1~1cm1%含む

P07



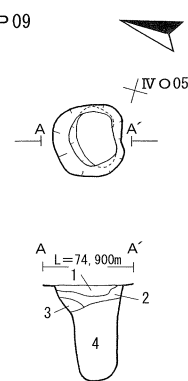
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱  
しまり疎 To-Cuブロック  
φ1cm1%以下含む

P08



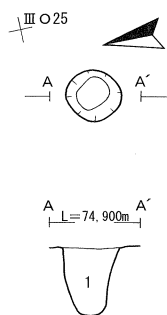
1:10YR1.7/1 黒色土 粘性やや中  
しまりやや中 To-Cuブロック  
(固塊) φ1~3cm1%含む

P09



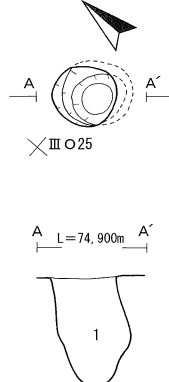
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎  
2:10YR2/2 黒褐色土と10YR1.7/1  
黒色土との混合土 粘性中 しまり疎  
To-Cuブロック φ1~2cm1%含む  
3:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎  
To-Cuブロック30%含む  
4:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱 しまり疎  
最も粘性なし To-Cuブロック φ1~5cm  
2%含む

P10



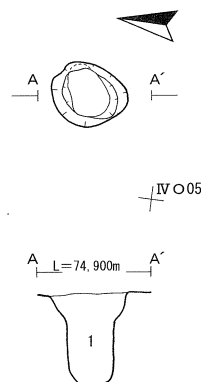
1:10YR3/3 暗褐色土と10YR2/2  
黒褐色土との混合土  
To-Cuブロック φ1~3mm1%含む

P11



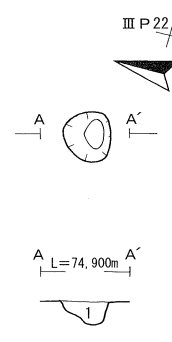
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱  
しまり疎  
10YR3/3 暗褐色土ブロック状  
に入る To-Cuブロック  
φ1~3mm1%含む

P12



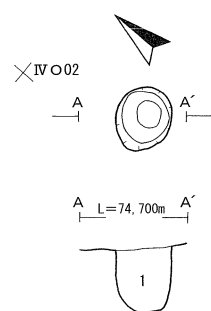
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱  
しまり疎 To-Cuブロック  
φ1~3mm2%含む

P13



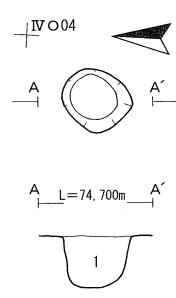
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性弱  
しまり疎 To-Cu粒1%、  
To-Cuブロック1cm1%、  
To-Nb粒 φ1mm1%含む

P14



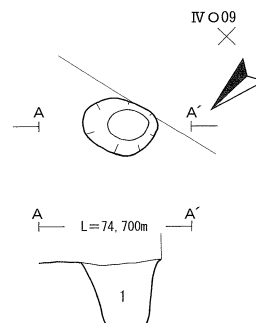
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり中 To-Cuブロック粒  
φ1~3cm5%含む  
下位にてブロック大きくなる~5cm  
底部小礫混じり

P15



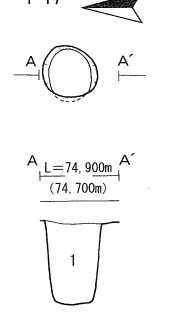
1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり中 To-Cuブロック粒  
φ1~3cm5%含む  
下位にてブロック大きくなる~5cm  
底部小礫混じり

P16

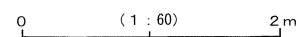


1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまり中 To-Cuブロック粒  
φ1~3cm5%含む  
下位にてブロック大きくなる~5cm

P17



1:10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中  
しまりやや中  
To-Cuブロック(固塊) φ1cm1%含む

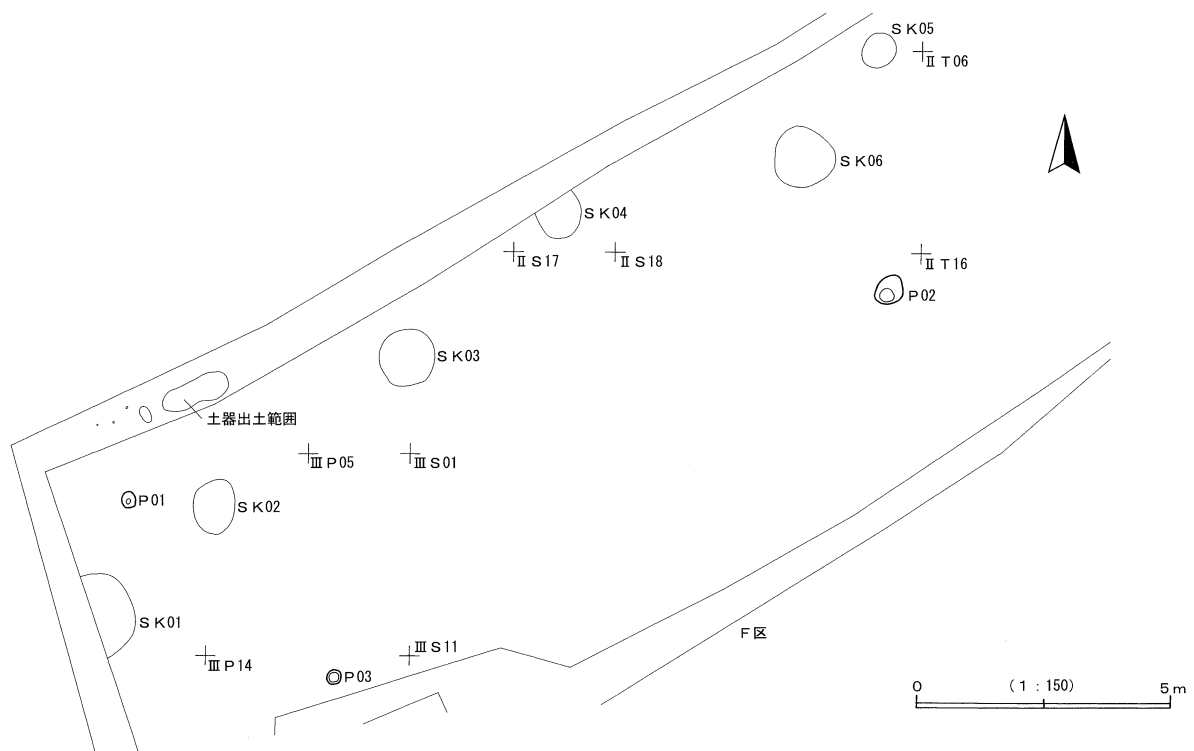
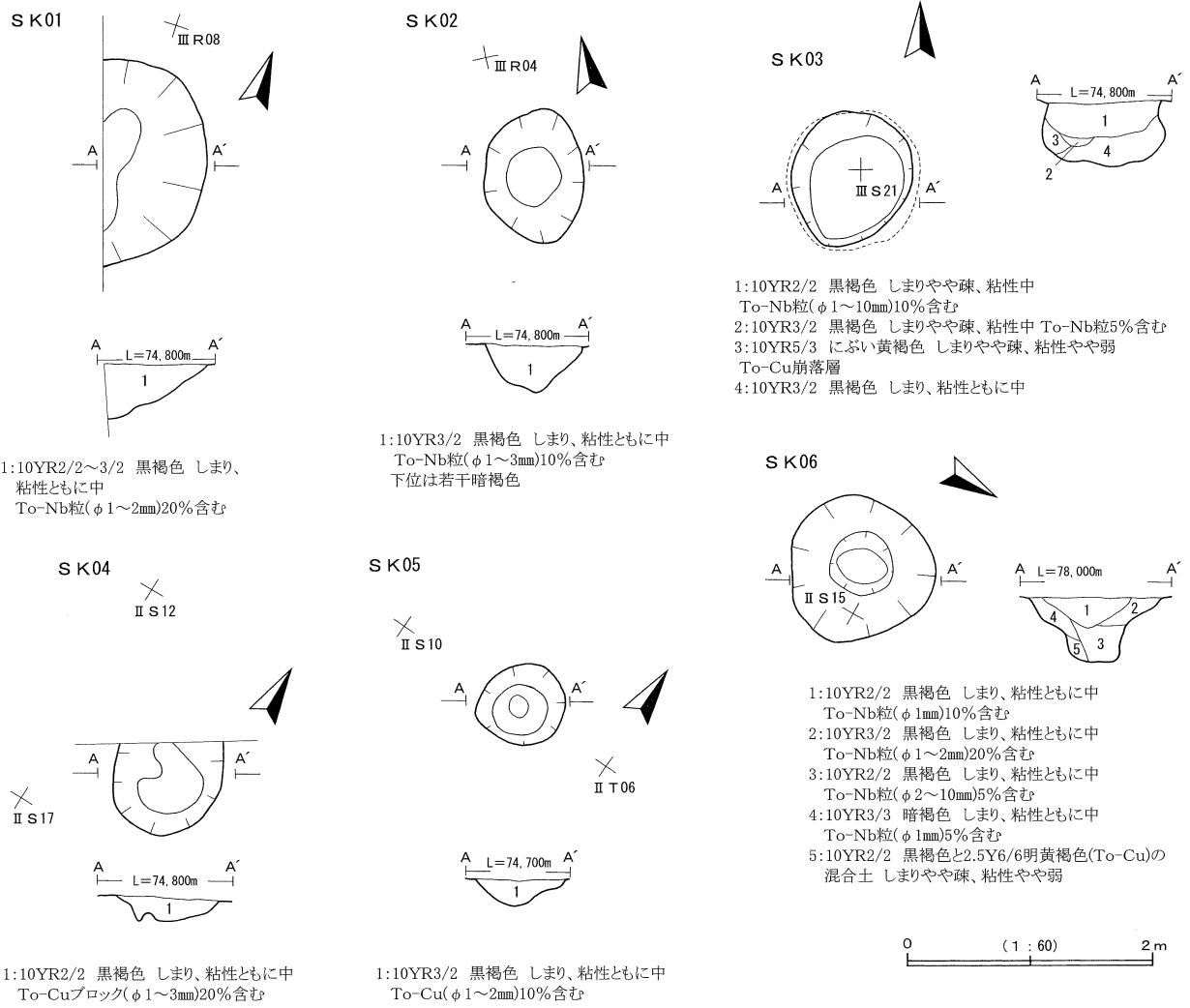


第17図 E区(西) P06~P17





1 検出遺構



第19図 F区1~6号土坑・柱穴状土坑

第2表 柱穴状土坑観察表

区	番号	地点	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	埋 土		
A	1	X E 03	49	44	29	73.283	図版中		
	2	X E 03	28	26	20	73.291	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	
	3	I X E 23	25	20	21	73.292	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	P144を切る
	4	I X E 23	41	38	40	73.137	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu 下位に10%含む	
	5	I X E 22	30	27	14	73.424	10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中	To-Cu、To-b (φ 1~2mm) それぞれ5%含む	
	6	I X E 22	46	39	31	73.231	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	To-b 3%含む	
	7	I X E 21	27	26	7	73.479	10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中	To-Cu、To-b (φ 1~2mm) それぞれ5%含む	
	8	I X E 21	34	33	27	73.290	図版中		
	9	I X E 16	40	29	20	73.316	10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中	To-Cu、To-b (φ 1~2mm) それぞれ5%含む	
	10	I X E 16	23	21	17	73.249	10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性弱	To-Cu含む	
	11	I X D 20	45	40	38	73.184	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	地山崩落土10%含む	遺物出土
	12	I X D 25	32	26	40	73.170	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b 5%含む	
	13	I X D 19	65	58	42	73.037	図版中		(SK05を切る?)
	14	I X D 19	26	22	28	73.188	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中		
	15	I X D 19	35	32	22	73.268	10YR3/1 黒褐色 しまり、粘性ともに中	礫数点混入	
	16	I X D 19	30	27	8	73.396	10YR3/1 黒褐色 しまり、粘性ともに中		
	17	I X D 25	25	23	24	73.338	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中		
	18	I X D 25	25	23	24	73.323	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu・To-bそれぞれ5%含む	
	19	I X D 25	58	(30)	40	73.019	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	にぶい黄褐色土ブロック(地山)10%含む	
	20	I X D 25	37	(26)	42	73.134	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b10%含む	P21を切る
	21	I X D 25	37	(25)	8	73.489	10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中	To-b10%含む	P20に切られる
	22	X D 05	28	22	9	73.486	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ 1mm) 5%含む	
	23	X D 05	55	48	43	73.155	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b (φ 1~2mm) 10%含む。やや粘性あり。	
	24	X D 05	80	57	64	72.921	図版中		P26に切られる
	25	X D 04	40	35	57	73.027	図版中		
	26	X D 05	30	28	27	73.325	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	P24を切る
	27	X D 10	38	36	35	73.202	図版中		
	28	X E 01	49	44	42	73.134	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	To-Cu (φ 3~10mm) 10%含む	P29を切る
	29	X E 01	24	(17)	8	73.465	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ 1mm) 5%含む	P28に切られる
	30	X E 01	44	40	36	73.183	図版中		
	31	X E 01	41	32	20	73.353	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	To-Cu (φ 1mm) 5%含む	
	32	X E 06	40	38	32	73.238	図版中		
	33	X E 06	57	50	42	73.119	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	壁面付近に黄褐色土ブロック含む	
	34	X D 15	58	45	12	73.429	10YR3/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	地山崩落ブロック30%含む	
	35	X D 14	46	40	30	72.942	1 : 10YR3/2 黒褐色 しまりやや強、粘性中 2 : 10YR6/4 にぶい黄褐色 しまり中、粘性やや強	To-Cuブロック含む 黒褐色土混入	
	36	X D 15	(52)	(50)	49	73.075	10YR2/2 黒褐色 しまり中、粘性やや強	にぶい黄褐色土ブロック(地山)10%含む	
	37	X D 19	36	30	51	73.069	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%含む	
	38	X D 13	(32)	(30)	30	73.192	1 : 10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中 2 : 2.5Y2/2黄褐色 (To-Cu) と10YR2/1黒色の混合土	To-b10%含む しまり疎、粘弱 壁面崩落土	
	39	X D 13	(39)	(21)	42	73.067	10YR2/1 黒色 しまり、粘性ともに中	To-Cu(φ 5mm以上)・To-b(φ 1~3mm)10%含む。やや粘性あり	
	40	X D 02	51	39	20	73.150	10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中	地山崩落土(粘土層)10%含む	
	41	X D 02	35	32	31	73.009	10YR2/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中	地山崩落土(粘土層)10%含む	
	42	X D 02	35	31	28	73.001	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中		
	43	I X D 22	29	28	10	73.092	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック(φ 3~10mm)20%含む	
	44	I X D 22	90	61	36	72.922	図版中		
	45	I X D 22	36	33	43	72.990	図版中		
	46	X D 02	35	30	47	72.893	図版中		
	47	X D 02	42	38	32	72.962	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu10%含む	
	48	X C 10	44	33	43	73.087	10YR4/1 褐灰色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	
	49	X C 10	47	28	47	72.964	10YR4/1 褐灰色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	
	50	X C 10	53	34	57	72.859	10YR4/1 褐灰色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	
	51	I X E 24	44	28	14	73.299	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu 3%含む	
	52	X C 14	26	24	40	72.936	10YR4/1 褐灰色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	
	53	X D 23	53	(26)	32	73.219	1 : 10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 2 : 2.5Y8/8黄褐色 (To-Cu) と10YR2/1黒色の混合土	To-Cu 5%含む しまり疎、粘性弱 壁面崩落土	
	54	X D 22	46	36	65	72.892	1 : 10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 2 : 10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 3 : 2.5Y8/8 黄褐色 しまりやや疎、粘性弱	To-Cu10%含む To-Cu崩落層で黒褐色土混入	
	55	I X D 22	26	26	18	72.997	10YR3/1 黒褐色 しまり、粘性ともに中	礫数点混入	
	56	I X E 07	36	32	19	73.195	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック5%含む	
	57	X D 10	48	40	32	73.157	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%含む	
	58	X D 14	45	38	18	73.009	10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中	To-Cuブロック含む	
	59	I X D 22	37	33	35	72.825	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中		
	60	X C 10	61	60	62	72.837	10YR3/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ 1~10mm) 20%含む	
	61	X D 01	58	41	65	72.819	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%含む	
	62	X C 10	30	(24)	37	73.052	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-b10%含む	攪乱を受ける
	63	X C 09	34	30	27	73.138	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu(φ 1~5mm)20%含む。P60と堆積時期・由来は同じか	
	64	X D 15	48	42	37	73.174	1 : 10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中 2 : 2.5Y8/8黄褐色と10YR2/2黒褐色土の混合土	To-Cu10%含む しまり中、粘性やや強 黄褐色土はブロック状	
	65	X C 19	46	43	37	72.889	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu (ブロック) 2%、To-b 5%含む	
	66	X C 08	35	30	41	72.811	10YR3/2 しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ 1mm) 5%含む	
	67	X C 07	30	(26)	32	72.879	10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中	To-Cu (砂) 2%含む	P68に切られる
	68	X C 07	28	26	30	72.848	10YR3/3 暗褐色 しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む	P67を切る
	69	X C 07	30	21	34	72.703	10YR2/2 黒褐色 しまり、粘性ともに中	To-Cu (ブロック) 5%含む	
	70	X C 12	48	42	68	72.393	10YR3/2 黒褐色 しまりやや疎、粘性中	To-Cu (φ 1mm) 3%含む	埋土上位に角礫あり

1 検出遺構

区	番号	地点	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	埋 土		
	71	XC12	33	32	26	72.945	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (ブロック) 3%含む
	72	XC12	35	28	45	72.766	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂) 25%含む
	73	XC17	42	(30)	26	72.822	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	下位にTo-Cu (φ5~10mm) 5%含む
	74	XC17	(65)	50	42	72.658	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-Cu (砂) 10%含む
	75	XIC09	40	33	52	72.642	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%含む
	76	XIC09	28	25	31	72.841	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu (ブロック) 15%含む
	77	XIC05	29	25	36	72.912	10YR3/2	しまり、粘性ともに中	To-Cu 3%含む
	78	XC20	49	40	33	72.989	図版中		
	79	XD21	41	34	37	72.960	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む
	80	XD21	44	38	24	73.061	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂) 10%含む
	81	XID01	40	31	46	72.849	1 : 10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%、To-b 2%含む
							2 : 10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu 25%含む
	82	XC14	33	28	31	72.902	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	
	83	XC09	23	20	34	72.924	1 : 10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ1mm) 5%含む
							2 : 10YR4/4 褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ1mm) 10%含む
	84	XC09	(32)	(25)	40	72.862	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む
	85	XC10	38	37	29	73.005	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu 15%含む
	86	XC15	38	37	33	72.975	図版中		
	87	XC10	49	32	19	73.134	1 : 10YR2/2 しまり中、粘性やや強	To-Cu 10%含む	
							2 : 10YR3/2 黒褐色と10YR5/3にぶい黄褐色の混合土	にぶい黄褐色はTo-Cu	
	88	XD06	53	41	35	72.996	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中	To-b層の崩落層
	89	XC05	37	26	33	72.906	1 : 10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む
	90	XC05	37	31	22	73.013	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b 3%含む
	91	XC05	35	30	45	72.805	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック 3%含む
	92	XC05	34	30	46	72.822	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中	To-b10%、上位にTo-Cu 3%含む
	93	XC05	50	40	56	72.716	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu (φ1~2mm) 15%、赤色粒子(焼土?φ1mm) 2%含む
	94	XD01	(60)	45	79	72.479	1 : 10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu(白色ブロック、φ5~10mm) 20%含む
							2 : 10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中	
	95	XD01	48	43	29	72.960	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中	
	96	IXC25	(37)	(18)	(31)	(72.964)	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	
	97	XD01	28	26	15	73.132	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-b 3%含む 土器出土
	98	XD06	27	22	20	73.109	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	
	99	XD06	22	17	12	73.189	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu (φ1mm) 5%含む
	100	XC15	28	28	19	73.115	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	
	101	XD07	28	23	24	73.163	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	黄褐色粒子 (To-Cu?) 3%含む
	102	XD07	27	21	28	73.164	10YR3/2	しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ1mm) 5%含む
	103	XD12	124	(58)	35	73.003	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu 5%含む
	104	XD12	35	35	21	73.128	1 : 10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-b層にTo-Cuが混入
							2 : 10YR5/3 にぶい黄褐色	しまり中、粘性やや強	To-Cuブロック 5%含む
A	105	XD18	41	36	20	73.135	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック 15%含む
	106	XD18	25	20	21	73.164	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-bブロック 10%含む
	107	XD18	46	46	35	73.089	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu、To-bそれぞれ 5%含む 下位ほどTo-Cu多い
	108	XID06	(44)	(40)	52	72.802	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~15mm) 10%含む
	109	XID02	39	34	36	73.015	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b10%含む
	110	VME22	37	25	38	72.943	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂、φ1mm) 5%含む
	111	XD23	38	38	27	73.219	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-Cu (φ1mm) 5%含む
	112	XD18	49	46	34	73.102	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-b10%、To-Cu (φ2~3mm) 5%含む
	113	XD18	42	36	26	73.161	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-b10%、To-Cu (φ2~3mm) 5%含む 寛永通宝出土
	114	IXD19	38	32	16	73.157	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂、φ1mm) 10%含む
	115	IXD25	43	37	40	73.144	10YR2/1 黒色	しまり中、粘性やや強	
	116	IXE11	43	26	20	73.159	10YR2/2 しまり中、粘性やや強	にぶい黄褐色土ブロック (To-Cu? φ2~3mm) 5%含む	
	117	IXE11	31	28	19	73.171	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	上位にTo-Cuブロック 5%含む
	118	IXE06	25	25	18	73.231	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂、φ1mm) 5%含む
	119	IXE02	39	37	23	73.158	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂、φ1mm) 5%含む
	120	IXD21	43	34	19	73.044	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-Cu (φ1mm) 5%含む
	121	XD22	45	(37)	23	73.113	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu、To-bそれぞれ 5%含む
	122	XD22	56	44	103	72.310	1 : 10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ2~5mm) 10%含む
							2 : 10YR2/2 黒褐色と2.5Y8/8黄褐色 (To-Cu) の混合土	しまり、粘性ともに中	やや粒子粗い
	123	XD22	81	60	18	73.100	10YR3/2 黒褐色と2.5Y8/8黄褐色 (To-Cu)	しまりやや疎、粘性中	両者が互層に堆積
	124	XIC05	57	45	31	72.859	10YR3/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-Cu、To-b (φ1~2mm) それぞれ 5%含む
	125	XIC05	54	39	21	72.899	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	
	126	XC25	52	49	29	72.786	注記なし		
	127	XC25	56	38	38	72.782	10YR3/2 黒褐色と2.5Y8/8黄褐色 (To-Cu) の混合土	しまりやや疎、粘性中	
	128	XC21	36	29	21	72.971	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~10mm)、To-b10%含む
	129	XC19	55	53	25	72.852	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~10mm)、To-b10%含む
	130	XC20	47	40	25	72.837	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック 5%含む
	131	XC20	32	31	20	72.872	10YR2/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強	To-Cu (φ1~2mm) 10%含む
	132	XC20	50	45	26	72.806	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~5mm) 10%含む
	133	IXC25	46	37	23	72.881	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (砂) 15%含む
	134	XC07	48	47	25	72.948	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~5mm) 10%含む
	135	XD12	46	36	28	72.930	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中	To-b 5%含む
	136	XD17	27	28	50	72.685	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ1~3mm) 10%含む
	137	IXD23	33	30	22	73.095	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cuブロック (φ3~5mm) 10%含む
	138	IXD23	32	30	27	73.071	1 : 10YR3/2 黒褐色と2.5Y8/8黄褐色 (To-Cu) の混合土	しまりやや疎、粘性中	
							2 : 10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b 5%含む
	139	XD13	30	23	11	72.980	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-b10%含む
	140	IXD22	37	31	21	72.921	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	To-Cu (φ1mm) 15%含む

区	番号	地点	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	埋	土				
A	141	IKD22	35	35	55	72.565	1:10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック(φ2~3mm)5%含む 2:10YR7/4 にぶい黄褐色	しまり中、粘性強 To-Cu(φ1mm)3%含む			
	142	IKD22	31	31	24	72.856	1:10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック(φ2~3mm)5%含む 2:10YR7/4 にぶい黄褐色	しまり中、粘性強 To-Cu(φ1mm)3%含む			
	143	IKD15	26	24	7	73.124	10YR3/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強 To-Cuブロック(白色、φ3~5mm)5%含む				
	144	IXE23	25	19	10	73.334	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-b3%含む		P3に切られる		
	145	XC05	85	55	29	72.961	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cuブロック3%含む		P89を切る		
	146	XC09	48	40	41	72.842	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-b3%含む		P84を切る		
B	1	VM14	36	33	40	74.748	7.5YR2/1 黒色土	粘性弱	しまり極めて疎			
	2	VM14	27	25	16	74.967	7.5YR2/1 黒色土	粘性弱	しまり極めて疎			
	3	VM18	31	24	33	74.756	7.5YR2/1 黒色土主体	10YR1.7/1 黒色土混じり(30%)	シルト質 粘性弱	しまり極めて疎		
	4	VIL01	32	23	10	74.526	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満、To-b粒1%以下含	しまり粘性p1と同じ			
	5	VIL01	36	27	16	74.405	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満、To-b粒1%以下含	しまり粘性p1と同じ			
	6	VIL01	46	34	18	74.416	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含	しまり粘性p1と同じ			
	7	VIL01	27	24	8	74.576	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含	しまり粘性p1と同じ			
	8	VIL02	38	32	32	73.353	7.5YR2/1 黒色土	p1と同じ				
	9	VIK05	29	25	26	74.244		注記なし				
	10	VIK04	29	24	31	74.118	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎 To-Nb粒φ1~5mm1%未満含				
	11	VIK09	37	36	33	74.152	7.5YR2/1 黒色土	To-Nb粒φ1~5mm3%含	粘性しまり極めて疎			
	12	VIL01	37	36	30	74.364		図版中				
	13	VIL06	34	(27)	36	74.238	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含	しまり粘性p1と同じ			
	14	VIK09	31	30	25	74.274	7.5YR2/1 黒色土	To-Nb粒φ1~3mm3%未満含	粘性しまり極めて疎			
	15	VIK10	41	35	20	74.371	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満、To-b粒1%以下含	しまり粘性p1と同じ			
	16	VIL03	39	33	33	74.536	7.5YR2/1 黒色土	シルト 粘性しまり極めて疎	p1と同じ			
	17	VIL02	43	29	25	74.602	7.5YR2/1 黒色土	10YR1.7/1 黒色土との混合土	p3と同じ			
	18	VIL02	35	28	27	74.429	7.5YR2/1 黒色土	p1と同じ	底部中礫火山灰が散財	埋土中位より丸釘が出土		
	19	VIL02	(30)	(11)	18	74.625	7.5YR2/1 黒色土	p1と同じ				
	20	VIL01	29	23	20	74.435	7.5YR2/1 黒色土	10YR1.7/1 黒色土との混合土	p3と同じ To-Nb粒数個含	p12と重複 p12の方が新しい		
	21	VIL06	28	27	12	74.460	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含(P13より少)	しまり粘性p1と同じ	p7を切る		
	22	VIL06	35	25	23	74.601	7.5YR2/1 黒色土	粘性弱	しまり極めて疎			
	23	VIL06	29	28	11	74.496	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含	しまり粘性p1と同じ	ただしp21と同様、To-Nb粒少ない		
	24	VIK05	38	30	38	74.113	7.5YR2/1 黒色土主体	To-Nb粒φ1~3mm1%未満含	しまり粘性p1と同じ	To-b粒1%以下含	埋土中に礫あり	
	25	VIK10	(40)	(23)	46	74.240		図版中				
	26	VIK16	44	42	26	74.204	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~5mm1%未満含	小礫数個含		
	27	VIK10	43	35	41	74.297	7.5YR2/1 黒色土	To-Nb粒1%未満含	ごく少量	粘性しまり疎		
	28	VIL02	22	17	6	74.600	10YR2/1 黒色土	10YR3/2 黒褐色土との混合土	To-Nb粒φ5mm1%未満含	粘性しまり極めて疎		
	29	VI J 17	51	41	34	73.936	7.5YR2/1 黒色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~5mm1%未満含	10YR3/3 暗褐色土ブロック状に含		
	30	VI J 17	(18)	(13)	27	74.033	10YR2/2 黒褐色土	粘性、しまり極めて疎	低位To-Nb粒φ1~5mm及び1cm大1%含			
	31	VI J 17	44	37	35	73.997	10YR2/2 黒褐色土	粘性、しまり極めて疎	低位To-Nb粒φ1~5mm及び1cm大1%含			
	32	VI J 17	(28)	(25)	31	74.018	10YR2/2 黒褐色土	粘性、しまり極めて疎	低位To-Nb粒φ1~5mm及び1cm大1%含			
	33	VI J 22	36	28	21	74.164	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~5mm1%以下含			
	34	VI J 03	54	51	42	73.986	10YR2/2 黒褐色土	粘性弱	しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~5mm1%以下含		
	35	VI J 22	46	34	36	74.008		図版中				
	36	VI J 21	43	40	33	73.925	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~5mm1%含			
	37	VI J 21	35	33	27	73.988	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~1cm1%含			
	38	VI J 21	44	39	30	73.959	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~1cm1%含			
	39	VI J 01	30	28	31	73.975	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~1cm1%含			
	40	VI J 01	45	38	21	74.048	10YR2/2 黒褐色土	粘性しまり極めて疎	To-Nb粒φ1~1cm1%含			
	41	VI J 09	30	26	35	73.908		図版中				
	42	VI I 04	31	30	35	73.889	10YR2/2 黒褐色土	粘性弱	しまり疎			
	43	VI I 10	50	40	39	73.861	7.5YR2/1 黒色土	粘性弱	しまり極めて疎	大きな礫を上位~中位にかけて伴う		
	44	VI I 17	32	31	55	73.690		図版中				
	45	VI I 17	37	30	60	73.663		図版中				
	46	VI I 13	40	34	42	73.721	1 7.5YR2/1 黒色土	粘性弱	しまり疎	To-Nb粒φ1~5mm1%含		
	47	VI I 12	(31)	(13)	23	73.874	2 7.5YR2/1 黒色土	7.5YR1.7/1 黒色土の混合土	粘性中	しまり疎	To-b粒1%以下含	
	48	VI I 07	39	29	23	73.861	10YR2/2 黒褐色土	粘性弱	しまり中			
	49	VI I 02	30	29	20	73.878	7.5YR2/1 黒色土	粘性やや弱	しまり疎	To-Nb粒φ1~5mm1%以下含		
	50	VI I 06	(32)	(14)	12	73.839	7.5YR2/1 黒色土	粘性やや弱	しまり疎	To-Nb粒φ1~1cm1%以下含		
	51	VIIH24	56	46	49	73.563	10YR2/2 黒褐色土	粘性やや弱	しまり中	To-Nb粒φ1mm~1cm2%含	10YR1.7/1 黒色土をブロック状に含	
	52	VIIH19	45	44	49	73.565	10YR2/2 黒褐色土	粘性やや弱	しまり中	To-Nb粒φ1mm~1cm2%含	10YR1.7/1 黒色土をブロック状に含	
	53	VIIH19	30	25	26	73.779	10YR2/2 黒褐色土	粘性やや弱	しまり中	To-Nb粒φ1mm~1cm2%含	10YR1.7/1 黒色土をブロック状に含	
	54	VIIH19	61	52	60	73.423	10YR2/2 黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	φ1cm~2cmの礫数点	(p51~53と由来同じ)	
	55	VIIH18	39	30	29	73.697	10YR2/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ3~5mm	10%含	
	56	VIIH18	53	50	40	73.504	10YR2/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ1~3mm	10%含	p55よりしまり疎
	57	VIIH18	39	39	43	73.412	7.5YR2/2 黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nb粒φ2~5mm	20%含	To-b粒3%含
	58	VIIH16	32	23	30	73.424	10YR3/3 暗褐色土	しまり中	粘性やや弱	黄色粒子	(中礫火山灰?)	5%含
	59	VIIH16	38	28	23	73.461	7.5YR3/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b3%含		
	60	VIIH16	31	26	48	73.193	10YR3/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ1mm	3%含	
	61	VIIH16	37	25	56	73.105	10YR3/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒3%含	To-bφ1mm	3%含
	62	VIIH11	34	27	51	73.130	7.5YR3/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	白色火山灰粒子φ1mm	5%含	
	63	VIIH16	26	22	30	73.468	10YR3/2 黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nb粒2%含		
	64	VIIH21	48	30	43	73.384	10YR3/2 黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b5%含	To-Cu3%含	
	65	VII G 20	28	23	17	73.469	1 10YR2/1 黒色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nb粒1%含		
						2 10YR2/1 黒色土	しまり中	粘性中	To-b層の崩落層			

1 検出遺構

区	番号	地点	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	埋 土						
B	66	VII G 20	30	26	15	73.489	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	混和物ほぼなし		
	67												
	68	VIII H 02	54	52	49	73.509	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性やや強	To-Nb粒φ1~3mm 3%含 上部に礫含		
	69	VIII H 01	57	45	47	73.464	10YR2/2	黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nb粒5%含		
	70	VII H 12	28	27	37	73.446	7.5YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	混和物ほぼなし		
	71	VII H 12	29	22	16	73.627	7.5YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	混和物ほぼなし		
	72	VII G 18	35	31	17	73.544	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ2~3mm 5%含		
	73	VII G 18	41	40	14	73.615	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性やや弱	To-Nb粒もしくはTo-bφ2~3mm 10%含		
	74	VII G 23	33	30	39	73.383	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	混和物ほぼなし		
	75	VII I 12	30	28	35	73.757	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒3%含		
	76	VII I 07	31	26	27	73.823	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒3%含		
	77	VII I 08	36	29	46	73.652	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	壁面付近にTo-a10%含		
	78	VII I 13	29	28	31	73.830	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	混和物ほぼなし		
	79												
	80	VII I 08	55	30	52	73.568	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a5% To-Cu?白色ブロック10%含		
	81	VII I 08	47	43	44	73.626	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	黄褐色~白色火山灰φ1~3mm 20%含		
	82	VII I 03	36	30	46	73.594	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a5% To-Cu?白色ブロック10%含		
	83	VII I 03	49	45	47	73.576	10YR3/3	暗褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ1~2mm 壁付近5%含		
	84	VII I 08	34	29	45	73.648	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-a15%上位に含		
	85	VII I 11	41	36	40	73.588	10YR3/2	黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nb粒φ1~3mm 5%ほど層状に入る		
	86	VII I 02	37	33	45	73.630	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	黄褐色~白色火山灰φ1~3mm 20%含		
	87	VII I 02	50	40	31	73.763	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-bφ1~2mm 20%含		
	88	VII I 11	32	23	30	73.690	10YR3/2	黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nbφ1~3mm 5%ほど層状に入る		
	89	VI I 22	50	33	32	73.690	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cuφ1~3mm 10%含		
	90	VII I 06	44	40	33	73.673	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cuφ2~5mm 5%含		
	91	VII I 06	50	39	26	73.644	10YR3/2	黒褐色土	しまりやや疎	粘性中	To-Nbφ1~3mm 5%ほど層状に入る		
	92	VII G 04	27	23	12	73.664	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b5%含		
	93	VII G 03	45	36	21	73.677	10YR3/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Cuブロック3%含		
	94	VII G 02	27	21	23	73.562	10YR3/3	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-Nb粒φ1~2mm 壁付近5%含		
	95	VII H 21	68	50	40	73.441	10YR2/2	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-bφ1~2mm 10%含		
	96	VII G 02	38	34	19	73.496	10YR2/1	黒色土	しまりやや疎	粘性弱	To-Nb粒φ5mm 1%含		
	97												
	98	VII G 10	24	23	26	73.689	10YR2/1	黒色土	しまり疎	粘性やや弱	上位To-b粒1%含 中位To-Nb粒1%以下含む		
	99	VII G 10	42	31	34	73.629	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR2/1 黒色土ブロック状に混じる	しまり疎	粘性弱	火山灰混入状況P98と同じ	
	100	VII G 09	28	28	36	73.684	7.5YR1.7/1	黒色土	粘性やや弱	しまり疎	To-Nb粒?φ1mm~1cm 1%含む		
	101	VII G 09	26	19	18	73.756	10YR2/2	黒褐色土	粘性しまり疎	To-Cu粒φ1mm以下1%含む			
	102	VII G 14	38	29	51	73.472	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR2/1 黒色土中位~下位にブロック状に混じる	粘性やや弱	しまり疎		
	103	VII G 14	36	26	43	73.549	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR2/1 黒色土中位~下位にブロック状に混じる	粘性やや弱	しまり疎		
	104	VII G 18	56	42	35	73.599	7.5YR2/1	黒色土	しまり粘性極めて弱	To-Nb粒φ1~3mm 1%含む		底部礫(20cm弱)2個あり	
	105	VII G 18	31	29	32	73.608	7.5YR2/1	黒色土	粘性しまり疎	To-b粒・To-Nb粒φ1mm~5mm 1%以下含む			
	106	VII G 13	47	32	27	73.710	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり疎	To-Nb粒ブロック状に入る		
	107	VII G 12	33	24	31	73.595	10YR2/2	黒褐色土	粘性やや弱	しまり疎	To-b粒φ1~3mm 1%以下含む 炭化物粒1~3mm 1%含む		
	108	VII G 07	30	23	28	73.608	10YR2/2	黒褐色土	粘性やや弱	しまり疎	To-b粒φ1~3mm 1%以下含む 炭化物粒1~3mm 1%含む		
	109	VII G 22	27	26	21	73.694	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり中	To-b粒φ1~3mm 1%以下含む		
	110	VII G 02	32	29	42	73.347	10YR3/3	黒褐色土	しまり中	粘性中	To-b及びTo-Nb粒10%ずつ含む	P97と遺構名重なる	
	111	VII G 21	52	52	25	73.400	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり中	To-b粒φ1~2mm 1%以下含む		
	112	VII G 03	26	26	15	73.673	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR2/1 黒色土散在	粘性しまり疎	To-b粒To-Nb粒1%以下含む		
	113	VII H 11	32	27	39	73.154	10YR2/1	黒色土	粘性しまり疎	To-b粒1%以下中位に含む			
	114	VII G 15	53	41	51	73.039	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎			
	115	VII H 12	25	22	17	73.456	10YR1.7/1	黒色土	粘性やや弱	しまり疎			
	116	VII H 12	23	22	22	73.450	10YR1.7/1	黒色土	粘性やや弱	しまり疎			
	117	VII H 12	36	32	22	73.466	10YR1.7/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	10YR4/6 褐色土ブロック状に入る		
	118	VII H 07	30	24	19	73.407	10YR2/2	黒褐色土	粘性しまり疎	To-b粒1%以下含む			
	119	VII H 06	37	31	28	73.293	10YR2/1	黒色土	粘性しまり疎				
	120	VII H 16	60	45	34	73.479	10YR2/1	黒色土	粘性やや弱	しまり疎	To-b粒、To-Nb細粒1%含む		
	121	VII H 16	25	20	8	73.702	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり疎	To-Nb粒φ1~5mm 1%含む		
	122	VII H 16	39	30	16	73.636	10YR2/1	黒色土	粘性やや弱	しまり疎	To-Nb粒φ1~3mm 1%以下含む		
	123	VII H 16	61	41	26	73.518	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり疎	To-b粒φ1mm~1cm 1%含む		
	124	VII H 22	39	32	41	73.489	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり極めて疎	炭化材1~5mm 5%含む	SK11を切る	
	125	VII H 11	25	21	27	73.274	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	To-Nb粒?φ5mm 1%含む		
	126	VII H 07	38	30	14	73.462	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	To-Nb粒?φ5mm 1%未満含む		
	127	VII H 11	35	33	16	73.363	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	To-a粒φ5mm 1%未満含む		
	128	VII H 11	34	29	20	73.317	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	To-a粒φ5mm 1%未満含む		
	129	VII G 02	38	32	19	73.908	10YR2/1	黒色土	粘性中	しまり疎			
	130	VII G 09	27	27	15	73.789	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまり疎	10YR4/4 褐色土ブロック状に入る		
	131	VII G 09	41	31	47	73.470	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR1.7/1 黒色土混合土(50%ずつ)	粘性弱	しまり疎		
	132	VII G 06	75	63	30	73.548					図版中	新しいもの	
	133	VII G 11	62	52	37	73.503					図版中		
	134	VII G 08	32	24	17	73.762	10YR2/2	黒褐色土主体	10YR1.7/1 黒色土混合土(50%ずつ)	粘性弱	しまり疎		
	135	VII G 01	30	25	22	73.578	10YR2/1	黒色土	粘性中	しまり疎			
	136	VII G 07	40	30	24	73.670	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	火山灰粒φ1mm~1cm 2%含む		
	137	VII G 13	35	29	23	73.715	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまり疎	火山灰粒φ1mm~1cm 2%含む		
	138	VII G 13	60	50	56	73.420	10YR2/2	黒褐色土	粘性弱	しまりやや疎	白色火山灰粒φ1~5mm 1%含む 黄褐色火山灰少量含む		
	139	VII G 17	32	31	27	73.611	10YR2/1	黒色土	粘性弱	しまりやや疎	白色火山灰粒φ1~3mm 1%含む 黄褐色火山灰φ1~5mm 1%含む		

区	番号	地点	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	底面標高(m)	埋	土		
B	140	VIII G16	34	30	20	73.765	10YR1.7/1 黒色土 粘性中	しまり疎 10YR6/4 にぶい黄褐色火山灰(To-a?)ブロック状に入る		
	141	VIII G16	43	26	13	73.831	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱	しまり疎 10YR6/4 にぶい黄褐色土ブロック状に入る		
	142	VIII G11	77	71	40	73.584	図版中			
	143	VIII G12	48	47	82	73.146	図版中			
	144	VIII G17	46	44	21	73.752	10YR2/1 黒色土 粘性やや中	しまり中 白色火山灰粒、黄褐色火山灰粒φ1mm~1cm1%含む		
	145	VIII G12	32	27	17	73.802	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱	しまり中 白色火山灰粒φ1~5mm1%含む	SK14と重複 SK14より新	
	146	VIII G16	28	26	14	73.837	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱	しまり中 白色火山灰粒φ1~5mm1%含む		
	147	VIII G12	38	30	23	73.681	10YR2/1 黒色土 粘性中	しまり中 白色火山灰粒φ1~5mm5%含む		
	148	VIII G11	39	38	30	73.608	10YR1.7/1 黒色土 粘性やや弱	しまり疎中 しまり中		
	149	VIII F15	40	36	47	73.418	図版中		P151を切る	
	150	VIII G01	34	29	29	73.540	10YR2/1 黒色土 粘性弱	しまり疎		
	151	VIII F15	31	(25)	45	73.428	図版中		P149に切られる	
	152	VIII G08	72	45	47	73.439	図版中		P153に切られる	
	153	VIII G08	27	26	26	73.630	10YR3/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強 To-b3%含む		
	154	VIII G12	30	28	21	73.704	10YR4/2 灰黄褐色	しまりやや疎、粘性中 To-b・Cu(φ1mm)10%含む		
	155	VIII G17	41	36	39	73.584	10YR3/2 黒褐色	しまり中、粘性やや強 To-Cu(φ3~10mm)15%含む		
	156	VII H16	30	23	24	73.526	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 礫(八戸?、φ5mm)数点含む		
	157	VIII G16	33	28	46	73.521	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-b10%含む	SK12を切る	
	158	VIII G16	34	31	44	73.498	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu(φ1~3mm)10%含む		
	159	VIII F14	29	27	35	73.486	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu(φ1~3mm)10%含む		
	160	VIII G21	48	46	26	73.653	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-aテフラ10%含む	SK12を切る	
	161	VIII F14	32	27	17	73.689	10YR2/1 黒色土 粘性弱	しまり疎 To-b粒1%以下含		
	162	VIII F14	30	29	51	73.499	10YR2/1 黒色土 粘性、しまり疎	To-b粒1%以下含 To-a(?)ブロック状に10%含		
	163	VIII F14	34	21	38	73.478	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱	しまり疎 To-b粒To-Nb細粒1%以下含		
	164	VIII F19	27	26	36	73.532	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-b20%含む		
	165	VIII F19	34	32	46	73.466	10YR2/2 黒褐色 粘性、しまり疎	To-aブロック状に入る(10%)To-Nb?細粒φ1~3mm1%含		
	166	VIII F20	32	30	54	73.402	図版中		SK12を切る	
	167	VIII F15	32	25	22	73.635	10YR2/1 黒色	しまりやや疎、粘性中		
	168	VIII F19	30	32	17	73.749	10YR3/3 暗褐色	しまりやや密、粘性やや弱 ゴロタ粒・To-aそれぞれ20%含む		
	169	VIII G11	38	32	40	73.469	10YR2/2 黒褐色土 粘性弱	しまり疎 To-aブロック状に入る(10%)To-Nb?細粒φ1~3mm1%含	SK12を切る	
	170	VIII F25	32	25	28	73.223	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu5%含む		
	171	VIII F25	25	23	15	73.362	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu5%含む		
	172	VIII F20	23	21	22	73.303	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cu2%含む		
	173	VIII G21	30	27	9	73.373	10YR2/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-b・Cu(φ1~2mm)5%含む		
	174	VIII G17	30	25	22	73.241	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cu・b(φ1~3mm)10%含む		
	175	VIII G18	46	35	22	73.231	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu5%含む		
	176	VIII G23	47	33	14	73.354	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-b5%、To-Cu2%含む		
	177	VIII G17	30	26	17	73.304	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-b(φ1~4mm)10%含む		
	178	VIII G18	56	36	17	73.310	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cu2%含む		
	179	VIII G19	35	28	19	73.250	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-b(φ1~4mm)10%含む		
	180	VIII H03	61	49	11	73.329				
	181	VII K21	40	32	19	73.233	10YR3/2 黒褐色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu(φ1mm)2%含む		
	182	VI J19	31	30	28	73.153	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1~2mm)10%含む		
	183	VI J21	36	36	20	73.280	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-b5%含む		
	184	VII H12	21	18	13	73.176	10YR2/1 黒色	しまりやや疎、粘性やや弱 To-Cu2%含む		
	185	VII H12	26	24	13	73.183	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中		
	186	VII H12	28	26	15	73.164	10YR3/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中 To-Cu5%含む		
	D(西)	1	IV L23	31	30	27	74.198	10YR2/2 黒褐色	しまり、粘性ともに中	
		2	V L03	33	30	19	74.218	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1~2mm)10%含む	
		3	V L02	26	23	12	74.115	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1~2mm)10%含む	
		4	V K05	43	30	11	73.934	10YR2/1 黒色	しまり、粘性ともに中 To-Cu(φ1~2mm)10%含む	
	(東)	1	III Q08 (45)	(20)	22	74.122	10YR3/3 暗褐色土 粘性中	しまり中 To-Cu粒1%含む To-Cu固塊ブロック状に若干はいる		
		2	III Q08 (48)	(18)	24	74.101	10YR3/3 暗褐色土 粘性中	しまり中 To-Cu粒1%含む To-Cu固塊ブロック状に若干はいる		
	E(西)	1	IV O01	27	25	36	74.426	10YR2/2 黒褐色土 粘性中	しまり疎 To-Cuブロック5%含む	P02を切る
		2	IV O01	27	(22)	38	74.402	10YR2/2 黒褐色土 粘性中	しまり疎 To-Cuブロック層状に含む	P01に切られる
		3	IV O01	31	30	47	74.236	10YR2/2 黒褐色土 粘性中	しまり疎 To-Cuブロック2%含む	SK02を切る
		4	IV N05	23	22	40	74.344	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中	しまり疎 To-Cuブロック2%含む 底部に礫あり	
		5	IV N05	37	34	87	73.893	10YR2/2 黒褐色土 粘性やや中	しまり疎 To-Cuブロックφ3cm2%含む	
		6	III O23 (37)	(18)	82	73.659	図版中			
		7	III O22	37	33	74	73.785	図版中		
		8	III O23	37	37	52	74.434	図版中		
		9	III O24	55	53	77	74.009	図版中		
		10	III O24	45	40	55	74.163	図版中		
		11	III O25	50	48	85	73.830	図版中		
		12	III O25	60	51	75	73.991	図版中		
		13	III P16	38	37	20	74.482	図版中		
		14	IV O02	52	44	51	73.950	図版中		
		15	IV O03	50	43	41	74.035	図版中		
		16	IV O04	58	(44)	58	73.877	図版中		
		17	III O23	43	43	88	73.886	図版中		
	F	1	III S03	33	27	25	74.653	10YR2/1 黒色	しまりやや疎、粘性中 To-Cu(φ~3mm)5%含む	
		2	III S20	53	52	23	74.542	10YR2/1 黒褐色	しまり、粘性ともに中 ゴロタ粒(φ1~5mm)10%含む	
		3	III R15	28	25	28	74.457	10YR2/1 黒色	しまり中、粘性やや強 ゴロタブロック(φ2~4mm)10%含む	

## 2 出土遺物

本調査区の出土土器は中コンテナで4箱、縄文時代の遺物が最も多く、次いで土師器、近世陶磁器の順となる。縄文土器は後期前葉のものがほとんどで、埋設土器を除いて破片での出土である。唯一F区でまとまりをもって出土した以外は小破片で復元もほとんどできなかった。また、縄文土器の中でも特に粗製のものは一見土師器の様相を呈しており、かつ大変もろくなっており判別しがたいものもあった。

	A区	B区	C区	D区(西)	D区(東)	E区(西)	E区(東)	F区	計
縄文土器	1165.1	486.4	1550.8	2227.2	39.7	2520.0	493.1	3139.8	11622.1
土師器	108.2	29.9	197.7	81.9	0	122.9	36.0	155.9	732.5

\*単位……g

## (1) 縄文土器 (第20～25図、写真図版23～26)

縄文土器の器種としては深鉢がほとんどで、注口土器と思われるものが1点ある。胴部破片で深鉢としたものの中には浅鉢の可能性もぬぐえないが、断定できないものは深鉢とした。分類は最も出土量の多い深鉢の外反する器形(Ⅱ群)を中心として文様ごとに分けた。各分類の説明はⅡ群にて述べる。なお、小破片のため器形の不明なものは、文様のみから分類し観察表に示してある。

Ⅱ群 深鉢で頸部にてやや凹み、口縁部にかけて外反する器形のもの。平縁口縁と波状口縁のものがある。本調査区では、波状口縁のものが最も多く出土している。文様からA～E類に分けた。

A類—隆帯+磨消縄文……口縁部付近に隆帯が巡り、磨消縄文が施されるものである。破片全て接合復元できなかったが、ほぼ全体の様子がわかるもので125がある。4個体の波状口縁で、2本の隆帯が口縁部をめぐる。波状部下に雫状の垂下隆帯があり、2条の平行沈線がセットとなっている。胴部中央まで磨消縄文がなされ、底部にかけてはヨコナデ調整が施される。133・134も同類である。

B類—磨消縄文……A類とは違い、磨消縄文が主となっているものである。129・130・132と2条の平行沈線がセットとなる。

C類—隆帯……磨消縄文がなく隆帯のみのものである。やはり波状口縁のものが多く、口縁部の起伏に合わせて隆帯が巡る。波頂部において、渦巻き状、曲線、逆U字形などが作られる。

D類—沈線……沈線が主たる施文のもの。曲線や多条の平行沈線があり、波状口縁と平縁口縁のものがある。119は波頂部表側に突起部があり、内側にも同時に貼り付けされ、厚みを増した波頂部はC類と同様押圧痕がある。

E類—地紋のみ……隆帯や沈線がなく地紋のみが施されるもので、a単節縄文・b撚糸文(網目状撚糸文は②)・c条線文などに分かれる。今回の調査区からはどの区(A区～F区)からも既述の埋設土器である22に代表されるようなb②網目状撚糸文の破片が多く出ている。破片数が多いわりに接合復元して同個体と判断できたものは少ない。68・69は同一個体と考えられる。口縁部においても横位に網目状撚糸文が施文されている。

I群 深鉢で、口縁部にかけて直立した状態で立ち上がる器形のもの。

I群では、Ⅱ群に見られるA類～D類のような地紋以外の文様は確認できなかった。

E類—地紋のみ……Ⅱ群同様、a～cに分かれる。I E a類の70は、摩耗が著しく原体がはっきりし



ない。121は、他の土器と若干胎土が違い、繊維を多少含む。複節縄文が施されている。この土器と類似した胎土の土器、文様の持つ土器はない。I E b類の128は、口唇部はナデ調整され、ほぼ口縁部～胴部2/3まで施文、約2cmごとに結束文が見られる。I E c類での条線文は線の太さ、細かさ、深さなどさまざまなパターンがある。2本セットのような描かれ方をされた条線文もある。

F・G類—その他……136は、口縁部を沈線によって区画し、無文帯を作っている。同様のタイプは確認できていない。小破片資料だが、105は曲線の沈線が巡り、間に刺突が施される。136同様、刺突が施されるタイプの土器は同資料以外出土していない。135は条線文ではあるが、格子状に施文される。

大半は深鉢であるが、他に台付鉢(67・122)、壺(29・38・41・65・79・86・98・104・108・115)、注口土器(131)と思われる破片が出土している。67と122は台付鉢の台部のみ資料である。どちらも3箇所(122は推測)の凹みがあり、それをめぐるように平行沈線が施される。67の底面には十字に刻みのようなものがある。状態を見ると木葉痕などの残存には見られない。青森県の本戸口遺跡からは、台付ではないが、底面に二重丸に十字が描かれた小鉢が出土しており、第Ⅲ群(縄文時代後期十腰内I式)に分類している。青森県の小牧野遺跡では、第Ⅲ群の4～5類の中に凹みを持ち沈線を巡らしている台付鉢が出土している。104は小壺であるが、朱塗りの可能性がある。既述した29と同様98も口唇部に鋸歯状圧痕文があり、蓋付壺の可能性が高い。いずれも細い沈線にて隆帯を際立たせている。吊下部分となるような穿孔箇所はない。縄文時代中期末葉から後期前葉にかけて見られるもので、大日向遺跡からも11点出土している。131はやはり破片資料であるが、小礫が多く入るなど胎土や焼きの状態が他と若干違う。後期後半と見られる。

今回出土した土器は、前十腰内式と呼ばれるものと十腰内Iの範疇に収まるものがほぼ同じ検出面で出土している。縦位に区画されたものはないが、出土遺物の大半が破片であり、全くないとは言い難い。全体的に網目状撚糸文が施文されているものが多い一方で、縦位に施文された条線文も割合多く出土している。また横位に展開する磨消縄文に胴部中央から胴部下半まで網目状撚糸文が施文されているものもある。細分されつつある後期前葉の編年に則して分類すべきではあるが、破片資料が多く、分類には至らなかった。

## (2) 土師器(第20・21・29図、写真図版29)

土師器の出土量は、土器全体の約6%に過ぎない。そのような中で、A区の西部から出土した165は唯一図にすることができた遺物である。IV層上面での出土で遺構には伴っていない。外面はナデの後、全体的にミガキ調整が行なわれている。内面は全面にミガキが施され、黒色処理されているが、一部処理のあまいところもある。胎土は海綿状骨針が多く含まれ、小礫も含む。焼成の状態は良である。口縁部は丸縁で、体部から自然に内湾ぎみに立ち上がる。残存部分の一部においては体部下半部に段があるように見受けられるが、周囲全てに段が巡るわけではなく強いナデ痕と見られる。底部はナデ→ミガキの丸底である。口径、器高から8世紀と思われるが、段がないことから後半まで下るものではないかと思われる。181は内面がミガキをかけられ黒色処理された底部資料で、器形から鉢と考えられる。

土師器ではないが、同時期と思われる土器として217がある。小砂粒を胎土に含み、内面はミガキ外面もミガキ+黒色であり、一部沈線がある。岩手県の遺跡では奈良の時代の遺跡から、土師器とともに鋸歯状や連孤状の文様が認められる土器がしばしば出土している。これらは北大式土器に関連するものとして考えられている。本遺跡も同時期の土師器が出土しており、この土器も小破片ではあるが、北大式土器に関連する遺物の可能性もあり掲載することとした。

## (3) 石器 (第20～22・26～29図、写真図版26～28)

石器は、中コンテナで2箱出土しているが、礫石器が多いため、点数としては多くない。掲載したものは34点である。うち2点は配石の参考資料として写真掲載をしている。

遺構内出土は9点で、12号土坑から出土した磨石は被熱している。同様に21号土坑から出土した18～20も被熱している。18・19ともに磨石だが、特に19は13と形状を等しくし、大変小さい。遺構外からの出土で154・161も同様である。全面に作業面が見られ、道具としての磨石であったか不明である。20は被熱によってもろくなり欠損している。21・25は礫器である。縄文早期に見られる石器だが、どちらもB区からの出土であり、昨年度調査区では早期土器片も見つかっていることから紛れ込んだ可能性もある。54は竪穴住居状遺構内から出土した石鏃である。石鏃は今回の調査では1点のみの出土である。

台石としたもので、141は1/2 (推定) 程度欠損しているが両面ともかなりの被熱を受けている。やや平坦であり、へこみ等は見られない。147は片面からのみ穿孔加工されている。本来はもっと大きいもので中央に穿孔部分があったのかもしれない。砂岩で大変もろく、時期も用途もまったく不明である。

磨石・凹石は全体の約1/3である。これらの石器は作業面として磨り部分と凹み部分が混在しているが、145については、凹みのみで作業面が極めて限定され、使用痕が深い。今回の石器出土は、全体の印象として土器量に比べて少なく、また剥片石器が特に少ない感がある。また、加工面については加工作業が少ないまま使用され、使用のための欠損・摩滅が少ないことなども特徴である。使用頻度が少なかったのかもしれない。ただし縄文時代遺構の検出された範囲が限られていることも一因として考えられる。

## (4) 土製品・石製品・琥珀 (第22・26・29図、写真図版26・28)

土製品は6点出土している。5点は土器片円板、1点は土偶である。円板は1点を除き、縄文土器胴部破片で3～4cmほどの大きさを有する。土器破片として掲載した中に土製品に極めて近いものもあるが、単なる破片である可能性も否めず、今回は側面に一部でも研磨が見られるものを土製品とした。137の土偶は、長さ2.15cm、幅2.4cmの大変小さいものである。頭部を欠いているが、首が前に突き出ている様子がわかる。左腕の一部を欠いているが、右腕同様、肩から胴部脇に向かって穿孔されている。脚部は欠損している。胸や腹部の表現はないが、前後部ともナデ調整をして丁寧に作られている。青森県の小牧野遺跡などからは似たような土偶が出土している。大きさは当該遺物よりも若干大きい、前傾姿勢をとり、腕を簡略化し両肩から各脇に穿孔する、腹部をくぼませるなど大変類似している。出土している土器類と同じ縄文時代後期前葉に見られる土偶である。

石製品は岩版と見られるもの2点が出土している。どちらも凝灰岩製で加工しやすいものを選び、表裏両面を平滑的に研磨し側縁も合わせて研磨されている。164は三角形をなし、2条の沈線が縁辺に刻み込まれている。前述の小牧野遺跡でも900点を超える石製品が出土しており、三角形岩版と円形岩版がそれぞれ4割を占める。この時期には多く出土するものようである。57は竪穴住居状遺構から、164はF区の最も土器集中区から見つかっており、同様に縄文時代後期前葉と考えられる。

琥珀については、分析の結果久慈およびいわき産の可能性があることがわかった。本遺跡は久慈に比較的近く地理的観点から、久慈産の可能性が高いと考えられる。同地区の人々との交流があったことを示す資料である。

## (5) 近世陶磁器・古銭・その他(第20・30図、写真図版29・30)

54点出土している。そのうち近世のものと判断した29点を掲載した。どの区からも出土しているが、A区とB区が最も多い。肥前産が4割強を占めるが、在地産と思われる不明のものも多い。

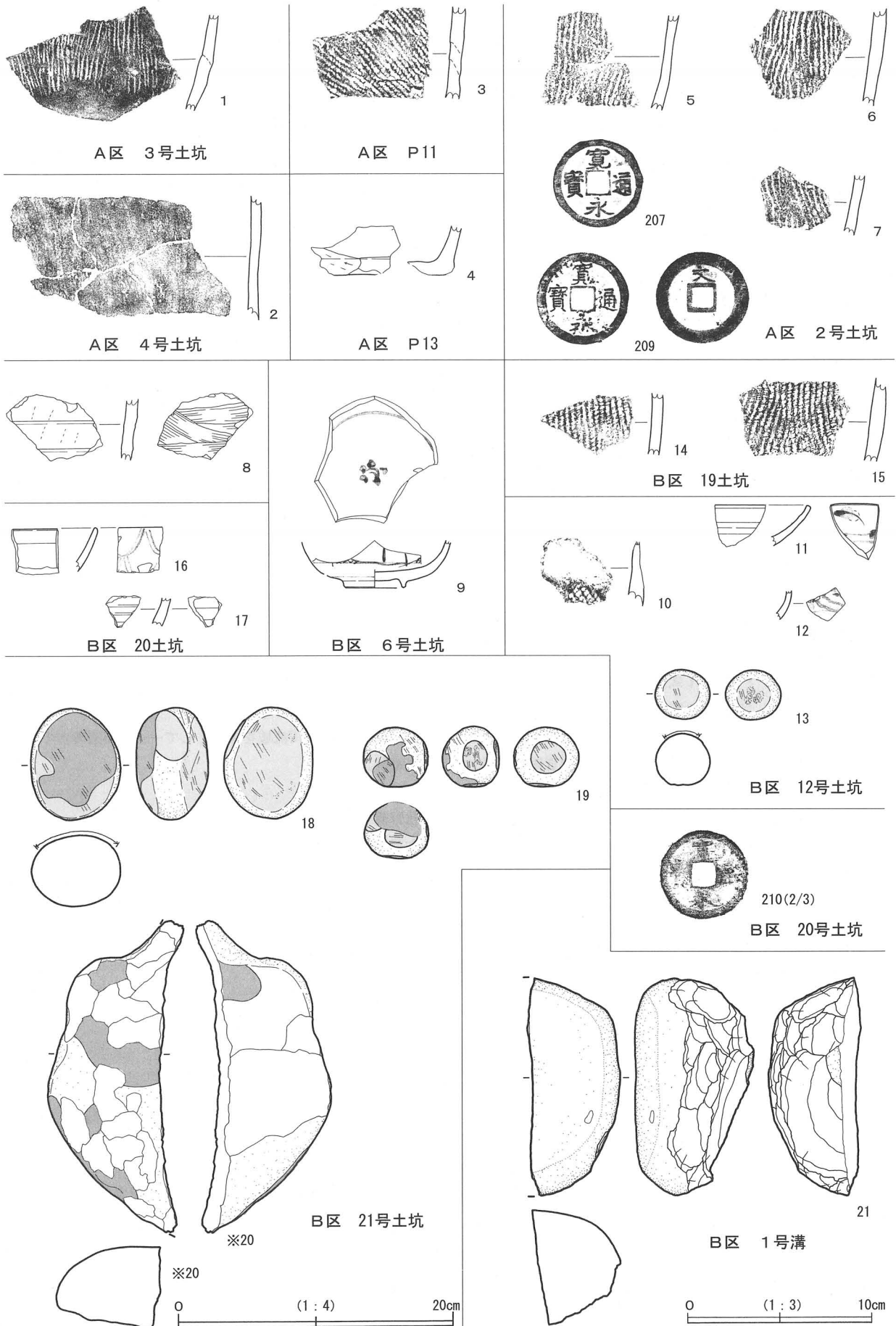
古銭は全部で8点出土している。近世陶磁器と同様にA区とB区が多い。8点のうち2点は鉄銭でサビが大変進んでいる。文字が読み取れる銅銭6点はいずれも「寛永通宝」である。そのうち、207と211は古寛永である。210は摩耗が激しく、他のものより判断しづらいが1726(享保11)年初鑄の新寛永ではないかと思われる。

213は泥面子である。泥面子は江戸時代の玩具とされ、畑から見つかることが多い。碁石形や人形形や丸形のものがあり、人形形では七福神や魚などが描かれ、丸形では家紋や文字など様々な絵柄があるようである。本遺物は丸形で、模様は何を模ったものかはっきりしない。1点のみの出土である。

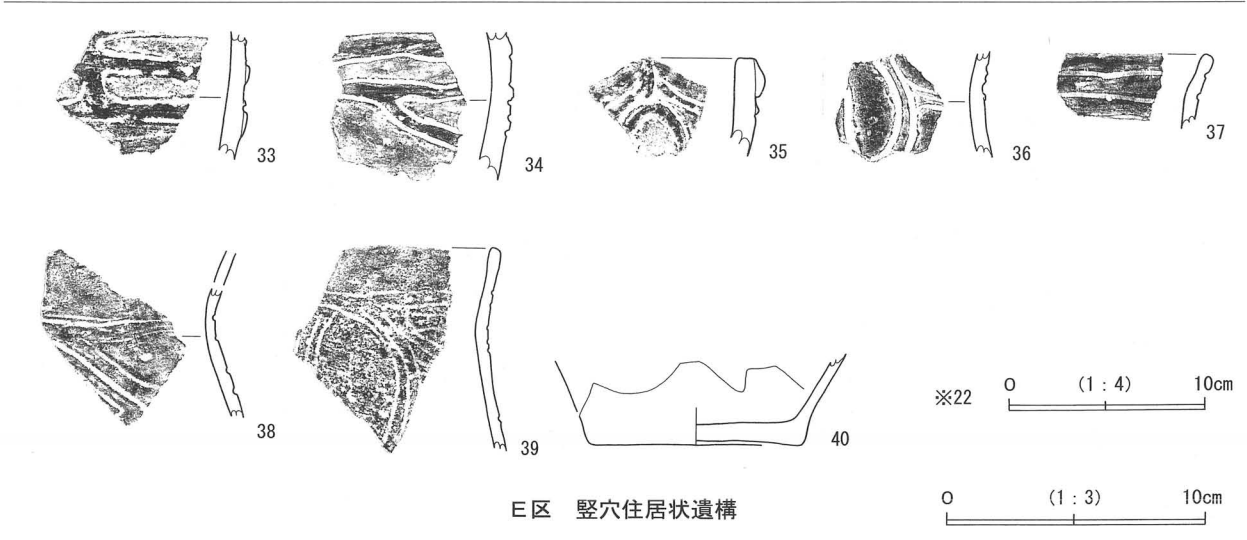
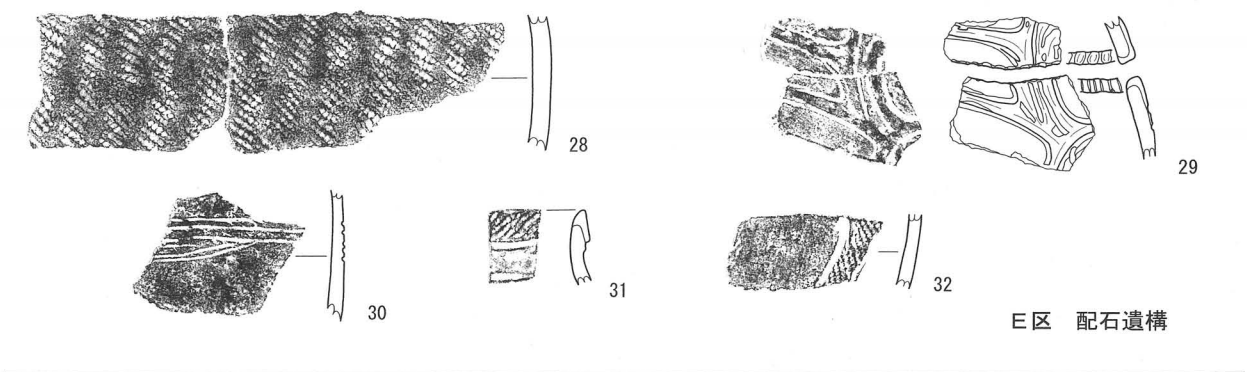
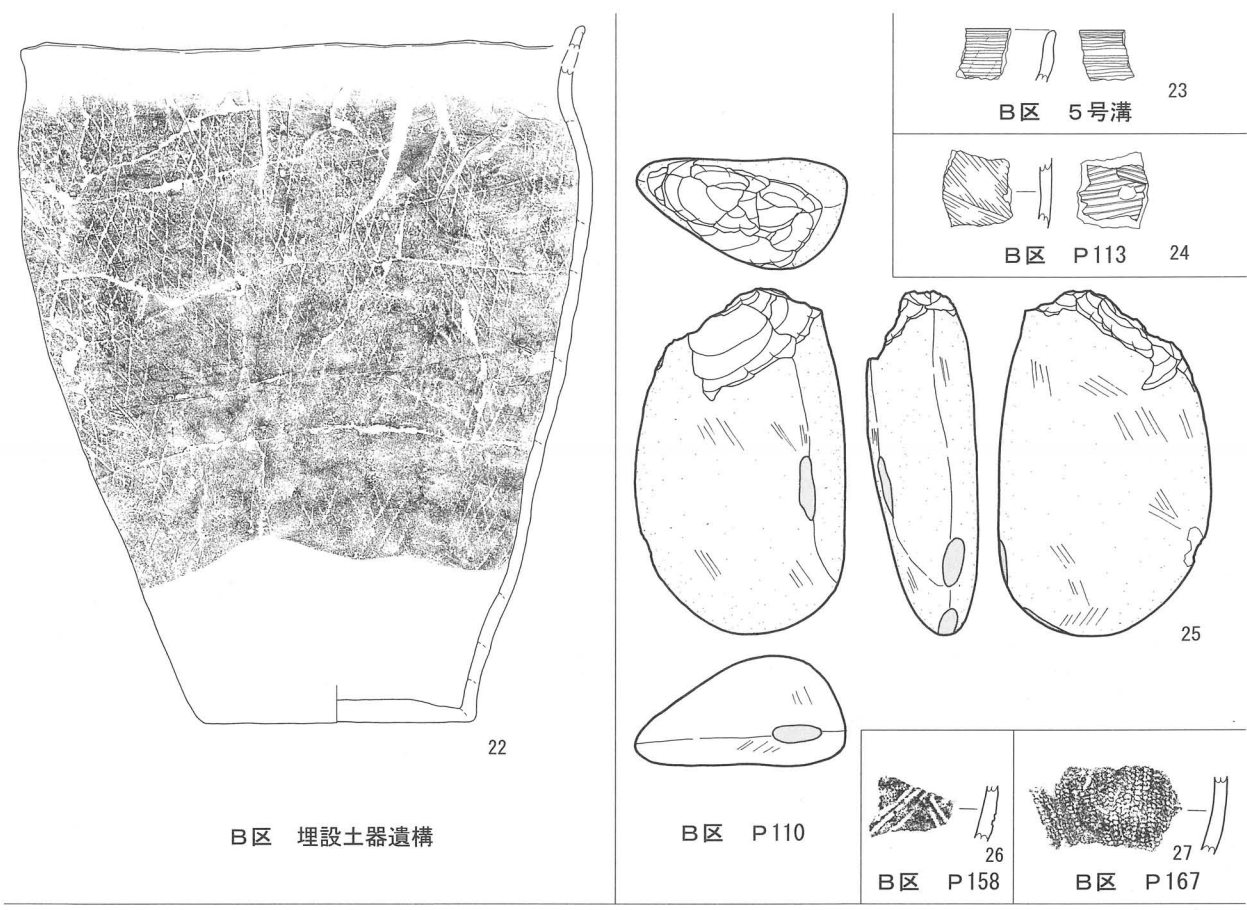
B区東側からは、麦酒瓶(206)が出土した。参考資料として写真のみの掲載とした。緑ガラスで器高は24.4cm、瓶下部には「商標 日本麦酒醸造株式会社 登録」と銘がある。「日本麦酒醸造株式会社」は、前身の「加富登麦酒会社」から1922年に改称(ユニオンビール販売)、1933年には「大日本麦酒会社」と合併し、「日本麦酒醸造株式会社」の名はなくなるようである。1922~33年のごく短い期間にのみ製造されたビールのようなものである。その他、今回は掲載しなかったが、B区からは鉄釘(丸釘)やインク瓶などのガラス製品などもあり、同じような時期のものと考えられる。

## 参考文献

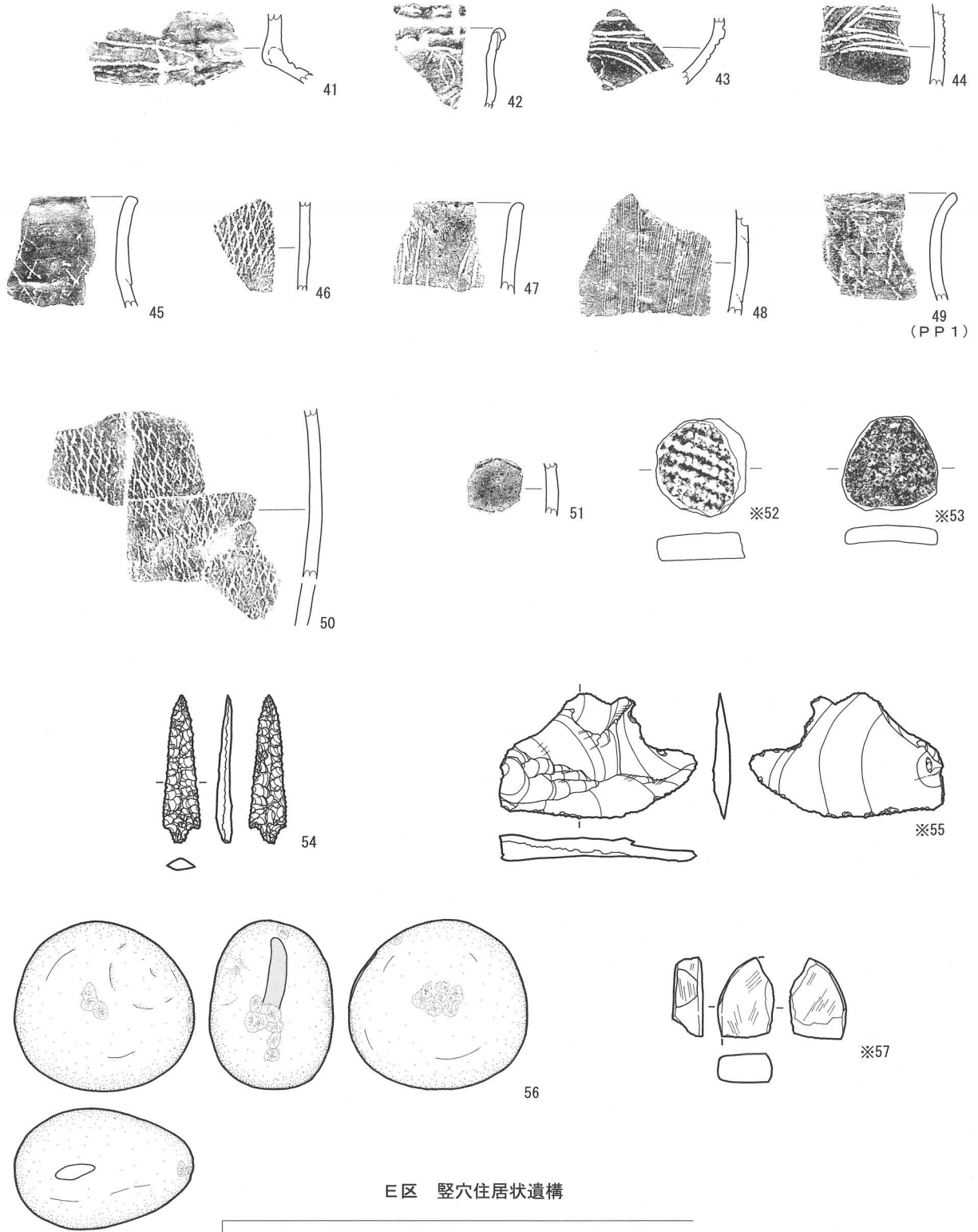
- 葛西 励 1979 「十腰内I式土器の編年的細分」北奥古代文化第11号 北奥古代文化研究会  
 中村良幸 1986 「岩手県の配石遺構」北奥古代文化第17号 北奥古代文化研究会  
 宇部則保 1989 北海道考古学 第25輯「青森県における7・8世紀の土師器—馬淵川流域を中心として—」北海道考古学会  
 青森県教育委員会 1983 青森県埋蔵文化財調査報告書第84集「葦窪遺跡」  
 青森県教育委員会 1985 青森県埋蔵文化財調査報告書第101集「沖附(2)遺跡」  
 青森市教育委員会 2005 青森市埋蔵文化財調査報告書第85集「小牧野遺跡」発掘調査報告書IX  
 青森県平賀町教育委員会 1983 平賀町埋蔵文化財報告書第12集「木戸口遺跡」  
 青森県三戸郡倉石村教育委員会 1996 青森県三戸郡倉石村埋蔵文化財調査報告書第1集「薬師前遺跡」  
 兵庫県埋蔵銭調査会 1996 「日本出土銭総覧」  
 瀬戸市史編纂委員会 1998 愛知県瀬戸市「瀬戸市史陶磁史篇六」  
 矢部倉吉 2004 「改訂新版 古銭と貨幣」金園社  
 集落遺跡検討会 2004 集落遺跡検討会「岩手県土師器集成」(4~8世紀)  
 土偶研究会 2007 第4回 土偶研究会発表資料  
 函館市総務部市史編さん室 1980「函館市史」通説編第1巻  
 函館市総務部市史編さん室 1990「函館市史」通説編第2巻  
 (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第121集「大久保遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1999 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第303集「横間II遺跡・谷地田I遺跡・有矢野遺跡・有矢野館遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第317集「川岸場II遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 2000 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第323集「下村遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 2006 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第490集「平成17年度発掘調査報告書 2006」



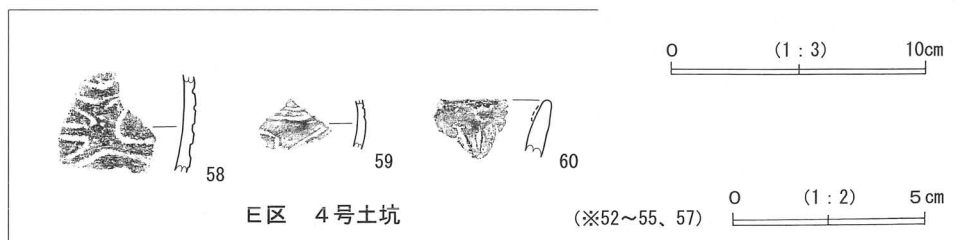
第20图 遺構内出土遺物①



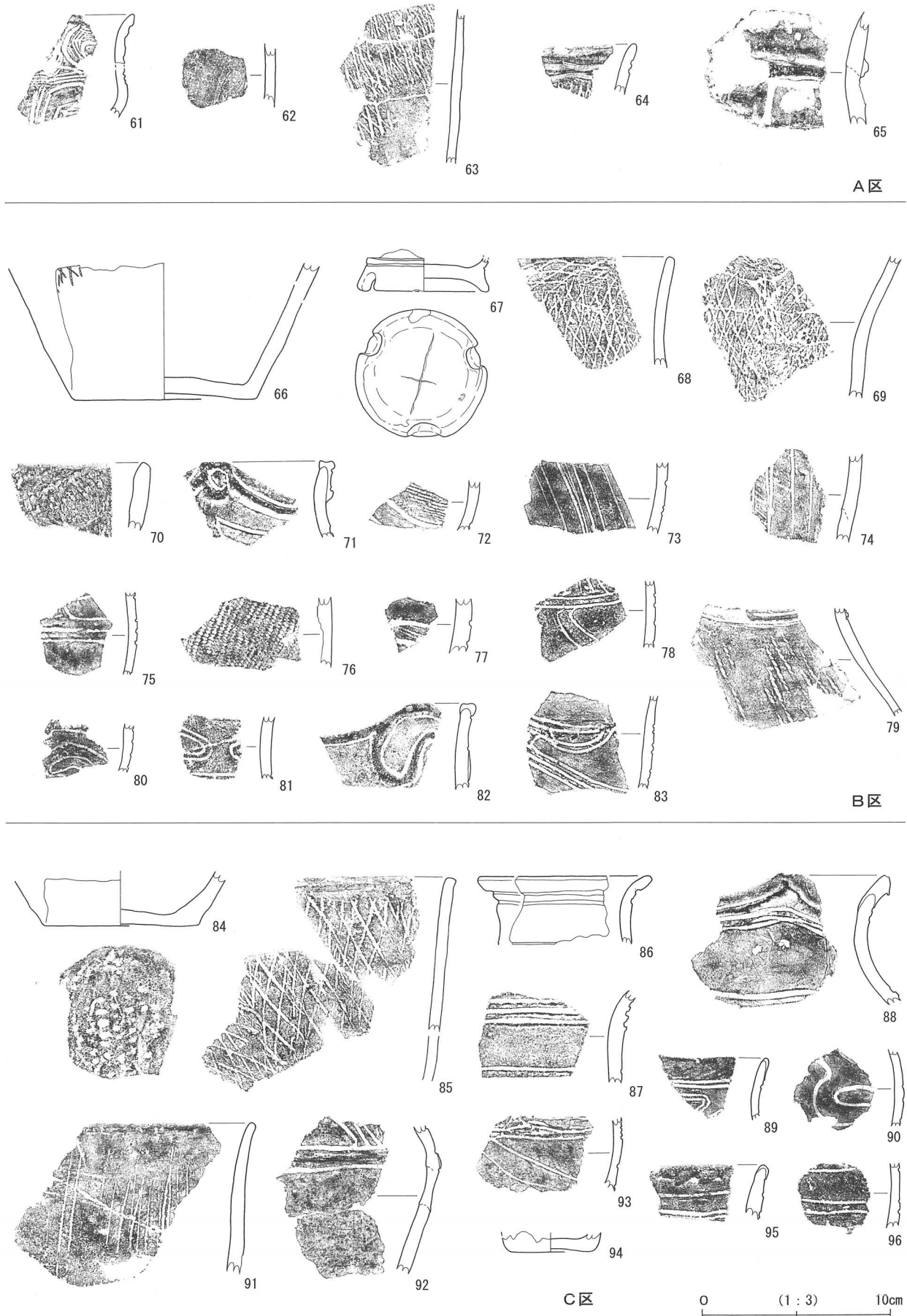
第21図 遺構内出土遺物②



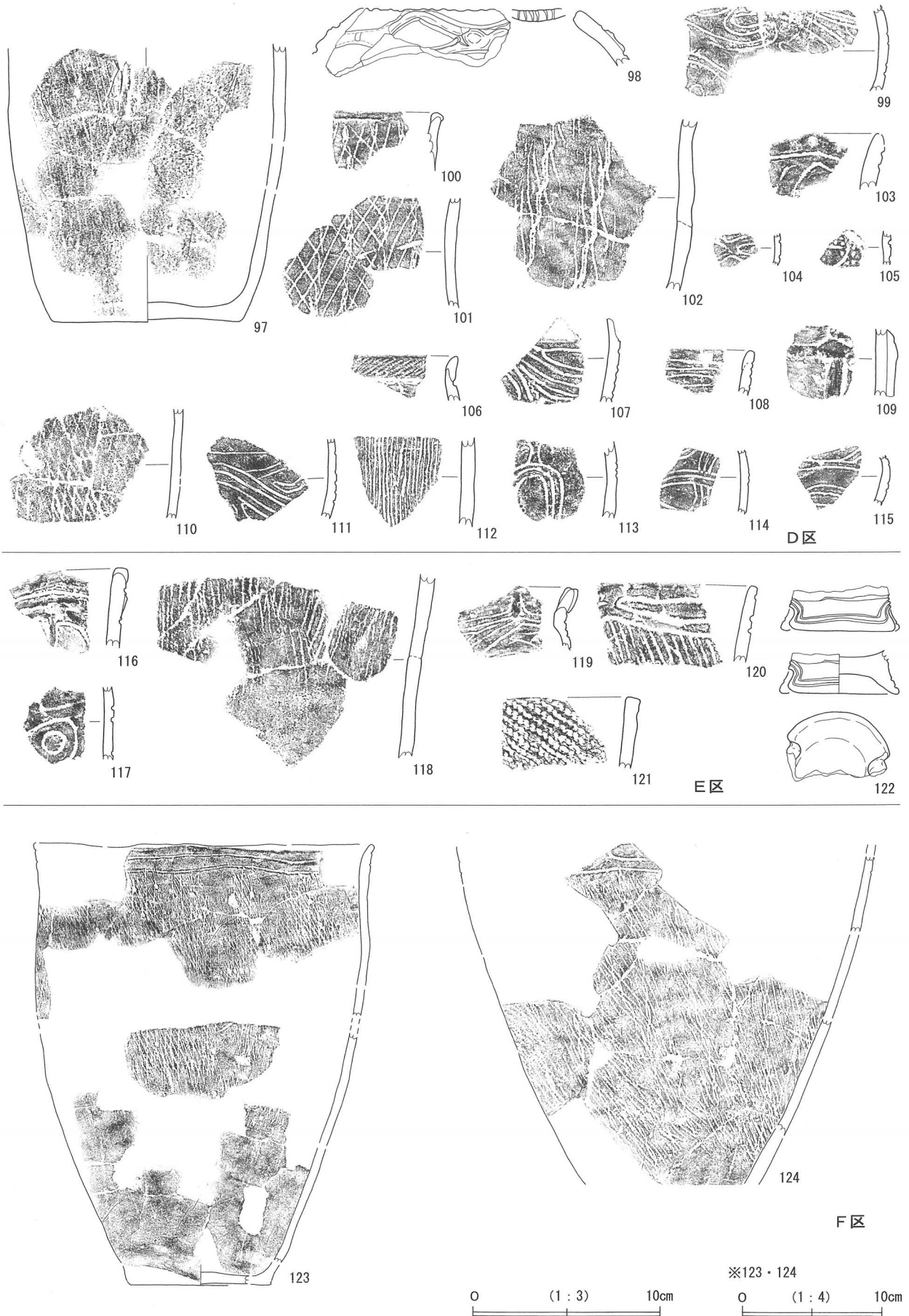
E区 竖穴住居状遺構



第22図 遺構内出土遺物③

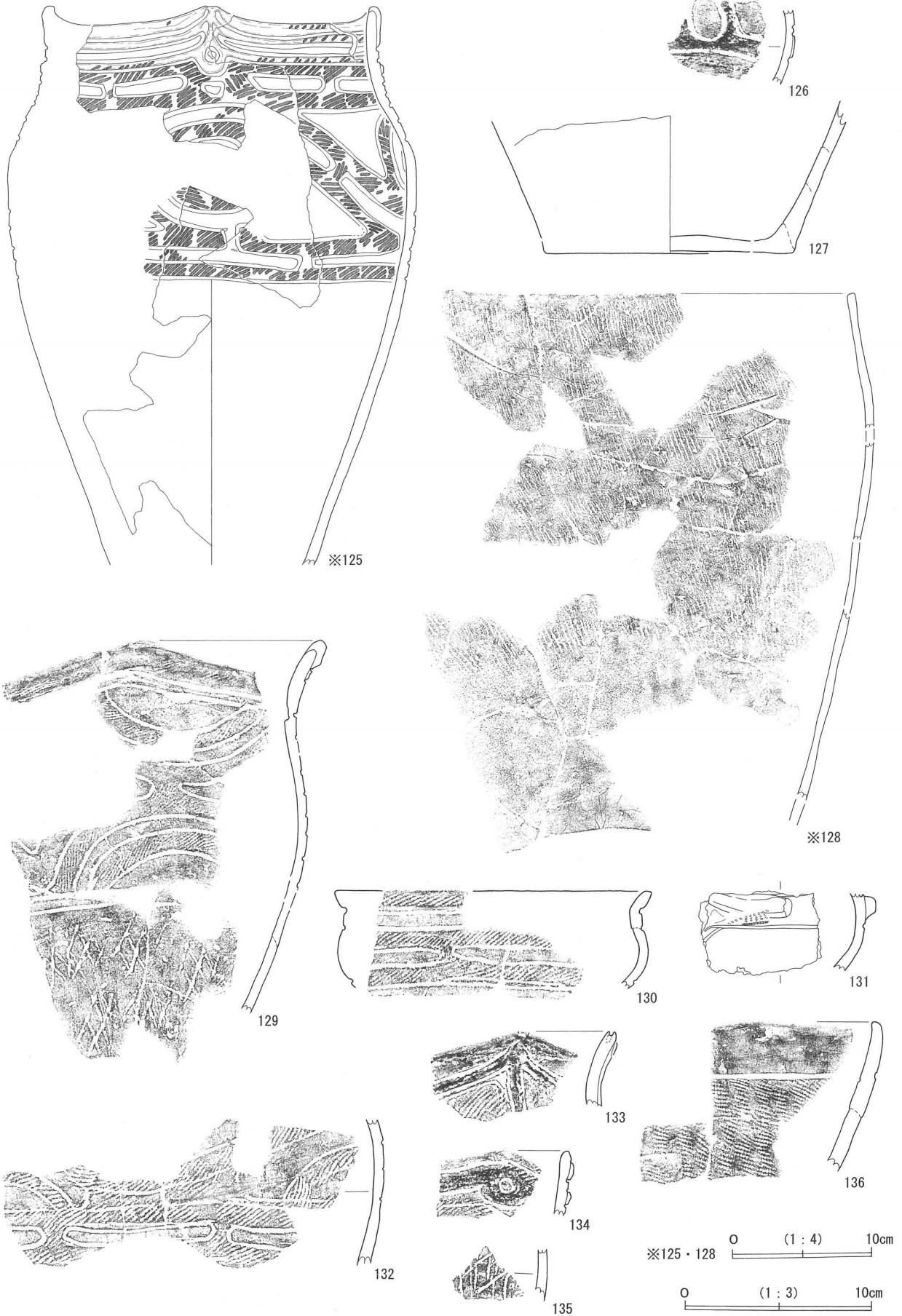


第23図 遺構外出土遺物①

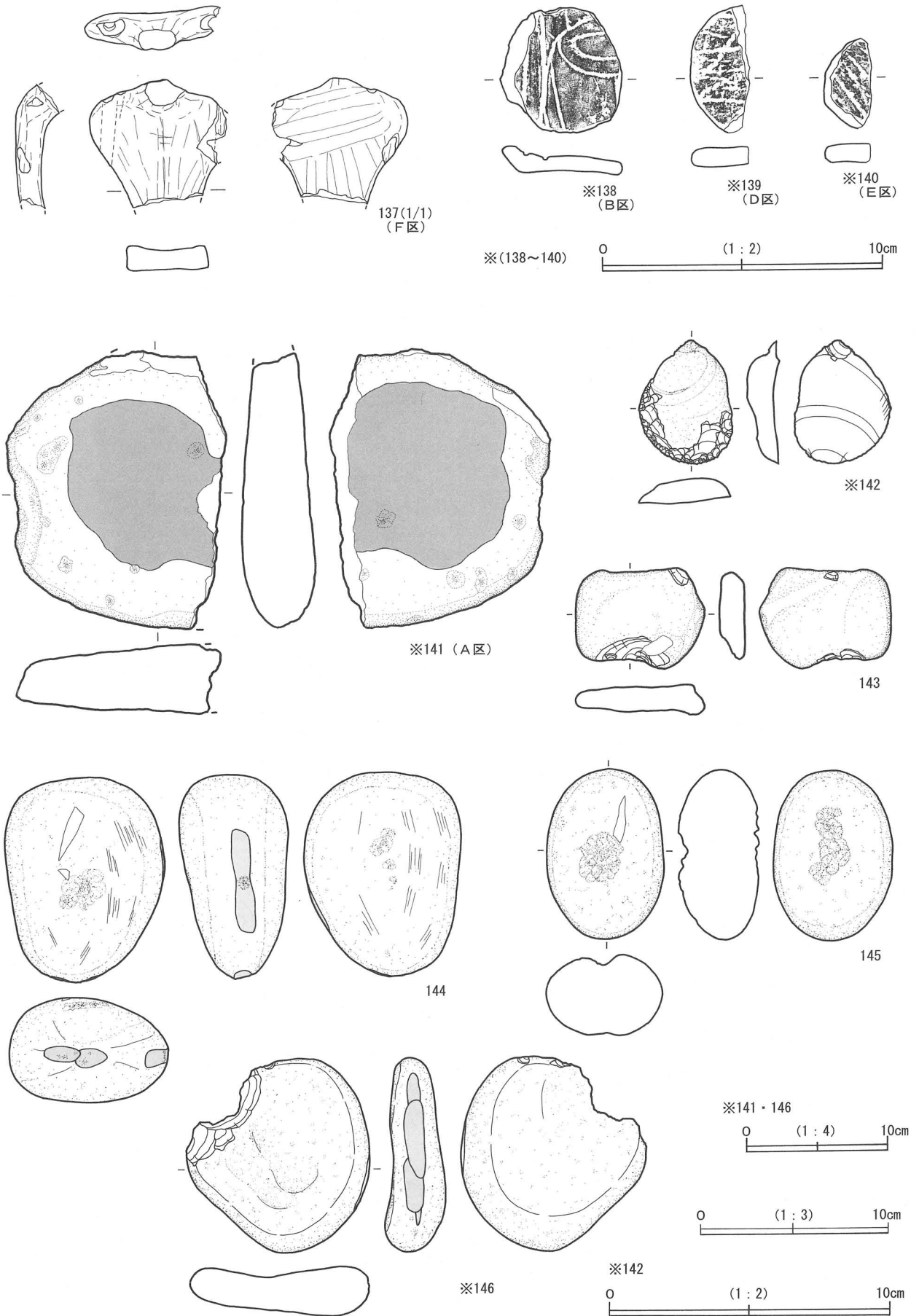


第24図 遺構外出土遺物②

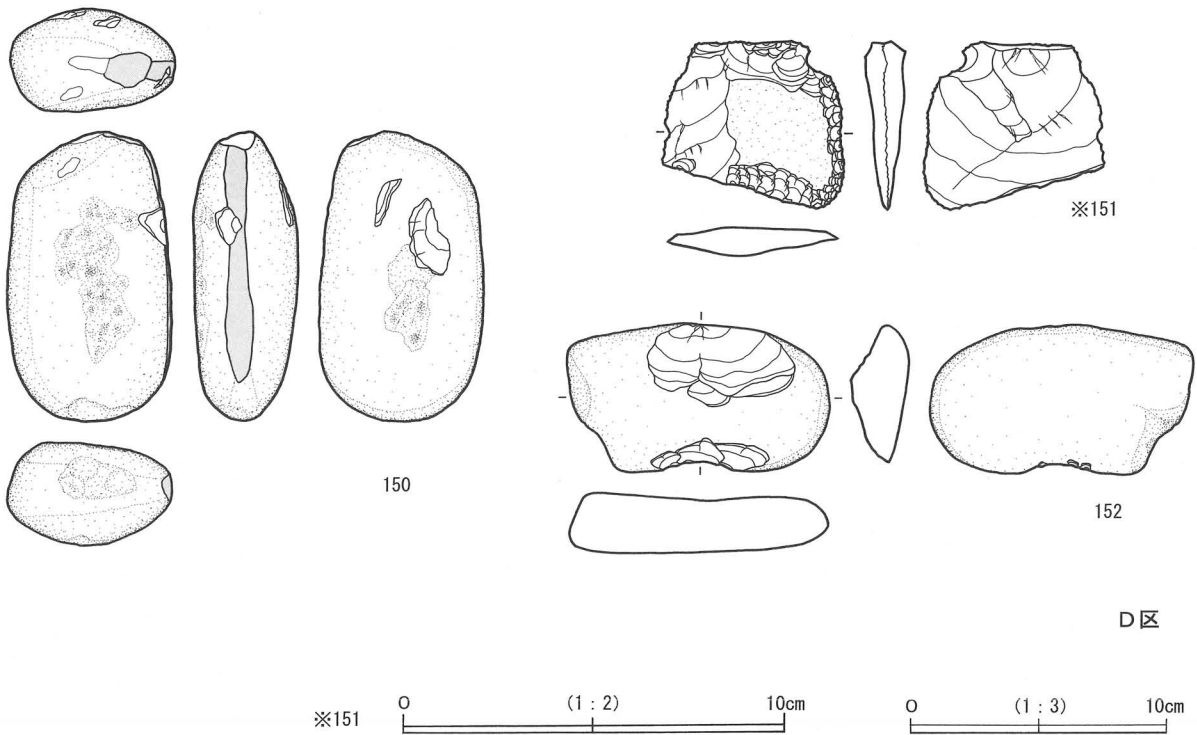
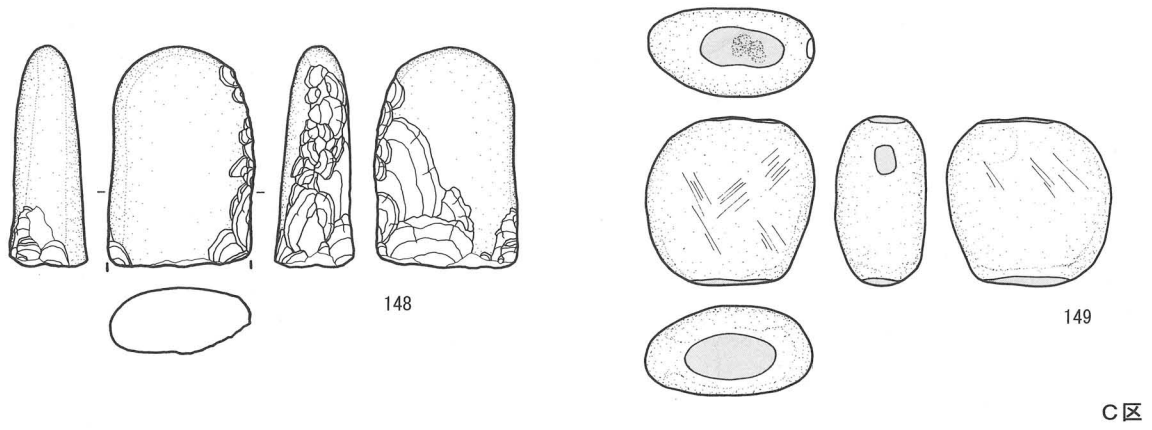
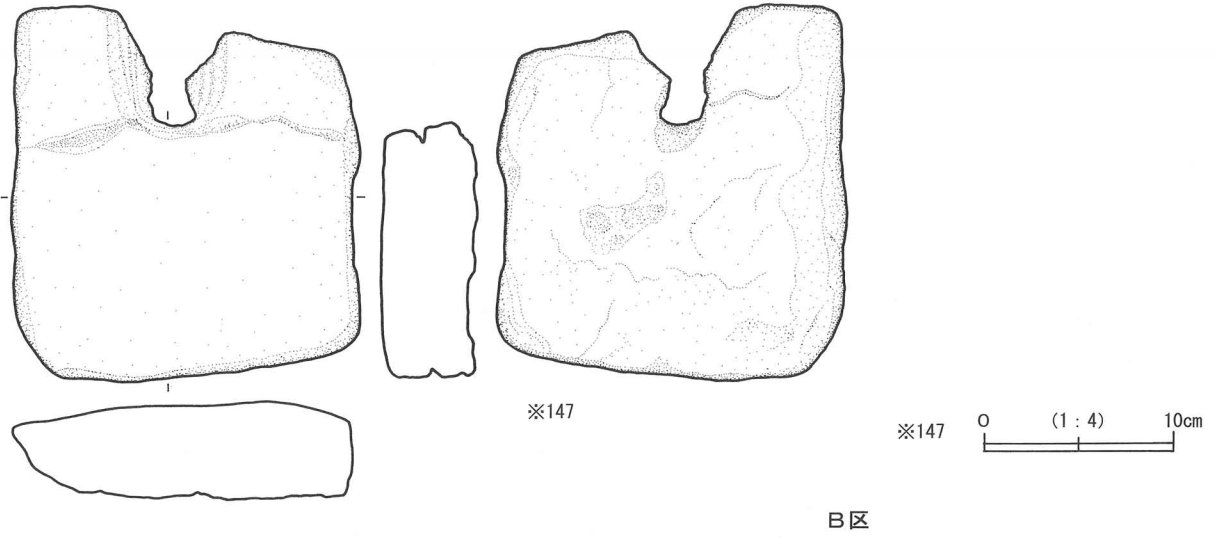




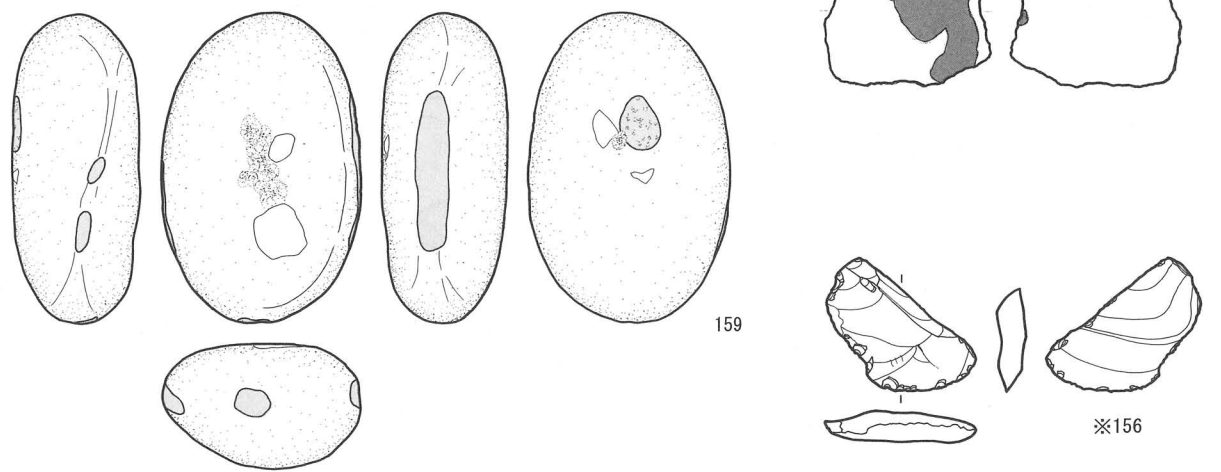
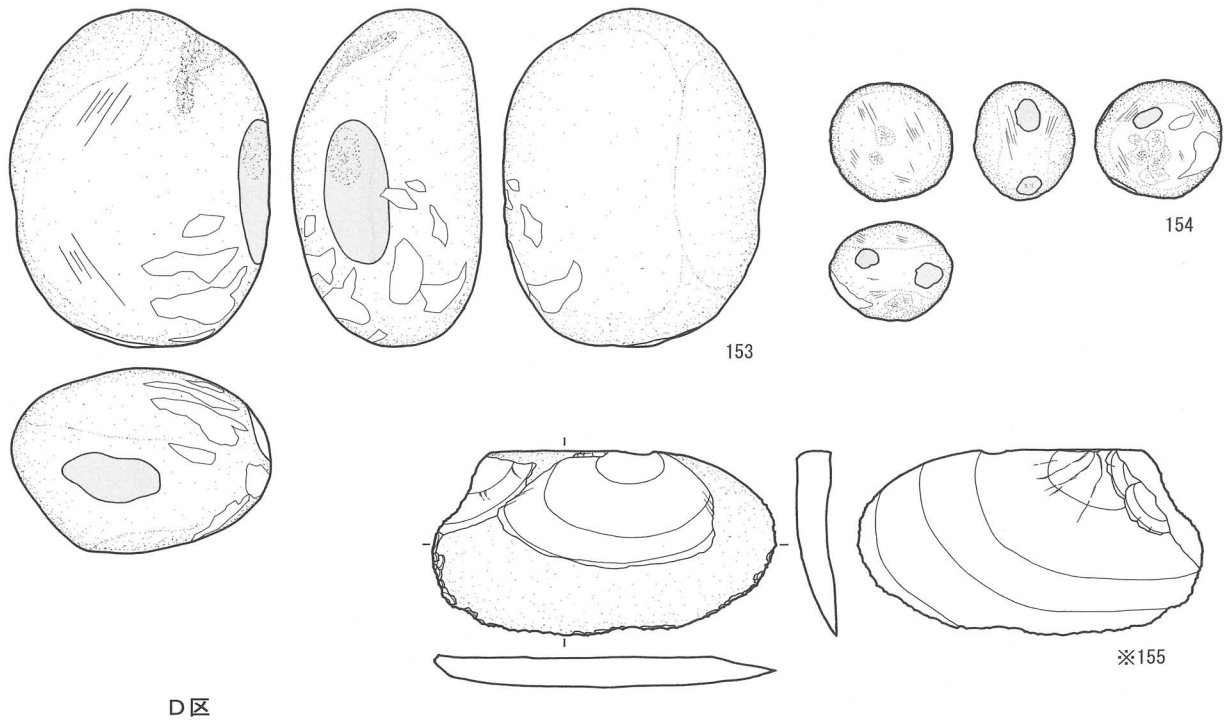
第25図 遺構外出土遺物③



第26図 遺構外出土遺物④



第27図 遺構外出土遺物⑤

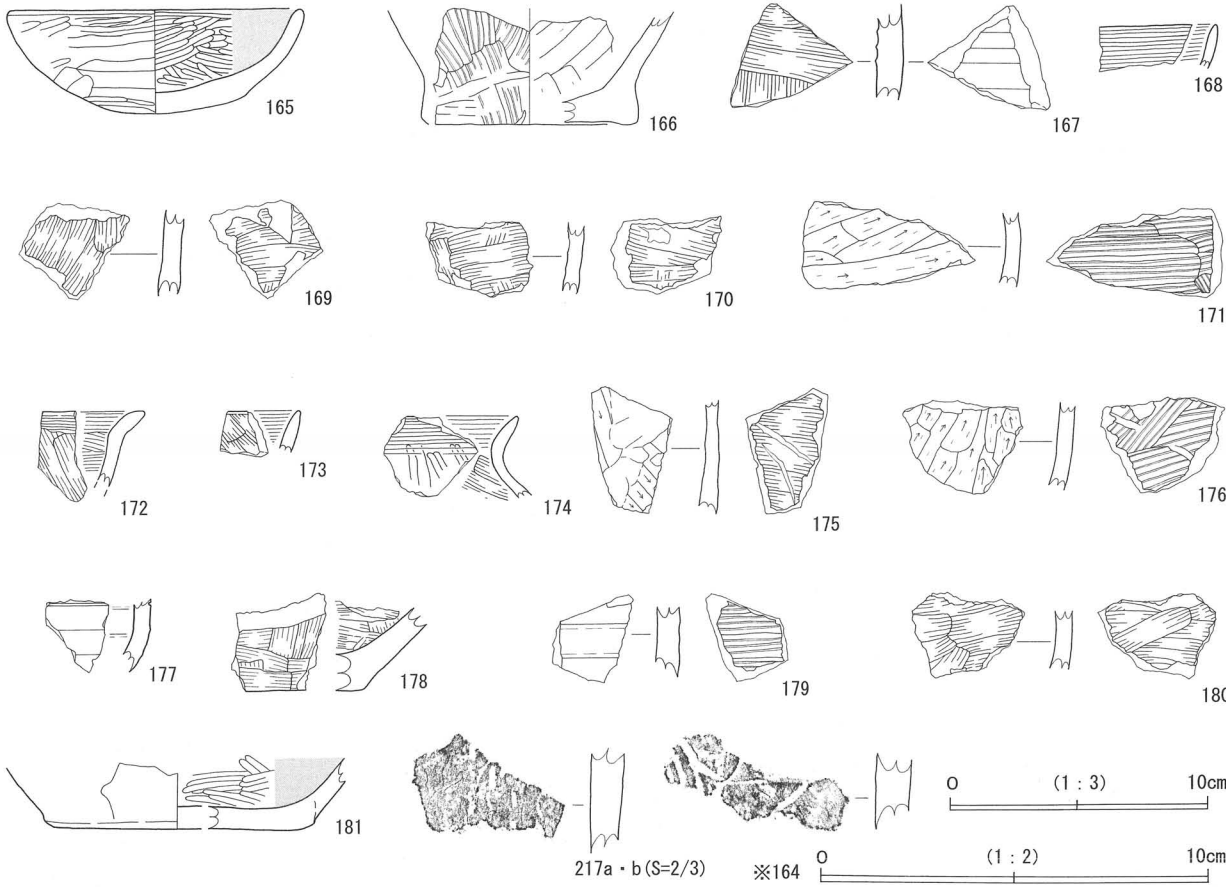
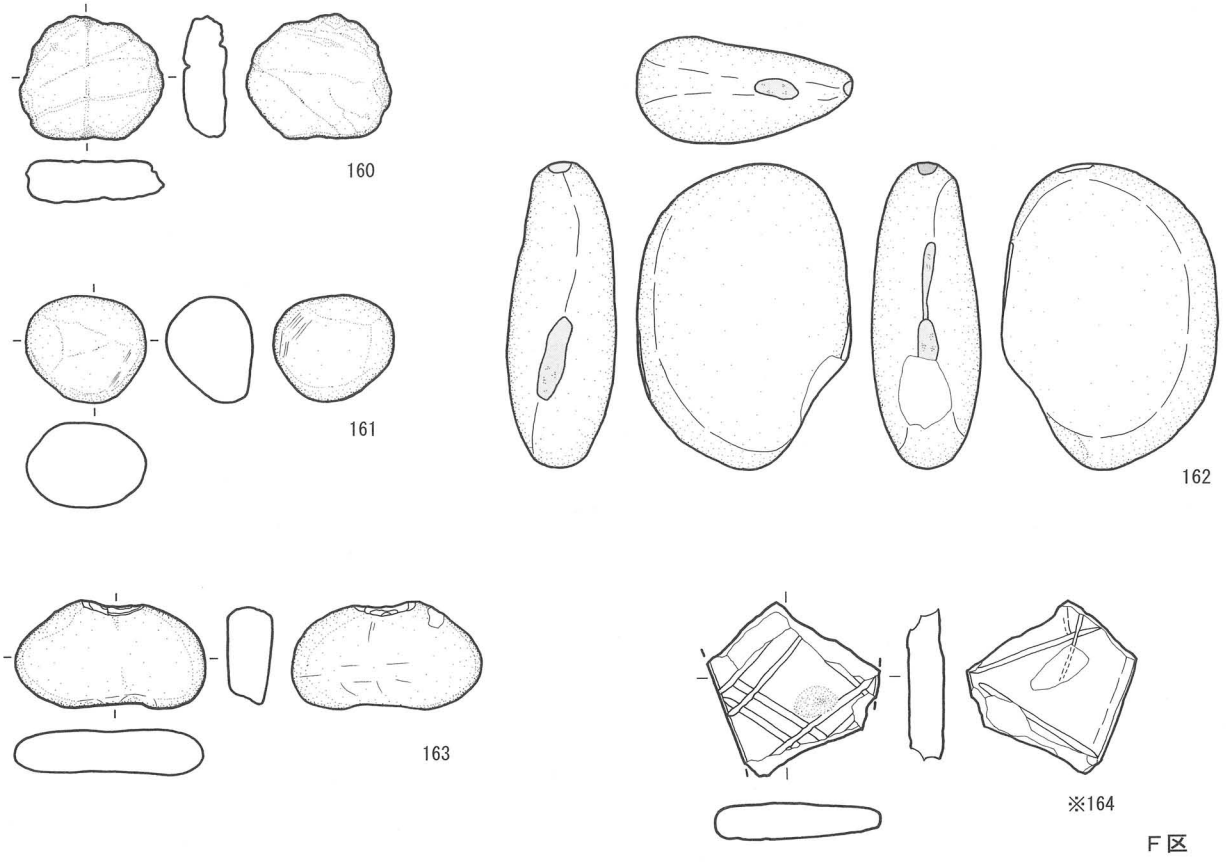


E区

※155~158 0 (1:2) 10cm

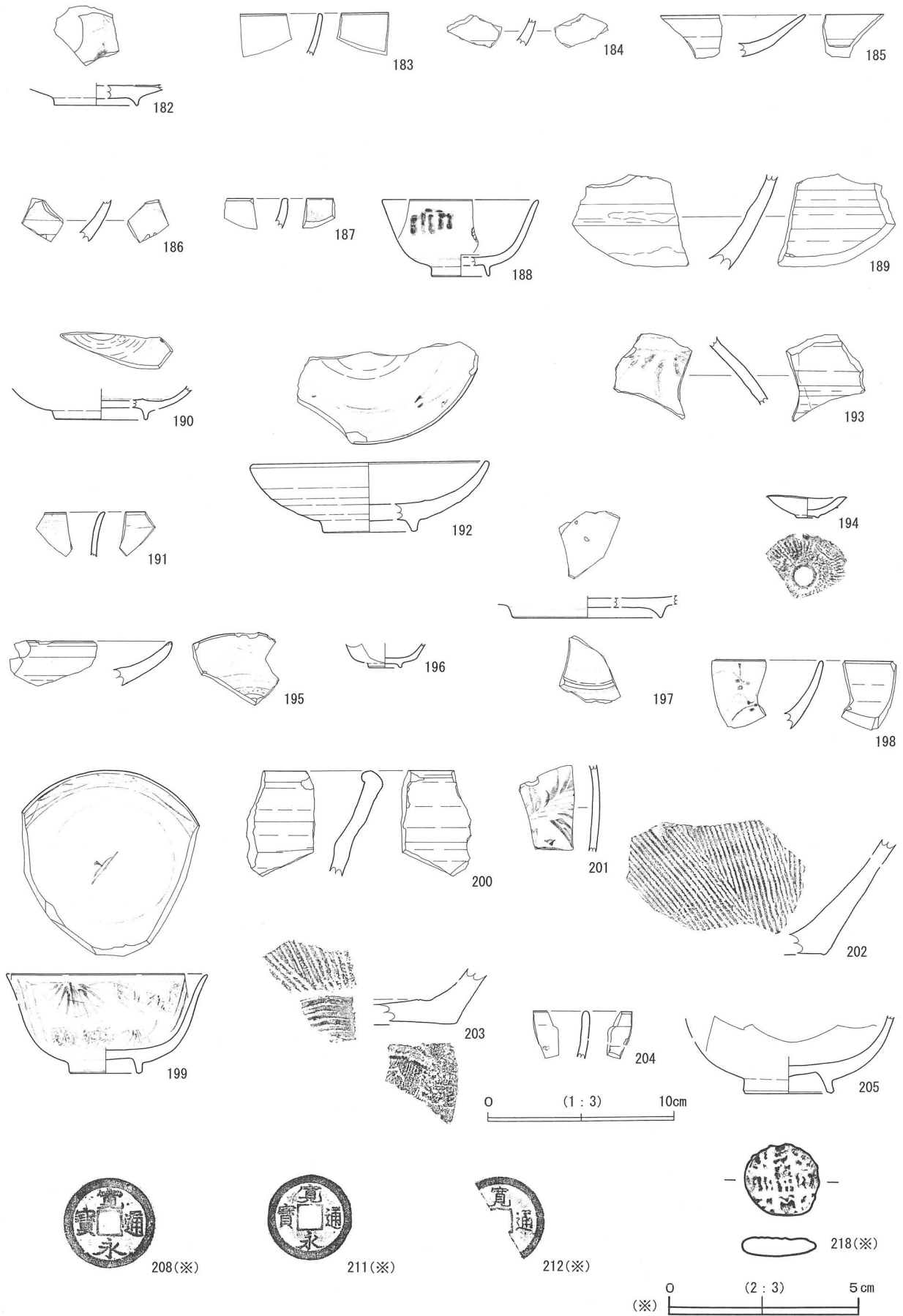
0 (1:3) 10cm

第28図 遺構外出土遺物⑥



第29図 遺構外出土遺物⑦

2 出土遺物



第30圖 遺構外出土遺物⑧

第3表 縄文土器観察表

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様・裝飾・地文・原体)	内面	附着物	分類	その他
1	1	A区3号土坑	I層下位	深鉢	胴下部	捺糸文(r) 胴下部ヨコナデ調整	ミガキ		E b	海綿状骨針含む
2	2	A区4号土坑	I層上位	深鉢	胴部	無文	ミガキ	スス(内外)	F	
3	3	A区P11	埋土中	深鉢	胴部	単筋(RL)	ナデ	スス(外)	E a	海綿状骨針含む
4	4	A区P13	埋土中	深鉢	底部		ナデ		E a	磨耗 海綿状骨針少量含む
5	7	B区2号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	捺糸文(r)	ナデ	スス(外)	E a	磨耗
6	8	B区2号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	ゆるい捺糸文(r)	ナデか	スス(内)	E a(b)	磨耗
7	9	B区2号土坑	壁際	深鉢	胴部	ゆるい捺糸文(r)	ナデ	スス(内)	E a	No.6と同一固体か?
10	11	B区12号土坑	埋土上位	深鉢	胴部	LR	ナデ		E a	不純物多 磨きが固い
14	12	B区19号土坑	埋土I層	深鉢	胴部	0段多糸(R)	ナデ		E a	不純物多 海綿状骨針少量含む
15	13	B区19号土坑	埋土I層	深鉢	胴部	0段多糸(R)	ナデ		E a	No.14と同一固体か?
22	6	B区埋設土器遺構(VIII G14・15)	IV層下	深鉢	ほぼ完形	網目状捺糸文(I) 胴下~底部ヨコナデ調整	ナデ	スス(内外)	II E b②	
26	15	B区P158	埋土中	深鉢	胴部	浅い沈線	ナデ		D	
27	16	B区P162	埋土下位	深鉢	胴部	0段多糸(R)	ナデ	スス(内外)外	E a	
28	40	E区(西)配石遺構	IV層面	深鉢	胴部	絡条体圧痕文(I)	ナデ		E	
29	42	E区(西)配石遺構	V層~VI層	壺	肩~胴部	隆帯+沈線 口唇部(切断面) 鋸齒状圧痕	ナデ		C	蓋付壺?
30	41	E区(西)配石遺構北側	V層上面	深鉢	胴部	沈線(浅・雑) ナデ	ナデ	スス(内外)	II D	
31	43	E区(西)配石遺構南側	V層	深鉢	口縁部	沈線 無筋(r) ナデ	ナデ		II B	
32	17	E区(西)配石遺構	V~VI層	深鉢	胴部	磨り消し縄文(LR)	ナデ		B	
33	24	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土	深鉢	胴部	磨り消し縄文 沈線(雑)	ナデ		C	
34	35	E区(西)竪穴住居状遺構北側壁	埋土	深鉢	胴部	隆帯 沈線 ミガキ	ミガキ+ナデ		C	
35	30	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土	深鉢	口縁部	波状口縁 波頂部押圧 沈線(雑) 貼り付け	ミガキ?		II C	
36	23	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土下位	深鉢	胴部	深めの沈線(曲線) ナデ	ナデ	スス(外)	D	
37	25	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土	深鉢	口縁部	平行沈線(雑) ナデ	ミガキ		II D	
38	32	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土中位	深鉢	胴上部	沈線(細・雑)	ナデ		II D	海綿状骨針多
39	33	E区(西)竪穴住居状遺構北側壁	IV層下位	深鉢	口縁部	口縁部ヨコナデ 沈線(細・雑)	ナデ	スス(内外)	II D	
40	18	E区(西)竪穴住居状遺構No.6	埋土上位	深鉢	底部	無文	ナデ	スス(外)	II D	海綿状骨針含む 繊維少量含む
41	34	E区(西)竪穴住居状遺構	I層	壺	頸部	沈線 ナデ	ミガキ?		D	
42	26	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土	深鉢	口縁部	波状口縁 口唇部貼り付け 沈線	ナデ		II D	
43	37	E区(西)竪穴住居状遺構No.2	埋土上~中位	深鉢	胴部	沈線(浅・雑) 一部隆帯 ナデ	ナデ		D	海綿状骨針多
44	38	E区(西)竪穴住居状遺構No.5	埋土上~中位	深鉢	胴部	沈線(浅・雑) ナデ	ナデ		D	
45	27	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土中位	深鉢	口縁部	口唇部ナデ 網目状捺糸文(r) ヨコナデ	ミガキ	スス(外)	II E b②	
46	39	E区(西)竪穴住居状遺構No.6	埋土上~中位	深鉢	胴部	網目状捺糸文(I)	ナデ(丁寧)	スス(内)	E b②	
47	31	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土中~下位	深鉢	口縁部	縦位の捺糸文(r)	ミガキ?		I E b	
48	28	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土中位	深鉢	胴部	櫛状工具による条線文(細)	ナデ	スス(内)	E c	
49	22	E区(西)竪穴住居状遺構P1	埋土中位	深鉢	口縁部	網目状捺糸文(r) 口縁部ナデ	ナデ	スス(外)	II E b②	
50	36	E区(西)竪穴住居状遺構No.2	埋土中位	深鉢	胴部	網目状捺糸文(r) (雑・細)	ナデ(丁寧)	スス(外)	E b②	
51	29	E区(西)竪穴住居状遺構	埋土	深鉢	胴部	磨り消し縄文	ナデ		B	土製品の可能性もあり
58	19	E区(西)4号土坑	埋土	深鉢	胴部	沈線 刺突	ナデ(丁寧)		II D	
59	21	E区(西)4号土坑	埋土	深鉢	胴部	沈線 ミガキ	ミガキ(丁寧)	スス(外)	D	

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様・裝飾・地文・原体)	内面	附着物	分類	その他
60	20	E区(西)4号土坑	埋土	深鉢	口縁部	波状口縁? 燃糸文(r) 口縁部内面一部突起あり	ナデ		G	
61	5	A区 P48・50検出面	IV層上~中位	深鉢	口縁部	沈線(曲線)	ミガキ		II D	海綿状骨針少量含む
62	46	A区 XC09グリッド	IV層上~下位		胴下部	無文	ナデ		F	土製品の可能性もあり
63	47	A区 XCグリッド	IV層上~中位	深鉢	胴下部	網目状燃糸文(r) 結束部あり	ナデ		E b ②	
64	48	A区 XCグリッド	IV層上~中位	深鉢	口縁部	外反さみ 極めて浅い沈線(雑)	ナデ(丁寧)		II G	
65	49	A区 IXDグリッド	攪乱層(I層)	壺	頸部	隆帯+沈線(深) ナデ	ミガキ+ナデ		C	
66	52	B区 VIK17グリッド	IV層中	深鉢	胴下~底部	胴下部 網目状燃糸文(r) 底部ミガキ	ナデ		E b ②	海綿状骨針多
67	53	B区 VIH25グリッド	IV層	台付鉢?	台部	平行沈線 台に3箇所回り	ナデ			木葉痕?
68	54a	B区 VIK12グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	口縁部横位 胴部縦位 網目状燃糸文(r)	ミガキ(丁寧)	スス	II E b ②	海綿状骨針多
69	54b	B区 VIK12グリッド	IV層中	深鉢	胴上部	網目状燃糸文(r) 結束部あり	ミガキ(丁寧)	スス	II E b ②	海綿状骨針多 No.68と同一?
70	55	B区 VMグリッド	IV層下位	深鉢	口縁部		ミガキ+ナデ		I E a	磨耗 不純物(小織)含 海綿状骨針少量含
71	56	B区 VMグリッド	IV層下位	深鉢	口縁部	波状口縁 波頂部押圧 波頂部側面滴巻 隆帯+沈線	ナデ		II C	
72	57	B区 VMグリッド	IV層下位	深鉢	胴部	磨り消し縄文(r)	ミガキ		B	
73	58	B区 VMグリッド道路側	IV層より上	深鉢	胴部	条線文(不規則・深め・粗い)	ナデ	スス(外)	E c	
74	59	B区 VMグリッド道路側	IV層中	深鉢	胴部	ナデ調整後→条線文(浅め・粗)	ナデ	スス(内外)	E c	
75	60	B区 VMグリッド	IV層上	深鉢	胴部	平行沈線 曲線 ナデ調整(先洗あり)	ナデ	スス(内外)	D	
76	66	B区 VII11グリッド	I層	深鉢	胴部	単節(LR)+ナデ(へラ状工具?)	ナデ		E a	内面剥落
77	67	B区 VII19グリッドNo.3	IV層下位	深鉢	胴部	磨り消し縄文(無節r)	ナデ		D	海綿状骨針少量
78	68	B区 VII9グリッドNo.2	IV層下位	深鉢	胴部	平行沈線(雑・やや浅め)	ナデ	スス(内外)	D	焼きがあまり
79	69	B区 VIIJグリッド南壁	II層~IV層	壺	頸部or肩部	隆帯上に浅い沈線 燃糸文(r) 一部ナデ	ナデ(丁寧)		E b	薄手 焼き良
80	74	B区	VII層上	深鉢	胴部	沈線(細・浅)	ナデ		D	
81	75	B区 VIIJ16付近	IV層中	深鉢	胴部	沈線(丁寧)	ナデ	スス(外)少	D	大変もろい 不純物多
82	76	B区 VIIH20グリッド	IV層下	深鉢	口縁部	波状口縁 波頂部押圧 隆帯+沈線	ナデ	スス(外)少	II C	
83	77	B区 VIIH25グリッド	IV層	深鉢	胴上部	平行沈線(丁寧)+ミガキ	ミガキ	スス(内)少	D	
84	80	C区 VO06グリッドNo.6	IV層	深鉢	底部	網代痕 ナデ	ナデ			海綿状骨針多
85	81	C区 VO06グリッドNo.1+No.5	IV層	深鉢	胴部	網目状燃糸文(r) 口唇部ナデ	ナデ	スス(外)少	I E b ②	海綿状骨針多
86	83	C区 VO06グリッドNo.6	IV層	壺	口縁部	外反 沈線(浅め) 内面還元焼成(灰色土)	ミガキ	スス(外)少		
87	85	C区 VO07グリッドNo.13	IV層	深鉢	口縁部	平行沈線(3条・深・雑)	ナデ	スス(外)少	II D	
88	86	C区 VO04グリッド	IV層	深鉢	口縁部	波状口縁 波頂部側面滴巻文(沈線) 隆帯+沈線(やや深め・雑)	ナデ		II C	海綿状骨針少量含
89	87	C区 VO06グリッド	IV層上位	深鉢	口縁部	波状口縁? 口縁部貼付け?+縄文 平行沈線(浅)	ミガキ	朱?	II B	磨耗
90	88	C区 VO06グリッド	IV層上位	深鉢?	口縁部	平行沈線(曲線)+ミガキ	ミガキ		D	土製品の可能性もあり
91	89	C区 VO03グリッド道路側	IV層	深鉢	口~胴上部	櫛状条線文 口唇部ヨコナデ	ナデ	スス(内外)	I E c	
92	91	C区 VO03グリッド道路側	IV層	深鉢	胴部	逆くの字に屈曲 沈線(浅・雑) 屈曲部細い隆帯	ナデ(丁寧)		C	焼き良(固い)
93	90	C区 VO03グリッド道路側	IV層	深鉢	胴部	沈線(極めて雑)	ナデ+ミガキ	スス(外)少	D	焼き良(固い)
94	97	C区	V層上位		底部	ナデ	ナデ			不純物多
95	94	C区 VO03グリッド道路側	IV層	深鉢	口縁部	口縁部内面貼付け(調整粗い) 平行沈線(雑・浅)	ナデ	スス(外)少	G	
96	96	C区 VO03グリッド	IV層中位	深鉢	胴部	沈線(細)	ナデ		D	土製品の可能性もあり
97	98	D区(西)VK05~VL01グリッド	IV層	深鉢	胴下~底部	縦位の条線文(浅・粗)	ナデ		E c	磨耗
98	100	D区(西)VK05~VL01グリッド	IV層	壺	胴(肩)部	隆帯+沈線 交差部ボタン状貼付 口唇部(切断面) 鋸歯状任意	ナデ		C	蓋付壺?



掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	部位	外面(文様・装飾・地文・原体)	内面	附着物	分類	その他
99	102	D区(西) V L02グリッド	IV層	壺	胴部	沈線(浅・細) + ミガキ	ミガキ(丁寧)	スス(外)少	D	
100	101a	D区(西) V L02グリッド	IV層中	深鉢	口～胴部	網目状燃糸文(r) 結束部あり	ナデ(丁寧)	スス(外)	II E b②	
101	101b	D区(西) V L02グリッド	IV層中	深鉢	口～胴部	網目状燃糸文(r) 結束部あり	ナデ(丁寧)	スス(外)	II E b②	
102	103	D区(西) V K05グリッド	IV層中	深鉢	胴上部	燃糸文(r) 結束部あり 一部ナデ調整	ナデ	スス(内外)少	II E b	海綿状骨針少量含
103	104	D区(西) V K05グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	波状口縁 沈線(雑・細い)	ナデ		II D	海綿状骨針多
104	106	D区(西) V K05グリッド	IV層下位	小壺	胴上部	沈線 ミガキ	ナデ	朱	D	
105	107	D区(西) V K05グリッド	IV層中	深鉢?	胴部	沈線 刺突	ナデ		G	
106	109	D区(西) V L01～02グリッド	IV層	深鉢	口縁部	口縁部貼り付け 縄文 沈線	ミガキ		II B	
107	110	D区(西) V L01～02グリッド	IV層	深鉢	胴上部	沈線(曲線・雑)	ナデ		D	
108	111	D区(西) V L01～02グリッド	IV層	小壺	口縁部	平行沈線(雑)	ナデ		II D	
109	112	D区(西) V L01～02グリッド	IV層下位		胴部	太い隆帯(十字)	ナデ		C	土製品の可能性もあり 焼き良
110	99	D区(西) V K05～V L01グリッド	IV層	深鉢	胴部	網目状燃糸文	ナデ	スス(内外)	E b②	磨耗 不純物多
111	108	D区(西) V L01～02グリッド	IV層	深鉢	胴部	平行沈線(浅・細・雑)	ナデ		D	
112	113	D区(西) V L01～02グリッド	IV層中	深鉢	胴部	縦位の燃糸文(r)	ナデ		E b	
113	114	D区(西) V L01～02グリッド	IV層中	深鉢	胴部	沈線(やや深め・細)	ナデ		D	
114	115	D区(西) V L01～02グリッド	IV層中	深鉢	胴部	沈線(浅・細・雑)	ナデ		D	
115	116	D区(西) V L01グリッド	IV層中	壺	胴部	沈線(やや深め・細・丁寧) ナデ	ナデ		D	
116	121	E区(西) III O20グリッド	IV層	深鉢	口縁部	波状口縁 隆帯+沈線	ミガキ		II C	海綿状骨針多
117	123	E区(西) IV O07グリッド	IV層中	深鉢	胴部	沈線	ナデ(丁寧)		D	薄手
118	118	E区(西) III B21グリッド	IV層中	深鉢	胴下部	燃糸文(r)	ナデ		E b	
119	119	E区(西) III B24グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	波状口縁 突起部貼付 波頂部押圧 沈線(曲線・浅・雑)	ナデ		II D	
120	120	E区(西) III B21グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	口縁部沈線(太・雑) 燃糸文(r)	ナデ		G	大変もろい
121	122	E区(西)	IV層上面	深鉢	口縁部	複筋(RLR)	ナデ		I E a	繊維含む
122	117	E区(東)	IV層中	台付鉢?	台部	3箇所凹み 平行沈線 ナデ(丁寧)	ミガキ			
123	127a	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層上～下位	深鉢	口～底部	口縁部平行沈線(雑・細) 網目状燃糸文(r) 結束部あり 胴下部ナデ+ミガキ	ナデ	スス(内外)	II D	
124	124	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層下位	深鉢	胴～底部	胴部沈線 燃糸文(r)	ナデ		II B	
125	125a	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層下位	深鉢	口～胴下部	波状口縁(4) 波頂部押圧 隆帯+磨消縄文(r)	ナデ	スス(外)	II A	
126	133	F区 II R19・24グリッド	V層下位	深鉢	胴上部	隆帯+沈線	ナデ		C	海綿状骨針多
127	128	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層下位	深鉢	底部	ナデ(縦位) 網代痕	ナデ			
128	126	F区 II R23グリッドNo.2～5	V層下位	深鉢	口～胴下部	燃糸文(r) 結束部あり 口唇部ヨコナデ	ナデ		I E b①	磨耗 海綿状骨針少量
129	130	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層下位	深鉢	口～胴下部	波状口縁 口縁部隆帯+磨消縄文 胴下～網目状燃糸文(r)	ナデ	スス(外)	II B	
130	131	F区 II R19・24グリッド	V層下位	深鉢	口縁部	磨消縄文(r)	ナデ		II B	
131	132	F区 II R19・24グリッドNo.1	V層下位	注口土器?	胴部	貼り付け 突起 沈線	ナデ			後期後半 焼き固い 不純物(少線)多
132	138	F区 II R19・24グリッド	IV層～V層	深鉢	胴部	磨消縄文(r)	ナデ		II B	
133	135	F区 III S07グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	波状口縁 波頂部刺突 縦位隆帯+磨消縄文(?)	ナデ		II A	
134	136	F区 III S07グリッド	IV層中	深鉢	口縁部	波状口縁 隆帯(渦巻き文) + 磨消縄文	ナデ		II A	
135	137	F区 II R22グリッド	V層下位	深鉢	胴部	格子状条線文(深)	ナデ		G	
136	134	F区 III S07グリッド	IV層中	深鉢	口～胴上部	燃糸文(r) 口縁部区画沈線 口縁部無文 内面沈線	ナデ		I F	

第4表 石器観察表

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(m)	石質	産地	時代	備考
13	B区 311	B区 12号土坑	埋土上位	磨石(丸玉)	2.75	3.00	2.90	35.80	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
18	B区 313	B区 21号土坑	埋土炭化材直下	磨石?	6.10	4.85	3.95	138.20	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
19	B区 312	B区 21号土坑	埋土中	磨石(丸玉)	3.30	3.50	3.10	47.90	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
20	B区 314	B区 21号土坑	埋土中	台石	22.70	9.90	5.95	1377.90	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
21	B区 316	B区 1号溝	埋土上位	礫器	(11.95)	(5.05)	(6.50)	416.20	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
25	B区 317	B区 P110	IV層上面	礫器	13.60	8.25	4.40	679.60	細粒閃緑岩	北上産地	中生代白亜紀	
54	E区 304	E区(西) 竪穴住居状遺構	埋土中位	石鏃	4.90	1.20	0.55	2.30	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
55	E区 305	E区(西) 竪穴住居状遺構	IV層下	搔器	4.15	6.45	0.90	14.20	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
56	E区 332	E区(西) 竪穴住居状遺構	東西ベルト中位	磨・凹石	8.45	8.85	6.05	610.60	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
141	A区 310	A区 IXDグリッド	V層	台石	(20.50)	(15.80)	5.30	2002.00	デイサイト	奥羽山脈	新生代新第三紀	
142	B区 309	B区 VII Fグリッド	IV層下	搔器	4.50	3.40	1.20	16.10	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
143	B区 321	B区 VIII 15グリッド	IV層中	石鏃	5.50	7.00	1.70	73.20	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
144	B区 322	B区 VI K08グリッド	IV層	磨・凹石	11.15	8.50	5.80	663.90	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
145	B区 320	B区 VIII 15グリッド	IV層中	凹石	9.30	6.30	4.45	338.90	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
146	B区 319	B区 VII G19グリッド	I層下	磨石	14.15	13.25	4.45	789.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
147	B区 318	B区 VII G19グリッド	I層下	台石?	20.00	18.25	5.30	2867.00	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
148	C区 323	C区 V N05グリッド	IV層	不定形	(8.80)	5.70	3.10	242.40	細粒閃緑岩	北上産地	中生代白亜紀	
149	C区 324	C区 V O01グリッド	IV層	磨・敲石	6.75	6.50	3.55	250.80	細粒閃緑岩	北上産地	中生代白亜紀	
150	D区 328	D区(西) V K05・V L01グリッド	IV層	磨・凹石	11.50	6.50	4.15	414.80	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
151	D区 302	D区(西)	IV層	削器	4.45	4.75	1.05	19.80	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
152	D区 329	D区(西) V K05・V L01グリッド	IV層	石鏃	6.00	10.30	2.40	214.20	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
153	D区 327	D区(西) V K05・V L01グリッド	IV層	磨・敲石	13.40	9.60	7.40	1299.10	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
154	D区 326	D区(西) V K05・V L01グリッド	IV層中	磨石(丸玉)	4.75	4.80	4.00	85.50	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
155	D区 303	D区(西)	IV層	搔器	4.90	8.95	1.05	53.50	砂岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
156	E区 306	E区(西) III O23グリッド	IV層下位	不定形	3.55	3.95	0.85	6.70	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
157	E区 308	E区(西)	V層面	削器	5.10	4.35	1.60	37.40	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	付着物あり
158	E区 307	E区(西) III O24グリッド	V層面	搔器	5.50	3.20	1.05	9.90	頁岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
159	E区 331	E区 IV N10グリッド	V層上面	磨・凹石	12.30	7.80	5.00	645.60	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
160	F区 336	F区 II R23グリッド	IV層下位	石鏃	5.00	5.65	1.70	68.50	チャート	北上産地	中生代	
161	F区 337	F区 III S01・02グリッド	IV層中	磨石(丸玉)	4.30	4.70	3.40	93.80	チャート	北上産地	中生代	
162	F区 338	F区 II R23グリッド	V層下位	磨・敲石	12.20	8.40	4.30	544.20	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
163	F区 339	F区 III S01・02グリッド	IV層中	石鏃	4.30	7.45	1.85	90.20	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	
215	E区 333	E区(西) IV N05グリッド	IV層	配石	33.20	10.80	6.80	3150.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	写真のみ 被熱痕あり
216	E区 334	E区(西) 配石遺構		配石	24.00	14.80	8.80	3182.00	安山岩	奥羽山脈	新生代新第三紀～第四紀	写真のみ

第5表 土製品・石製品観察表

掲載番号	登録	出土位置	層位	種別	残存部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(m)	胎土	焼成	付着物	色調	その他
52	155	E区(西) 竪穴住居状遺構	埋土1層	土器片円板	完形	3.25	3.0	0.9	9.9	白色砂粒、海綿状骨針含む	良好	なし	にぶい褐色	単筋(LR)ミガキ
53	154	E区(西) 竪穴住居状遺構	埋土1層	土器片円板	完形	3.15	3.1	0.5	6.5	白色砂粒含む	悪	スス	褐色	磨耗
137	157	F区 II R23グリッド	IV層下位	土器片円板	胴部(頸部、左腕、脚部欠損)	2.15	2.4	0.45		小礫含む	良好	なし	褐色にぶい褐色	中実 肩部穿孔 ナデ調整
138	152	B区 II R23グリッド	IV層	土器片円板	完形	4.4	4.5	0.6	15.5	密	良好	なし	にぶい褐色	沈線 ミガキ
139	153	D区	IV層	土器片円板	1/2	4.65	2.15	0.7	7.2	小礫、海綿状骨針含む	良好	なし	浅黄褐色	網目状燃糸文(r) ナデ
140	156	E区(東)	IV層	土器片円板	1/2	3.2	1.65	0.65	3.7	密	良好	なし	にぶい黄褐色	燃糸文(r) ナデ

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(m)	石質	産地	時代	備考
57	352	E区(西) 竪穴住居状遺構	埋土5層	岩版	2.70	1.85	1.05	3.60	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	
164	351	F区 III S01・02グリッド	IV層中	岩版	4.65	4.45	1.00	12.90	凝灰岩	奥羽山脈	新生代新第三紀	

第6表 土師器観察表

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	部位	外面調整	内面調整	付着物	時期	その他
8	10	B区5号土坑	埋土上位	甕	胴部	縦方向にナデ→ロクロナデ	ナデ			海綿状骨針含む
23	14	B区5号溝	埋土上位	甕	口縁部	縦方向にナデ→ヨコナデ	ヨコナデ	スス(内外)	8c	
24	72	B区 P113	埋土中位	甕	胴部	ナデ	ハケメ			不純物多
165	44	A区 XC07グリッド(No.1)	IV層上面	坏	口～底	ナデ→ミガキ	ミガキ 内黒		8c後半	1/3残存 丸底
166	45	A区 XC07グリッド	IV層上面	甕	底部	ハケメ 一部ナデ調整	底部ナデ			焼きムラあり 固くしまる
167	50	A区 IXDグリッド	I層	甕	胴部	ナデ	ロクロナデ	スス		海綿状骨針多
168	51	A区 VII Eグリッド	I層	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ			やや内湾さみ
169	61	B区 VLグリッド	IV層より上	甕	胴部	ナデ	ナデ			
170	63	B区 VII Fグリッド	II層直上	甕	胴部	ナデ	ナデ			
171	78	B区 VII H11グリッド	IV層下位	甕	胴部	ケズリ	ハケメ			海綿状骨針多 焼き良
172	62	B区 VLグリッド	IV層中	小甕	口縁部	口唇部ヨコナデ 外反	ヨコナデ			海綿状骨針多 焼き良
173	64	B区 VII Fグリッド	IV層直上	?	口唇部	ナデ	ヨコナデ			海綿状骨針多 焼き良
174	65	B区 VII Fグリッド	II層	甕	口縁部	縦方向にナデ→ヨコナデ	ナデ+ヨコナデ			不純物(小礫)多
175	70	B区 VI J16グリッド	II層上面	甕	胴部	ケズリ(ヘラナデ?) 指押さえ痕あり	ナデ			焼き良
176	73	B区	IV層	甕	胴部	ケズリ	ハケメ			海綿状骨針多 焼き良
177	84	C区 VO07グリッド No.9	IV層	甕	胴部	ロクロナデ	ナデ			
178	92	C区 VO03グリッド	IV層	甕?	底部	ナデ	ナデ+ミガキ	スス(外)		大変もろい

掲載番号	登録	出土地点	層位	器種	部位	口径	器高	底径	重量	外面調整	附着物	時期	その他
179	93	C区 VO03グリッド	IV層	甕	胴部		ロクロナデ			ハケメ			
180	95	C区 VO03グリッド	IV層	甕?	胴下部		ナデ (ミガキのように光沢あり)			ナデ			
181	129	F区 II Rグリッド No. 2~5相当	V層下位	鉢	底部		ナデ			ミガキ 内黒			不純物(小礫等)多
217	139	B区 VMグリッド	IV層上位	甕?	胴部?		ミガキ 辻線			ミガキ 黒色			北大式?

第7表 近世陶磁器観察表

掲載番号	登録	出土地点	層位	材質	器種	部位	口径	器高	底径	重量	内外面	胎土	産地	年代
9	204	B区 6号土坑	埋土上位	磁器	碗	体下部		(2.5)	3.4	38.2	染付(灰緑)見込み五弁花文崩れ 圏線	白色	瀬戸	19c
11	205	B区 12号土坑	2層	磁器	皿	口縁部				4.4	染付(灰緑+藍)	灰白色	備前	18c
12	206	B区 12号土坑	2層	磁器	碗?	体部				1.5	染付(淡藍)	白色	不明	19c
16	208	B区 20号土坑	埋土上位	磁器	碗	口縁部				5.3	染付(淡藍)二重網目文	灰白色	備前	19c
17	209	B区 20号土坑	埋土上位	陶器	碗	体部				1.9	鉄釉(内外)	浅黄色	不明	
182	201	A区 XCグリッド	I層	磁器	皿	底部	(4.9)		(4.5)	9.8	見込みに染付(藍)	灰白色	備前	19c
183	213	B区 VII Gグリッド	IV層直上	磁器	碗	口縁部				3.5	染付(濃紺)型紙覆	灰白色	不明	19c
184	214	B区 VII Gグリッド	IV層直上	磁器	碗	体部				2.8	白磁 貫入	浅黄色	不明	
185	210	B区 IX D19グリッド	IV層	磁器	皿?	口縁部				7.1	青白	灰白色	不明	
186	212	B区 VII Gグリッド	IV層直上	磁器	皿?	体部				3.4	染付(淡藍)(内外)	灰白色	備前	18c
187	215	B区 IV Gグリッド	IV層直上	磁器	碗?	口縁部				1.9	染付(灰緑)(内外)	灰白色	備前	19c
188	207	B区 VII Fグリッド	IV層直上	磁器	碗	口~底部	(8.3)	4.2	(3.1)	15.7	1/5残存 染付(コバルト)源氏香文 口唇部鉄釉 高台圏線	灰白色	不明	19c
189	211	B区 VI J24グリッド	VI層	陶器	鉢	体下部				40.1	鉄釉(外) 鉄釉(内)	黄灰色	不明	
190	216	B区 VII Gグリッド	IV層直上	磁器	皿?	底部		(1.65)	(5.0)	7.8	染付(灰緑)蛇の目軸剥ぎ	白色	備前	18c
191	219	B区 VII Fグリッド	I層	磁器	碗	口縁部				1.8	染付(紺)(内外) 端反り	灰白色	不明	19c
192	217	B区 VII Gグリッド	IV層直上	磁器	皿	1/2	(12.8)	3.8	(5.0)	59.0	染付(淡藍)圏線 蛇の目軸剥ぎ(砂付) 二重格子文	白色	備前	18c
193	223	B区 VII Iグリッド	II層	磁器	徳利	肩部				14.8	鉄絵(往)	灰白色	不明	
194	220	B区 VII Fグリッド	I層	磁器	紅皿	2/3	(4.2)	1.2	1.2	7.0	白磁 口唇部平に整形(外) 菊花文崩れ	灰白色	備前	19c
195	218	B区 VI Iグリッド	I層	磁器	皿	口縁部				15.3	染付(灰緑)圏線 蛇の目軸剥ぎ(砂付) 二重格子文	灰白色	備前	18c
196	221	B区 VII Fグリッド	I層	磁器	小杯	底部		(1.3)	(1.8)	3.7	染付(濃紺)銅板転写	灰白色	不明	明治以降
197	225	B区 排土		磁器	皿	底部		(0.75)	(8.1)	9.1	染付(藍)見込高台 高台内に圏線	白色	備前	19c
198	224	B区 排土		磁器	碗	口縁部				9.3	染付(灰藍)草花	灰白色	備前	19c
199	226	B区 排土		磁器	碗	2/3	(10.7)	5.4	3.9	125.1	染付(紺)(内) 網目文 見込みに「舟」(外) 鉋文 端反り	灰白色	平清水?	19c中~

掲載番号	登録	出土地点	層位	材質	器種	部位	口径	器高	底径	重量	内外面(軸裏・絵付)	胎土	産地	年代
200	228	C区 IV O23グリッド	I層	陶器	鉢	口縁部				26.3	鉄軸 肩部外反 口唇部内おれ	灰黄色	不明	
201	227	C区 VP05グリッド	I層	磁器	徳利	体部		(4.7)		7.4	染付(濃青灰)	灰色	備前	19c
202	229	C区 IV O22グリッド	I層	陶器	すり鉢	体下～底部		(6.0)	(14.4)	113.8	鉄軸 底部砂目残り	灰黄色	不明	
203	230	D区 VLグリッド	I層	陶器	すり鉢	底部		(2.7)	(18.4)	57.4	鉄軸 底部砂目残り 202よりも目粗い、ロクロ糸切り	灰黄褐色	不明	
204	231	E区 IV Oグリッド	I層	磁器	碗	口縁部				2.2	染付(濃灰藍) 草花? ガラス質	灰色	備前	19c
205	232	E区 IV Oグリッド	I層	磁器	碗	2/3		(4.2)	4.7	122.7	染付(コバルト) 見込み草花 型紙摺り	白色	備前	明治以降
206	233	B区 VMグリッド	I層	ガラス	瓶	完形				476.5	緑ガラス 銘「商標 日本麦酒醸造株式会社 登録」			

第8表 古銭観察表

掲載番号	登録	出土地点	層位	素材	径(cm)	重量(m)	初鑄造年代	その他
207	401	A区 P84	埋土中	銅	2.45	3.3	寛永14年 古寛永	完形
208	407	B区 VIIIグリッド	II層	銅	2.5	3.8	明暦2年 古寛永	完形
209	402	B区 P113	埋土中	銅	2.5	3.4	寛文8年 文銭「背文」新寛永	完形
210	404	B区 20号土坑	埋土上位	銅	2.4	3.0	享保11年? 新寛永	完形
211	403	A区 IX Cグリッド	IV層上位	銅	2.3	2.4	元文元年 新寛永	完形
212	408	E区(西) IX O06グリッド	I層	銅	(2.45)	1.5	元文期1740年頃? 新寛永	1/2
213	405	B区 20号土坑	埋土上位	鉄	(2.4)	(3.2)	不明	極めてサビ多い 実測図なし 写真のみ
214	406	B区 VI Jグリッド	I層	鉄	(2.6)	(3.2)	不明	極めてサビ多い 実測図なし 写真のみ

第9表 その他観察表

掲載番号	登録	出土位置	層位	種別	残存部位	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(m)	胎土	焼成	付着物	色調	その他
218	151	B区VIIIグリッド	I層	泥面子	完形	1.9	1.8	0.45	1.4	密	良好	なし	褐色	

## V ま と め

今年度の調査で検出された遺構の時期については、盛土や攪乱の影響、遺物が伴わないなどの理由から明確なものが少なく、以下のとおりである。

調査区	遺構名	縄文(後期)	奈良～近世	近現代	時期不明
A 区	土坑				5
	柱穴状小土坑				1 4 6
B 区	土坑	4	5	6	4
	溝状遺構		2	1	2
	埋設土器遺構	1			
	柱穴状小土坑				1 8 3
C 区	土坑	1			
D区(西)	溝状遺構				1
	柱穴状小土坑				4
E区(西)	竪穴住居状遺構	1			
	配石遺構	1			
	土坑	5			
	柱穴状土坑	1 2			
	柱穴状小土坑	5			
E区(西)	土坑	1			
	柱穴状小土坑	2			
F 区	土坑	6			
	柱穴状小土坑	3			

### 1 III層(十和田南部浮石層)について

第31図にも示したように、B区中央から東側の広範囲にかけて、十和田a降下火山灰層の下に一見南部浮石層と見られる層が拡がっていた。十和田a降下火山灰は自然堆積であったが、この層は分析の結果、やはり南部浮石の再堆積層であった。次に堆積する層が十和田b降下火山灰層と思われたが、この層に関しても再堆積の可能性が出てきた。確かに十和田b降下火山灰層の中から土師器が出土しており、攪乱を受けていることは間違いない。それが遺構としての部分的なものではなく全体的な様相である。また縄文時代後期の土器が出土したのはこれも基本層序のIV層とした十和田b降下火山灰層である。しかし、この層は約20cm前後の厚みを持ち、縄文土器が多く入るのは下位層からで、V層(To-bとTo-Cu層との漸移層)に至る前に含まれる。遺構については、この漸移層直上もしくは漸移層中で検出され、むしろIV層は2分するべきだったようだ。III層の南部浮石層とIV層上面層について、十和田a火山灰層が自然堆積でこれまで言われてきた降下年代のとおりにならば、古代や弥生時代の遺物や遺構の痕跡が全くないため、それ以前に周辺での地盤地変があった可能性が高い。

## 2 縄文時代（後期）の遺構・遺物について

縄文時代の遺構としては、住居跡が出なかったものの、縄文時代後期前葉の特徴的な遺物と遺構が集中して検出された。第32図の十和田中撤火山灰層面コンタ図を見ると、今回縄文時代の遺構が確認できたE区F区の起伏が緩くなっていることがわかる。また、B区南西部においても同様に起伏が緩くなっている。縄文時代の土坑と思われる17号土坑や埋設土器遺構が出土したのもこの地域からである。今回の検出状況も踏まえて、地形からも遺跡本体の区域が現在のE区F区調査区の北側とB区調査区南西側にあることが予想される。

埋設土器遺構は、1基だけである。また、調査区境の南西壁より出土したために、調査区以外の周辺の様子を探ることはできなかった。そのために埋設土器遺構の詳細は不明である。

竪穴住居状遺構については、炉は検出されなかったが、床面の状態や土器の出土状況、土製品、石製品、琥珀の出土など住居であった可能性が高いと思われる。炉については、直上に柱穴状土坑や配石遺構が作られたために壊されたのかもしれない。

柱穴状土坑は、径40cm前後以上のものが7基検出しており、いずれも十和田中撤火山灰固塊層をほりあげて作られている。埋土もほとんど変わらず同時期のものと判断した。いくつかは掘り方が北に傾くものもあるが、4本柱、6本柱など調査区内で並ぶことはなかった。ただし規模からある程度の大きさの建物跡が推測できる。

配石遺構については、同時期と思われる遺構がこの他には明確ではなく、用途が明らかではない。遺構のところでも既述したように、中心に土坑や一括の土器などは見つかっていない。また、調査区内で全ての配石が残っていたわけではなく北側の一部はなくなっており、本来の形状は不明である。縄文時代後期の配石遺構については、二戸近辺では、曲田Ⅰ遺跡や大日向Ⅱ遺跡、荒谷遺跡、堀野遺跡、馬立Ⅰ遺跡などがある。また、時期は不明だが下部施設を持たないものに下村B遺跡や柿ノ木平Ⅲ遺跡がある。いずれも周辺から縄文時代後期の遺構や遺物を出土している遺跡であり、その点では本遺跡と類似している。ただし、馬立Ⅰ遺跡の配石遺構以外の遺跡では、配石の仕方が密にまたは複数の石を配列するなど環状列石の規模が大きい。また他に集石を持つものもある。

今回の調査では、調査区が狭かったため全体の様子が不明であるが、逆にこれだけの調査区でこれほどの遺構が重複して確認できたということは、この地の遺構の密度が大変高く、縄文時代後期前葉という比較的限られた時期において生活が営まれたことを意味する。本来であれば、遺物と関連づけて更に詳しく分析、時期差について検討すべきであるが、残念ながら遺構同士の標高差があまりなかったため、遺構と同区域から出土した遺物とを関連づけて細分することはできなかった。

## 3 柱穴状小土坑について

A区とB区の柱穴状小土坑の多くは近世～現代にかけてのものと思われる。小土坑の分布とともに近世陶磁器の出土も多い。B区の特に関西側に集中している。既述のとおり、旧奥州街道の一部であったことと一致する。それ以外の地からの出土が少ないのは、盛土を剥ぐと近世面を通り越して下位の層が見られ、削平を受けているための影響と思われる。街道は金田一集落(現金田一駅側)から川口村(北奥路程記より「川口村 村中百六間、家十一軒」とある)に入り、調査区を横断する道路を進み、B区とA区間の現私有地(畑へ続く道路)を山に向かって上がり、海上川を渡って釜沢へと抜け、三戸通りに向かったようである。川口Ⅰ遺跡の西側を流れるこの海上川が、藩政時代の福岡通と三戸通の境界であった。削平や盛土がなされ現在のように舗装されて当時の面影はなくなり痕跡のみとなった。

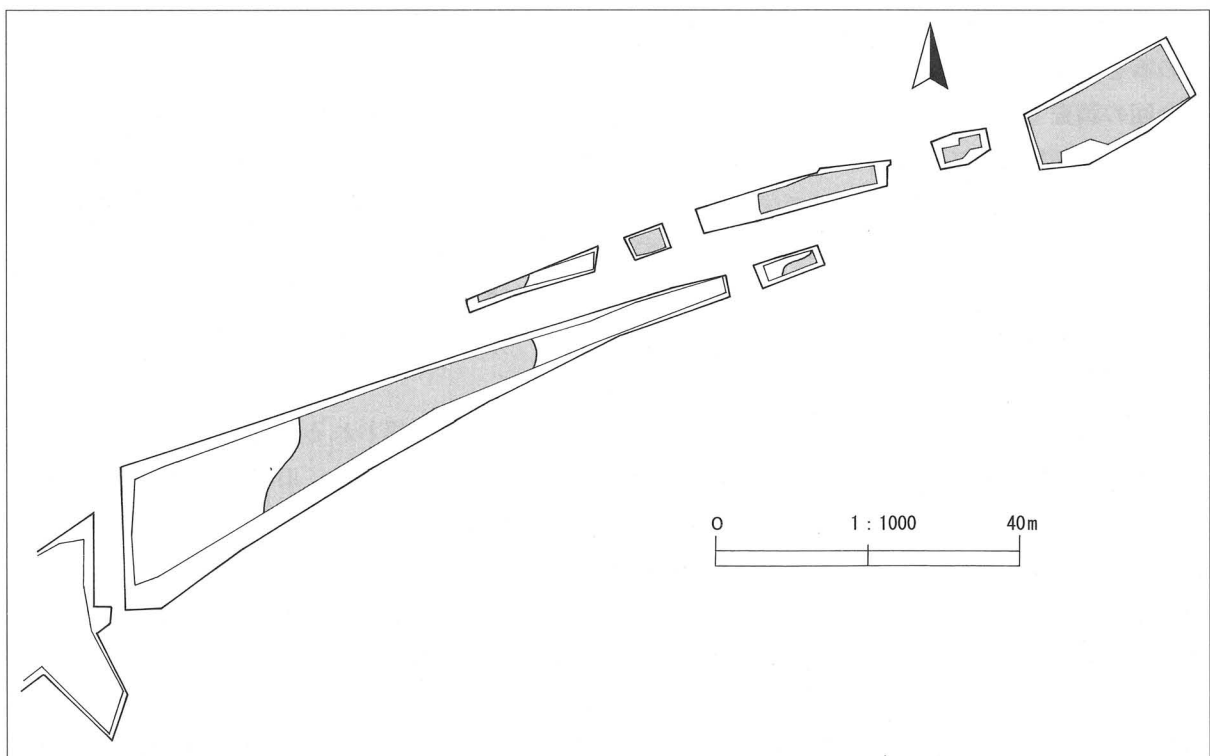
## 4 結 び

今回の調査により、本遺跡が主に縄文時代後期前葉の集落跡、近世の集落跡であることがわかった。昨年度の調査結果も振り返ると、更に古い縄文時代早期の土器片も出土しており周辺に集落跡が存在する可能性もある。また、今年度の調査では、縄文土器や近世陶磁器の他に8世紀と見られる土師器坏が出土している。小破片のみで時期を断定できる遺物が少ないことと、合わせて断定できる遺構がないことにより何とも言えないが、破片が出土していることは事実であり、十和田 a 降下火山灰以前と思われる遺構も考えられることから、奈良時代にも人々の生活の痕跡があったことが窺える。

今回の緊急発掘の原因となった事業により、来年度は川口 I 遺跡の対岸に位置する雨滝遺跡も調査することになっている。雨滝遺跡は縄文時代晩期の著名な遺跡として知られている。半世紀ぶりに行われる調査により雨滝遺跡の性格が見えてくることであろう。そして調査が進み、詳しく検討されることにより、馬淵川を挟んでの本地域一帯の歴史が更に明らかになることと思われる。

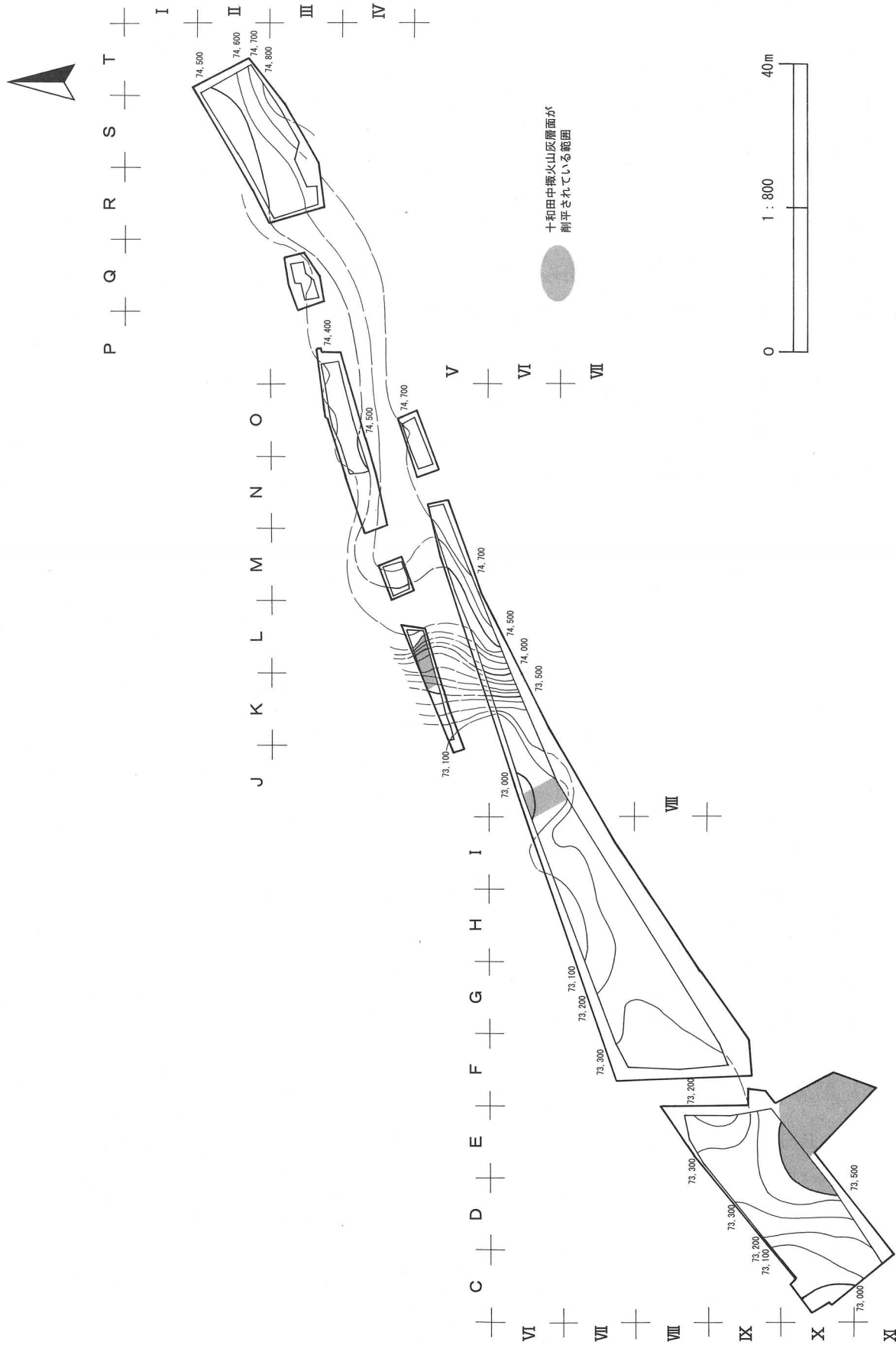
## 参考文献

- 一戸町教育委員会 1993 一戸町文化財調査報告書第26集「御所野遺跡」  
 岩手県文化財愛護協会 2002 「読み下し文 北奥路程記」(原著 江戸時代後期 漆戸茂樹著)  
 岩手県教育委員会 1979 岩手県文化財調査報告 第三十六集「奥州道中」  
 (財)岩埋文 1988 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第122集「馬立 II 遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1985 岩手県埋文センター調査報告書第87集「曲田 I 遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1983 岩手県埋文センター調査報告書第56集「上村遺跡・下村A遺跡・下村B遺跡発掘調査報告書」  
 (財)岩埋文 1998 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集「大日向 II 遺跡発掘調査報告書」



第31図 十和田南部浮石検出範囲





第32図 十和田中樞火山灰層面コンタ図

## VI 分 析

### 1 川口 I 遺跡第 2 次調査出土琥珀産地の同定

(財)元興寺文化財研究所保存科学センター

#### (1) 資 料

川口 I 遺跡の十和田中狩祭祀遺構から出土した琥珀玉は土師器の形式から 4 世紀終末頃の時期のものと考えられている。多量の滑石製の白玉と一緒に 1 点だけ出土した。玉の約半分がそのままの状態で、残り半分は欠損していた。遺物を実見した結果、比較的透明度が高く他の古墳時代出土琥珀玉と比べてもかなり依存状態はよく、硬度も高いと思われた。

#### (2) 目 的

川口 I 遺跡出土琥珀玉が、琥珀であるかどうかの確認と、得られた結果を標準資料のデータと比較することにより産地同定を行う。

#### (3) 使用機器および原理

測定はフーリエ変換型赤外分光光度計（以後 F T-I R とする）（SENSIR TECHNOLOGIES）を使用した。F T-I R による分析は、試料に赤外線を照射し、その結果得られる分子の構造に応じた固有の周波数の吸収を解析し、化合物の種類を同定することができる。主に有機物の構造を解析する手段として用いられることが多く、琥珀を形成する樹脂の種類すなわち植物の種類によって分子構造が異なると考えられるため産地によってスペクトルに差が生じ、それを利用して産地同定に応用されてきた<sup>1) 2) 3)</sup>。

#### (4) 分析方法および条件

F T-I R 分析は当初はそのままの状態では非破壊分析を試みたが十分なデータが得られなかった。そのため、資料の破断面からごくわずか採取した。これらを乳鉢で細かくすりつぶし、以下の分析に用いた。

F T-I R 分析は試料を臭化カリウム（KBr）と混合、圧縮し錠剤を作製した。測定条件は分解能  $4\text{ cm}^{-1}$ 、検出器として T G S を用いた。

#### (5) 結果および考察

F T-I R 分析は劣化していない部分の赤外吸収スペクトルが得られればその産地同定は可能である。しかし、劣化が激しいと、全体的にピークはブロードになり特徴的な吸収が消失し、新たに異なった位置にピークが表れることがある。そのためできるだけ堅くてより健全な部分を選んで F T-I R による分析を行った。

その結果、 $3500\sim 2800$ 、 $1710$ 、 $1500\sim 800\text{ cm}^{-1}$  付近の吸収から、琥珀であることが確認できた（図 1）。

次に、 $1800\sim 800\text{ cm}^{-1}$  付近の吸収位置および強度を基に、産地の判明している標準となる琥珀から得られたスペクトルと比較し、産地同定を試みた（図 2-1～3）。その結果、 $1100\sim 950\text{ cm}^{-1}$  の吸収

位置および強度が久慈産およびいわき産に比較的近い吸収位置と強度を示した。(図1、2)。この二産地は琥珀の生成年代がほぼ同じであり、由来する植物も同じである可能性が高いため、そのスペクトルは非常に近似したものになる。そのため、現時点ではこの二産地に関しては区別することができない。

琥珀の産地は国内でも、少量産出地も含めると10ヶ所以上もある。また国外でも各地で産出する。そのなかで、主産地についてのFT-IR分析はすでに報告されている<sup>1) 2) 3)</sup>。しかし、出土琥珀は劣化状態が様々でそれによって吸収位置や強度が変化する。そのため、劣化が進行したものはそのスペクトルが変化し産地同定が不可能になる場合がある。今回、資料は比較的依存状態がよかったため、標準琥珀との比較が可能であり、FT-IR分析では久慈市およびいわき市の可能性が高いと思われる。しかし、今回の資料はその形状や大きさ、出土時期が現在まで分析した古墳時代出土琥珀玉と比べるとかなり異なる。今までの分析資料は形状としては勾玉や棗玉がほとんどで、大きさも本資料に比べるとかなり大きく、時代的にも新しい。そのため、分析は国内産の琥珀と比較した結果から導いたものであるが、遺跡の地理的な立地などから国外の可能性も考えられる。今後中国など国外の標準資料も比較対照とし、さらに同定の精度を上げることが必要であると考えられる。

#### 参考文献

- 1) 室賀照子、赤外吸収スペクトルによる琥珀の産地分析、考古学と自然科学、第9号、59、(1976)
- 2) 植田直見、銚子産琥珀の赤外分光分析、こはく、第4号、15 (2002)
- 3) 植田直見、いわき地方産琥珀の科学分析、こはく、第5号、13 (2004)

(文責：植田直見)

1 川口 I 遺跡第 2 次調査出土琥珀産地の同定

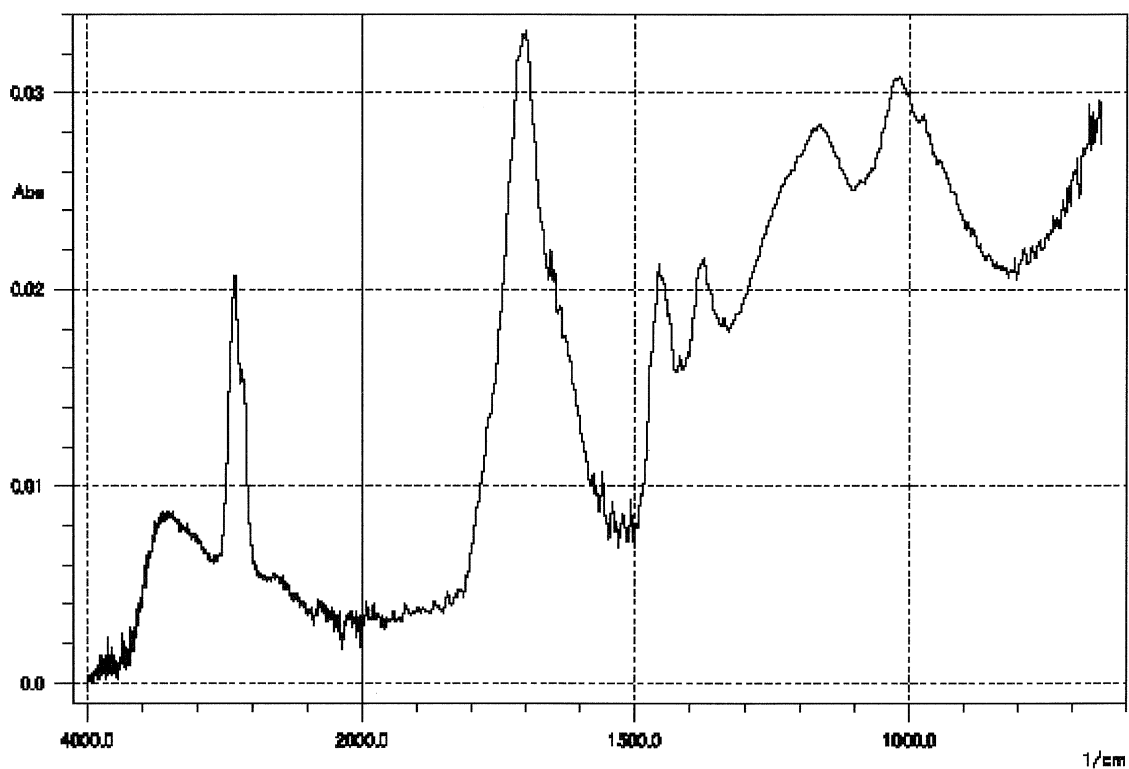


図 1 川口 I 遺跡出土琥珀玉の赤外吸収スペクトル

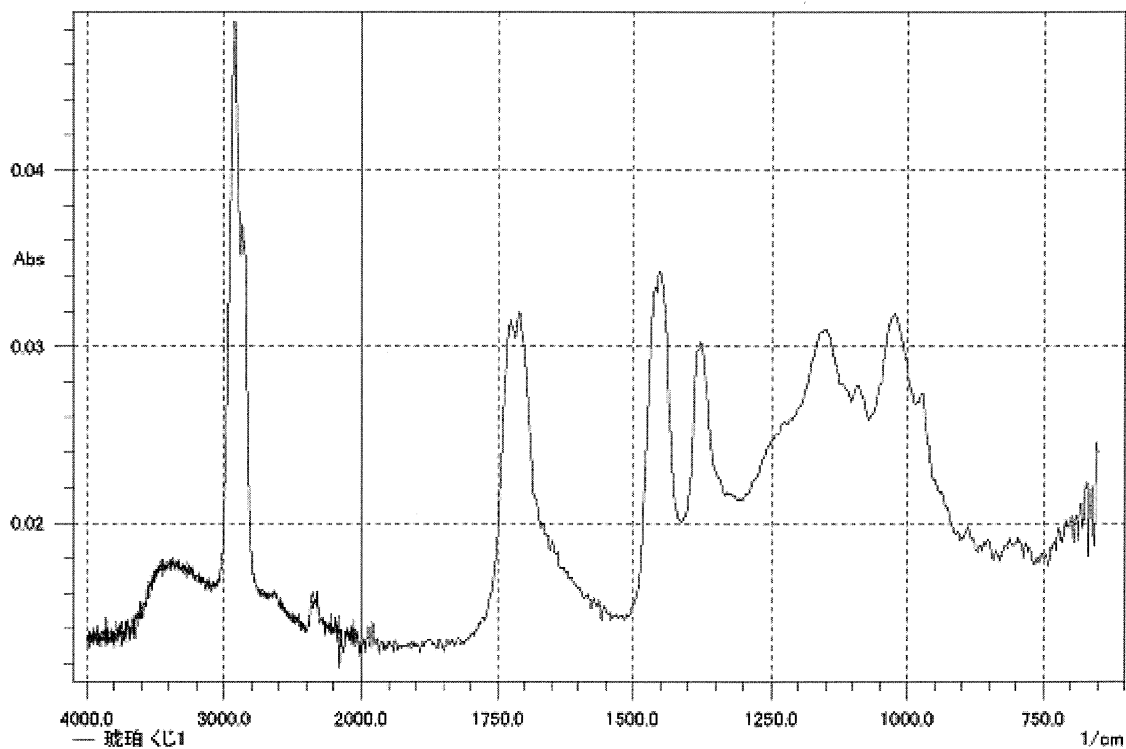


図 2 - 1 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル (久慈市)

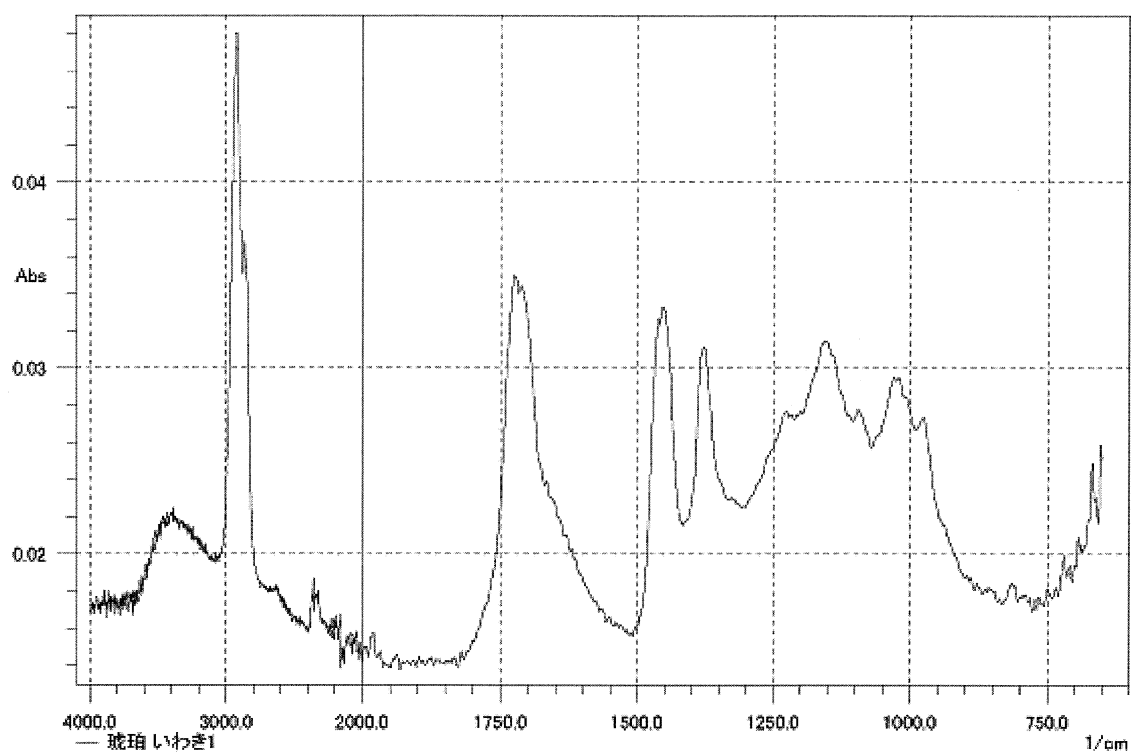


図 2-2 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル（いわき市）

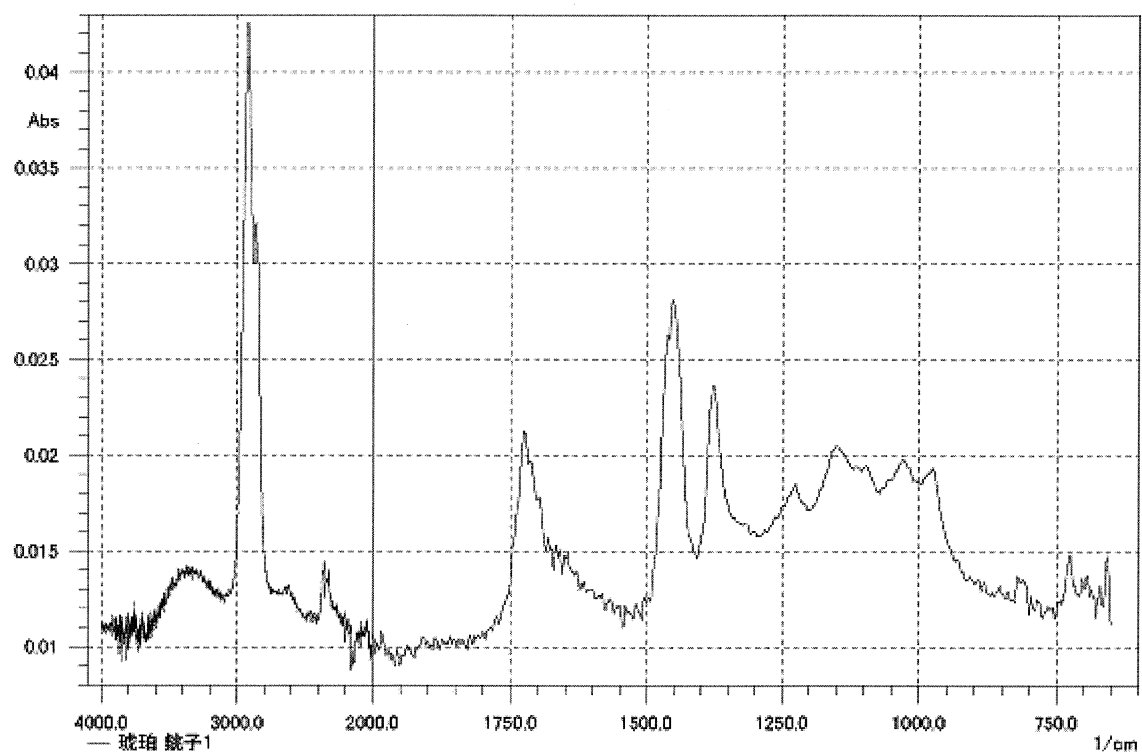


図 2-3 日本の主産地から産出した琥珀の赤外吸収スペクトル（銚子市）

## 2 川口 I 遺跡の火山灰について

弘前大学・理工学部・地球環境学科  
柴 正 敏

川口 I 遺跡より採集された、火山灰サンプル（8 試料）について、以下の観察・実験を行った。これら試料について、超音波洗浄器を用いて水洗し、粘土鉱物など数マイクロメートル以下の粒子を除去した後、偏光顕微鏡を用いて、火山ガラスの有無、火山ガラスが存在する場合にはその形態、構成鉱物の種類を観察・記載した。火山ガラスは、その形態、屈折率、化学組成、共存鉱物などにより給源火山を推定することができる（町田・新井、2003）。火山ガラスの化学組成を決定する方法として、近年、電子プローブマイクロアナライザー（以下 E P M A）がもちいられるようになってきた。本報告では、4 試料（試料 7、9、13 及び 16）について E P M A 分析を行った。使用した E P M A は弘前大学・機器分析センター所属の日本電子製 J X A - 8800 R L、使用条件は加速電圧 15 k V、試料電流 10 ナノアンペアである。補正計算は Z A F 法に従った。

試料 9 及び 13 は、ガラスの形態及び構成鉱物（表 1）、ガラスの化学組成（表 2）より、主に十和田 a テフラよりなる。褐色ガラス及び石英斑晶を含むことが特徴である。試料 13 はアルカリ長石及びエジリンオーゾジャイトをごく僅か含むことより、白頭山苦小牧テフラが混入した可能性がある。

試料 16 は、ガラスの形態及び共存鉱物（表 1）、ガラスの化学組成（表 2）より、十和田中掬テフラ起源のガラスよりなる。

試料 8 及び 14 は、発泡の良い軽石ガラスからなり、スコリアガラスやホルンブレンドを含まないことから、十和田南部テフラを主とすると考えられる。しかし、両試料とも、海綿骨針を含むことより、再堆積した可能性が高い。

試料 6 及び 15 は、スコリアガラス（苦鉄質ガラス）を普通に含むこと及び発泡度の良い軽石を含むことより、十和田二ノ倉テフラ及び十和田南部テフラが混合していると考えられる。試料 6 には、海綿骨針が含まれることより、周囲の地層からの堆積物の混入が認められる。試料 15 には、針状のホルンブレンド及び変質の進んだ発泡度の良い軽石を含むことより、十和田八戸テフラの混入も考えられる。

試料 7 は、十和田南部テフラ起源のガラスのほか（表 2）、針状ホルンブレンド及び変質の進んだ発泡度のよい軽石ガラスを含むことより、十和田八戸テフラ起源のガラスを含んでいると考えられる。表 2 に本試料のガラス組成を示したが、十和田八戸テフラ及び十和田 a テフラのガラスは組成が重なるため、識別しがたい（柴ほか、2001）。従って、十和田 a テフラ起源のガラスである可能性もある。また、本試料には海綿骨針が普通に認められることより、再堆積した可能性が高い。

### 参考文献

- Hayakawa, Y. (1985), Pyroclastic geology of Towada Volcano. Bulletin of Earthquake Research Institute, vol.60, 507-592.  
Machida, H. (1999), Quaternary widespread tephra catalog in and around Japan: Recent progress. 第四紀研究、第38巻、194-201.  
町田 洋・新井房夫 (2003)、新編火山灰アトラス - 日本列島とその周辺 -。東京大学出版会、pp. 336.  
柴 正敏・重松直樹・佐々木 実 (2000)、青森県内に分布する広域テフラに含まれる火山ガラスの化学組成 (1)。弘前大学理工学部研究報告、第 1 巻、第 1 号、11-19。

柴 正敏・中道哲郎・佐々木 実 (2001)、十和田火山、降下軽石の化学組成変化 一字樽部の一露頭を例として。弘前大学理工学部研究報告、第4巻、第1号、11-17.

柴 正敏・佐々木 実 (2006)、十和田火山噴出物のガラス組成変化、月刊地球、第28巻、第5号、322-325.

表1 川口 I 遺跡火山灰試料一覧

試料 No.	採取場所	層位	ガラス及び鉱物	ガラスの帰属	特記事項
6	B区中央 文トレ内	To-b層(?)	ガラス(pm≫bw)、スコリアガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-Nk、To-Nb (再堆積)	海綿骨針、軽石、岩片 (径15.0~10.0mm)
7*	B区中央部	To-a層(?)	ガラス(pm≫bw)、斜長石、石英(両錐型)、斜方輝石、単斜輝石、ホルンブレンド、鉄鉱	To-H、To-Nb、To-a (再堆積)	海綿骨針、軽石、岩片 (径1.0~10.0mm)
8	B区中央部	To-Nb層(?)	ガラス(pm≫bw)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	再堆積To-Nb	海綿骨針、岩片、軽石 (径5.0~12.0mm)
9*	B区中央部	To-a層(?)上面層	ガラス(pm≫bw)、褐色ガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英、鉄鉱	To-a	岩片、軽石 (径1.0~3.0mm)
13	F区北壁	II層 To-a層	ガラス(pm、bw)、褐色ガラス、アルカリ長石、エジリンオージャイト、斜長石、石英(両錐型)、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-a、(B-Tm)	岩片、軽石 (径0.5~1.0mm)
14	F区北壁	IV層 ゴロタ層	ガラス(pm≫bw)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-Nb (再堆積)	海綿骨針、岩片、軽石 (径2.0~20.0mm)
15	F区北壁	V層 To-b層	ガラス(pm)、スコリアガラス、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、石英(両錐型)、ホルンブレンド、鉄鉱	To-Nk、To-H、To-Nb	岩片、軽石 (径1.0~15.0mm)
16*	F区北壁	IX層 To-Cu層	ガラス(pm≫bw)、褐色ガラス(少)、斜長石、斜方輝石、単斜輝石、鉄鉱	To-Cu	岩片、軽石 (径3.~8.0mm)

bw = バブルウォール型、pm = 軽石型、To-H = 十和田八戸テフラ、To-Nk = 十和田二ノ倉テフラ、To-Nb=十和田南部テフラ、To-Cu=十和田中撤、To-a=十和田aテフラ、≫=より非常に多い

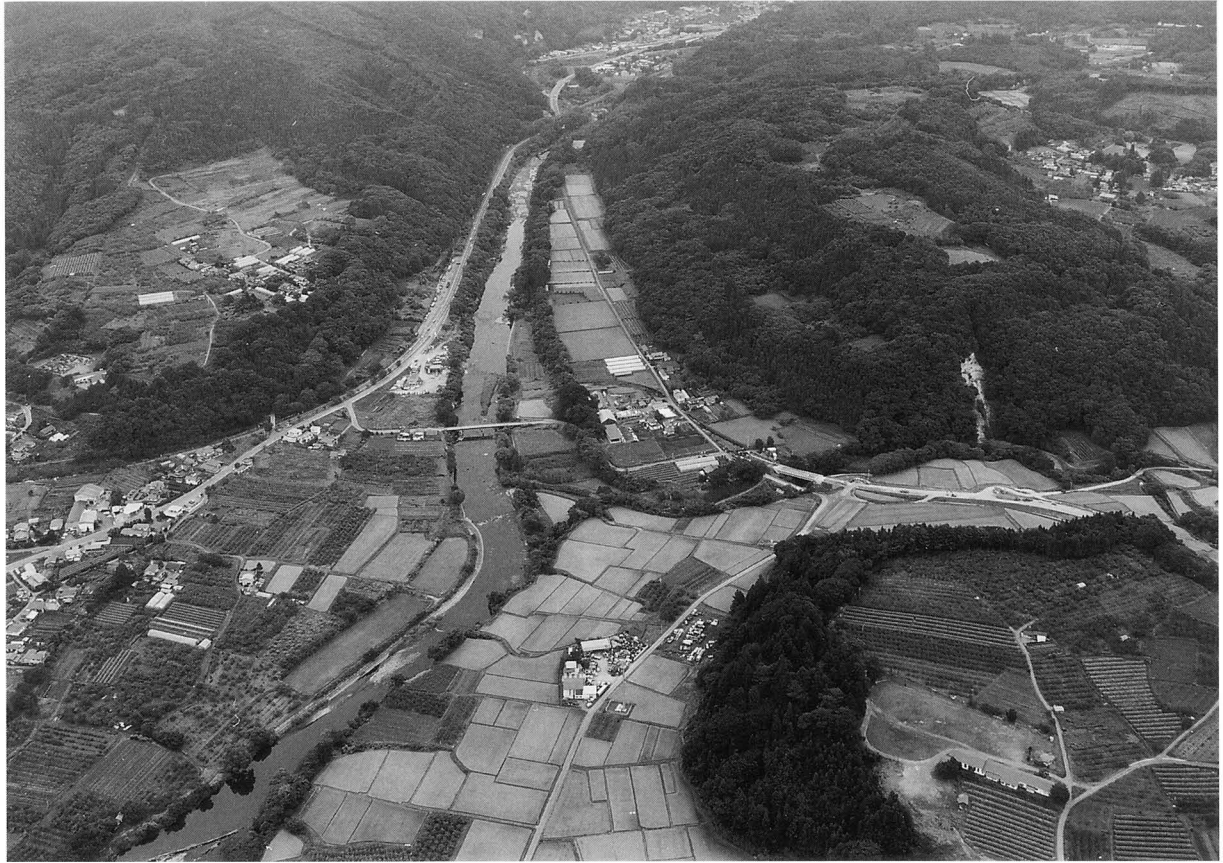
表2 川口 I 遺跡、火山ガラスのEPMAデータ

十和田aテフラ		SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	FeO*	MnO	MgO	CaO	N <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	n	Total	EPMA
試料番号9 B区中央部 To-a(?) 上面層	最小	76.70	0.27	12.34	1.76	0.00	0.35	1.85	3.52	1.44	8	101.66	WDS
	最大	77.52	0.47	13.20	2.11	0.22	0.49	2.03	4.27	1.56			
	平均	76.97	0.37	12.84	1.96	0.13	0.42	1.99	3.83	1.50			
	標準偏差	0.284	0.069	0.270	0.132	0.067	0.044	0.073	0.232	0.037			
試料番号13 F区北壁II層 To-a層	最小	76.78	0.33	12.43	1.55	0.05	0.38	1.93	3.47	1.36	17	103.07	WDS
	最大	77.44	0.52	13.13	2.27	0.20	0.48	20.7	4.13	1.55			
	平均	76.99	0.38	12.88	1.96	0.11	0.43	2.03	3.73	1.48			
	標準偏差	0.209	0.060	0.167	0.154	0.045	0.032	0.039	0.212	0.049			
	青木・新井(2000)	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37			
柴ほか(2001)	77.95	0.28	12.59	1.54	0.09	0.35	1.88	3.92	1.40	11	98.41	WDS	
十和田中掖テフラ													
試料番号16 F区北壁 IX層 To-Cu層	最小	74.97	0.41	13.11	1.82	0.06	0.28	2.46	3.48	1.28	5	97.52	WDS
	最大	75.78	0.54	14.19	2.95	0.17	0.60	2.58	3.91	1.41			
	平均	75.36	0.48	13.51	2.52	0.11	0.51	2.51	3.64	1.34			
	標準偏差	0.338	0.048	0.412	0.450	0.039	0.134	0.056	0.219	0.050			
	青木・新井(2000)	75.36	0.43	13.65	2.35	0.11	0.52	2.35	4.01	1.22			
柴ほか(2001)	75.59	0.40	13.27	2.45	0.09	0.51	2.70	3.68	1.31	13	98.22	WDS	
十和田南部テフラ													
試料番号7 B区中央部 To-a層(?) 下層	最小	73.17	0.41	13.91	2.68	0.01	0.49	2.93	3.90	1.12	3	103.19	WDS
	最大	74.46	0.47	14.49	2.95	0.11	0.71	3.00	4.30	1.33			
	平均	73.63	0.44	14.14	2.81	0.06	0.60	2.95	4.13	1.25			
	標準偏差	0.725	0.030	0.307	0.133	0.054	0.109	0.041	0.206	0.117			
	青木・新井(2000)	74.98	0.47	13.41	2.75	0.06	0.60	2.70	3.81	1.25			
柴ほか(2001)	74.33	0.49	13.63	2.84	0.14	0.64	3.06	3.45	1.42	10	96.15	WDS	
十和田系テフラ													
試料番号7 B区中央部 To-a層(?) 下層	最小	77.11	0.21	12.99	1.91	0.02	0.41	2.07	3.39	1.22	3	101.63	WDS
	最大	77.34	0.47	13.17	2.01	0.18	0.48	2.22	3.50	1.43			
	平均	77.16	0.29	13.08	2.00	0.12	0.46	2.14	3.45	1.30			
	標準偏差	0.157	0.071	0.092	0.081	0.092	0.038	0.074	0.058	0.075			
	十和田八戸テフラ 青木・新井(2000)	76.38	0.40	13.43	1.90	0.11	0.44	2.22	3.88	1.24			
十和田aテフラ 青木・新井(2000)	77.75	0.36	12.73	1.62	0.09	0.38	1.81	3.90	1.37	19	98.41	WDS	

測定値は無水で100%になるように再計算した。FeO\*は全鉄をFeOとして計算したことを表す。  
nは分析点の数、WDSは波長分散型EPMAを意味する。



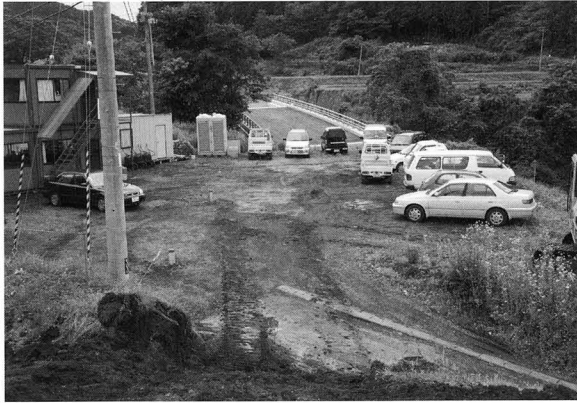
写 真 图 版



遠景



直上(上が北)



A区現況（東から）



A区基本層序（南から）



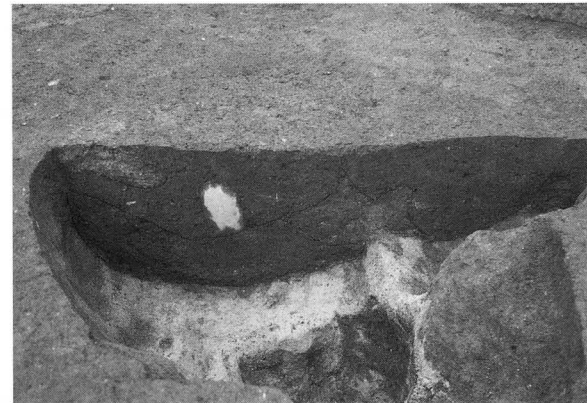
1号土坑（完掘）



1号土坑（断面）



2号土坑（完掘）



2号土坑（断面）

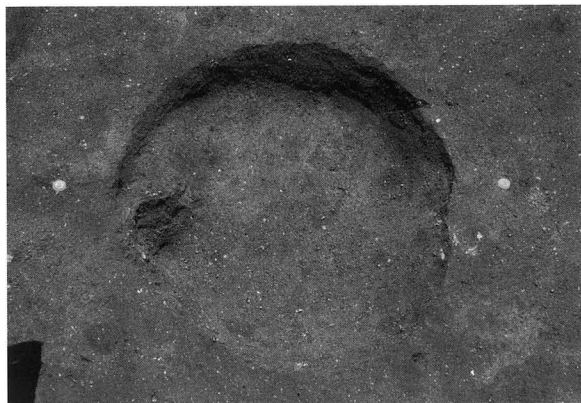


3号土坑（完掘）



3号土坑（断面）

写真図版2 A区現況・基本層序・土坑(1)



4号土坑 (完掘)



4号土坑 (断面)



5号土坑 (完掘)



5号土坑 (断面)



十和田中掘面終了全景 (西側)



十和田中掘面終了全景 (東側)



VIII層(十和田中掘火山灰層下)面 (西側)



VIII層(十和田中掘火山灰層下)面 (西側)



B区現況（西から）



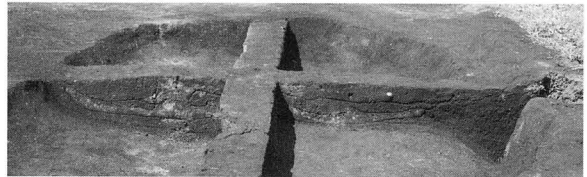
B区現況（東から）



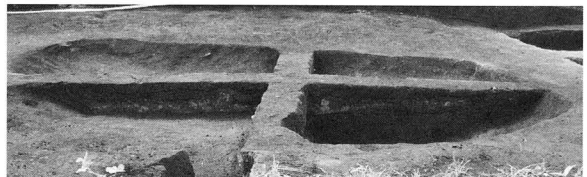
B区基本層序



2号土坑（完掘）



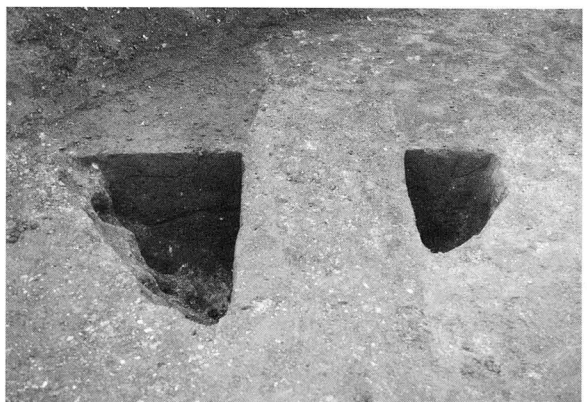
2号土坑（断面、東から）



2号土坑（断面、北から）



5号土坑（完掘）



5号土坑（断面）

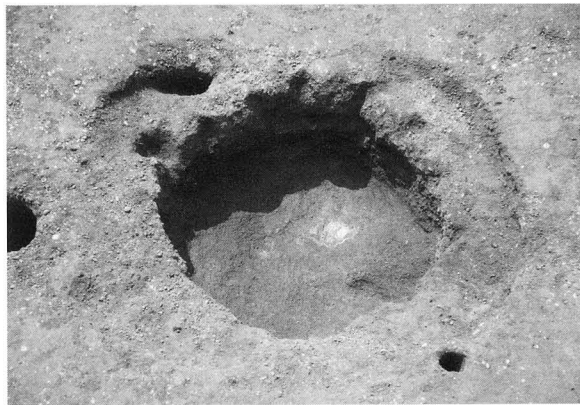
写真図版4 B区現況・基本層序・土坑(1)



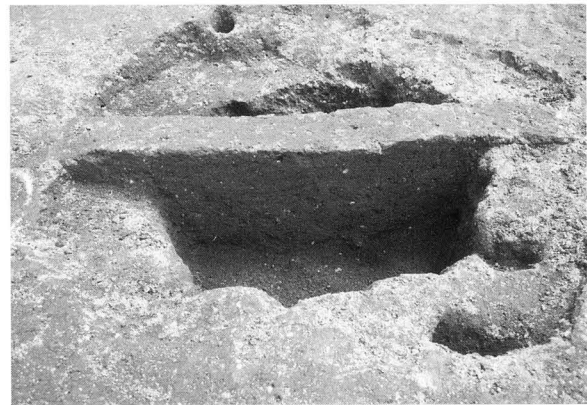
6号土坑 (完掘)



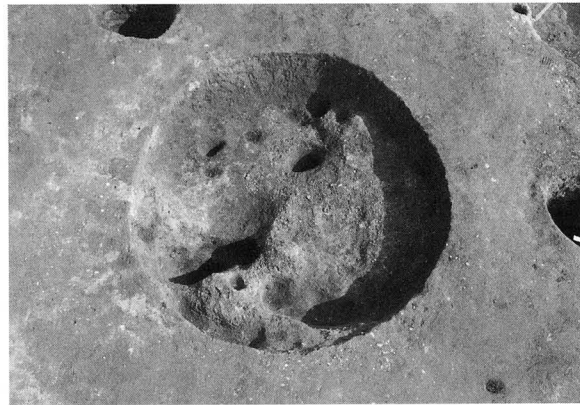
6号土坑 (断面)



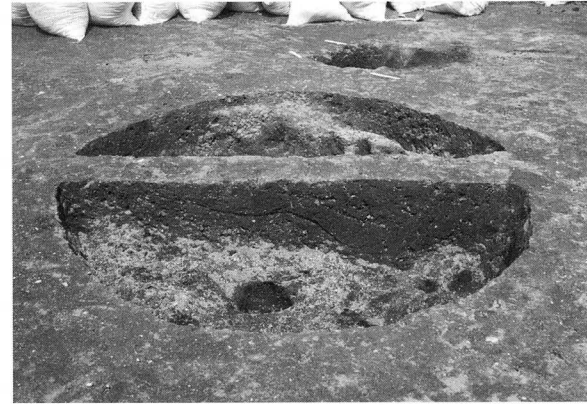
7号土坑 (完掘)



7号土坑 (断面)



8号土坑 (完掘)



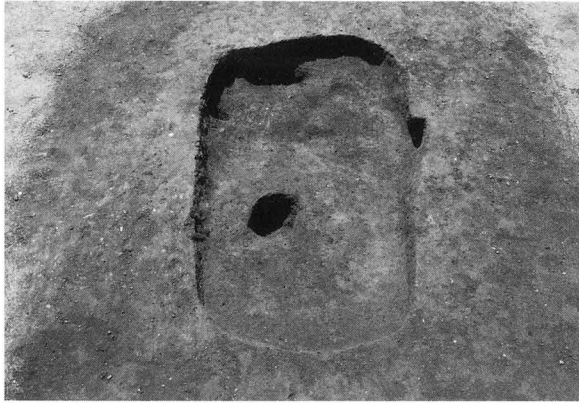
8号土坑 (断面)



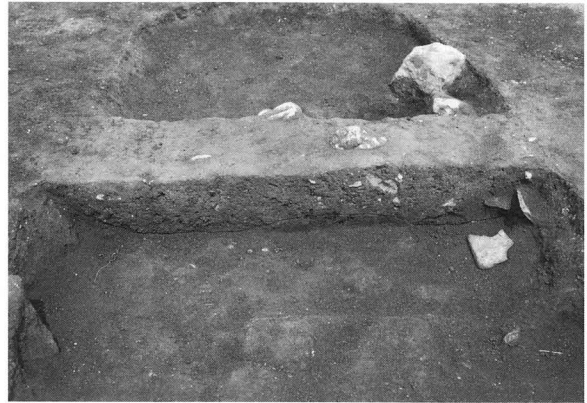
9号土坑 (断面)



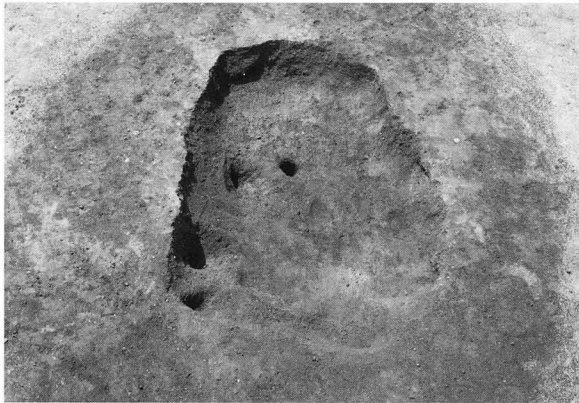
14号土坑 (P139舍) (断面)



10号土坑（完掘）



10号土坑（断面）



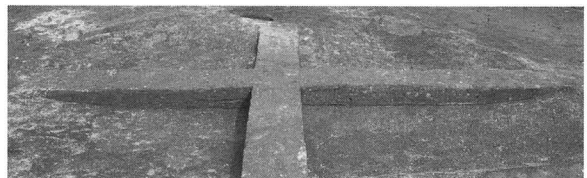
11号土坑（完掘）



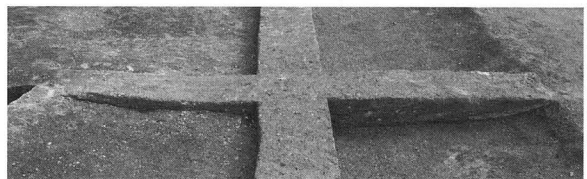
11号土坑（断面）



12号土坑（完掘）



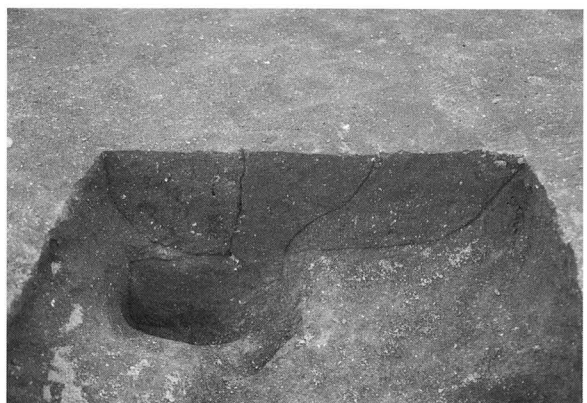
12号土坑（断面、西から）



12号土坑（断面、北から）



15号土坑（完掘）



15号土坑（断面）



16号土坑 (断面)



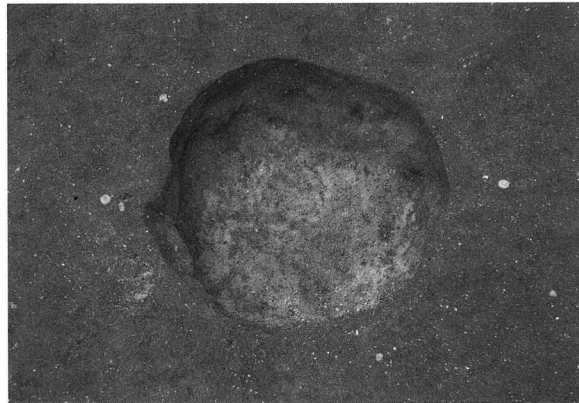
16・17号土坑 (断面)



17号土坑 (断面)



16号土坑・17号土坑 完掘



18号土坑 (完掘)



18号土坑 (断面)



20号土坑 (完掘)



20号土坑 (断面)

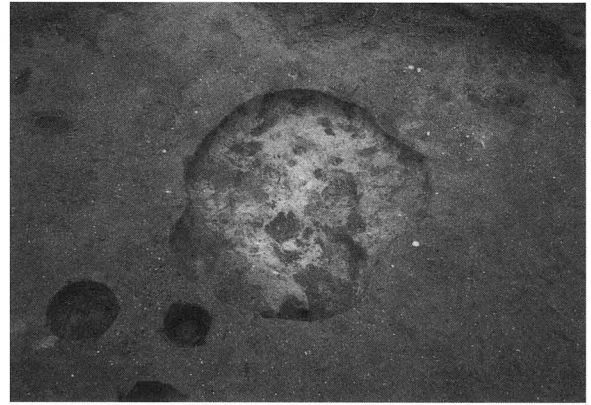




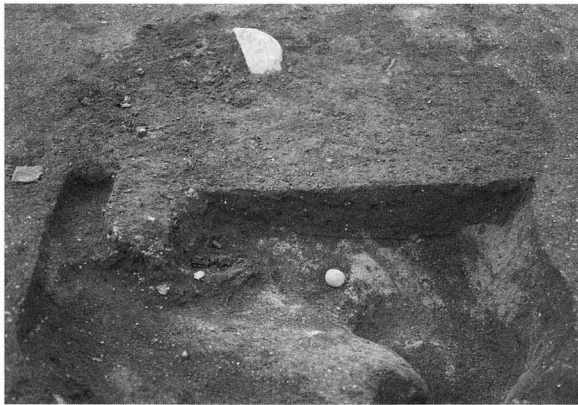
19号土坑 (完掘)



19号土坑 (断面)



21号土坑 (完掘)



21号土坑 (断面)



21号土坑 炭化材出土状况



22号土坑 (完掘)



22号土坑 (断面)



23号土坑（完掘）



Ⅱ層(十和田a火山灰層)面 柱穴状土坑群



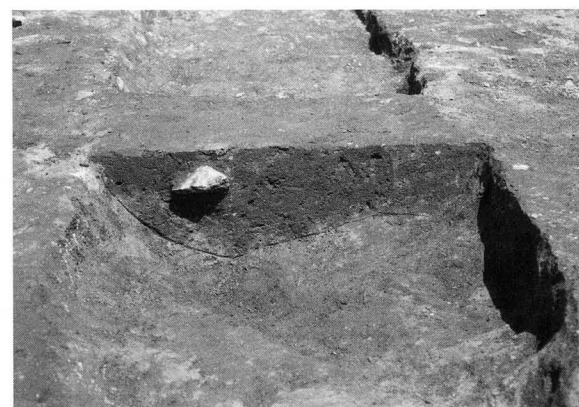
1号溝（完掘）



2号溝（完掘）



1号溝（断面）



2号溝（断面）



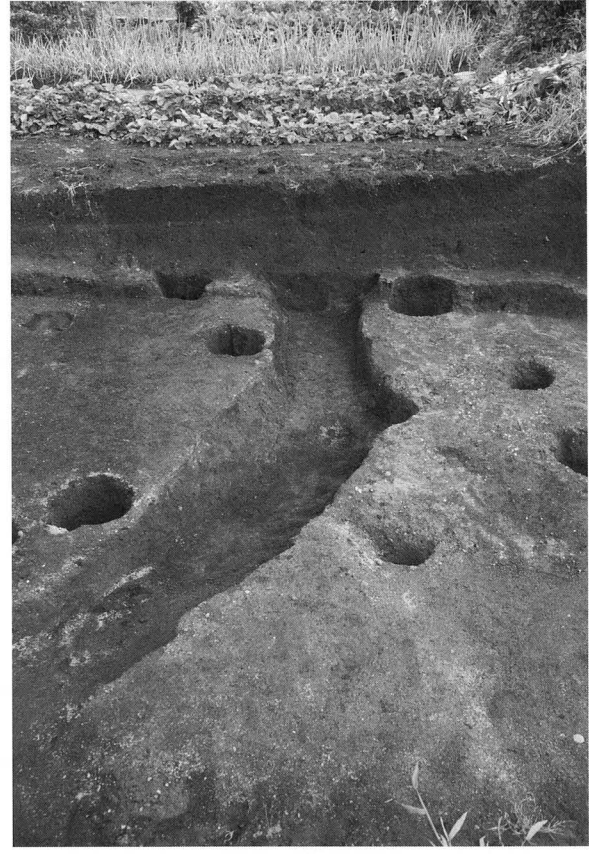
3号溝 (完掘)



3号溝 (断面)



5号溝 (完掘)



6号溝 (完掘)



5号溝 (断面)



6号溝 (断面)

写真図版10 B区溝状遺構(2)



埋設土器遺構断面



埋設土器内埋土断面



Ⅱ層面（第1検出面）全景（西から）



Ⅲ層（南部浮石層）検出（東から）



Ⅳ層下（第2検出面）終了全景（南東から）



Ⅶ層面（十和田中掘層）（東から）



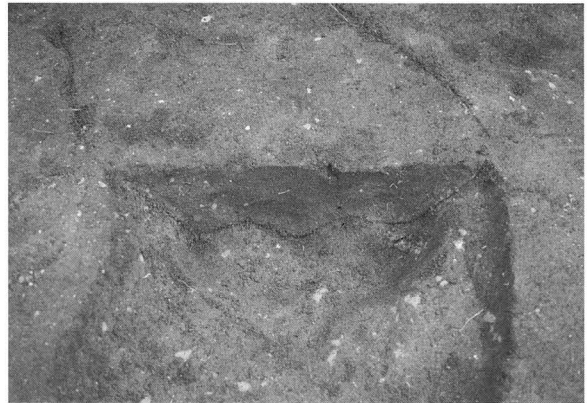
C区現況



C区基本層序



1号土坑（完掘）



1号土坑（断面）



C区Ⅲ層（南部浮石層）検出状況



C区Ⅶ層（十和田中郷火山灰層）検出



D区（西）現況



D区（西）基本層序

写真図版12 C区現況・基本層序・土坑・D区（西）現況・基本層序



1号溝 (完掘)



1号溝 (断面)



D区IV層下終了全景 (東から)



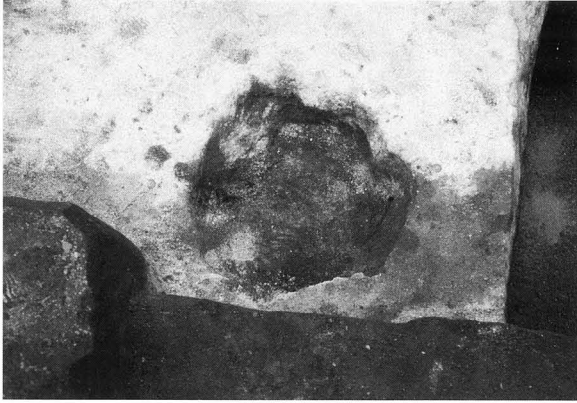
D区VII層 検出状況



D区(東)VII層以下トレンチ状況



E区(東)現況



1号土坑（完掘）



1号土坑（断面）



E区(東)IV層下(第II検出)終了



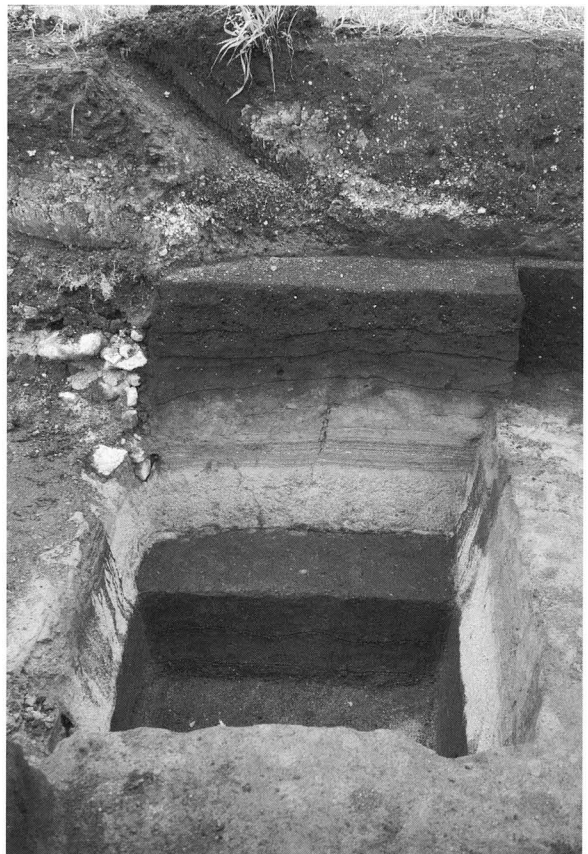
E区(東)VII層 検出面



E区(東)VIII層 上面



E区(西)現況



E区(西)基本層序

写真図版14 E区(東)土坑・終了全景・E区(西)現況・基本層序



豎穴住居状遺構完掘

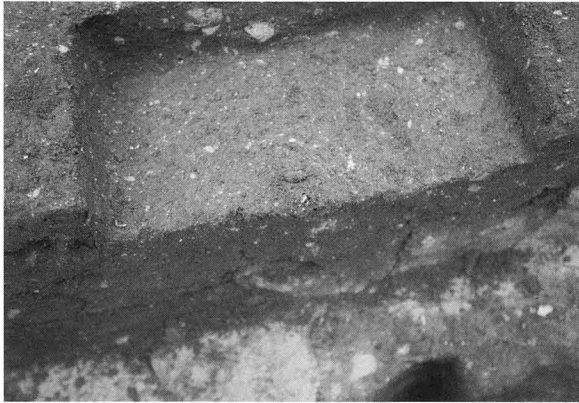


東西断面



南北断面





竪穴住居状遺構東西ベルト琥珀出土状況



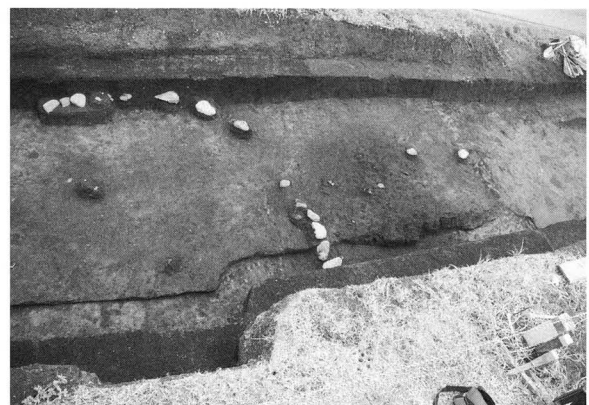
琥珀出土状況（近撮）



配石遺構（北から）



配石遺構（断面）（南西から）



配石遺構と竪穴住居状遺構重複部分



1号土坑（完掘）



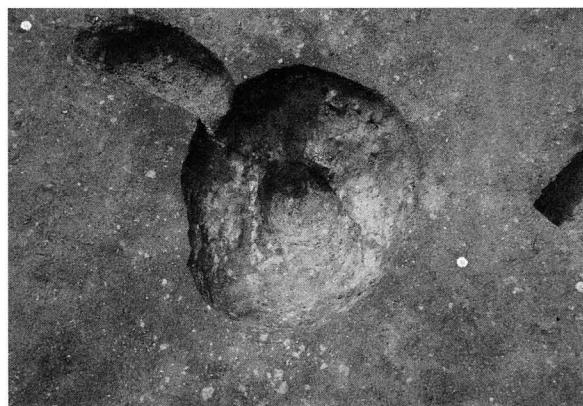
1号土坑（断面）



2号土坑（完掘）



2号土坑（断面）



3号土坑（完掘）



3号土坑（断面）



4号土坑（完掘）



4号土坑（断面）



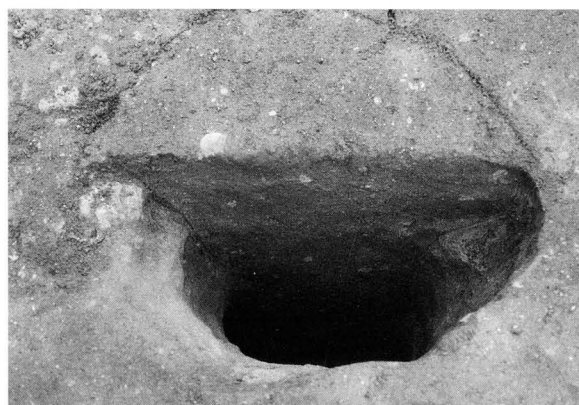
5号土坑 (完掘)



5号土坑 (断面)



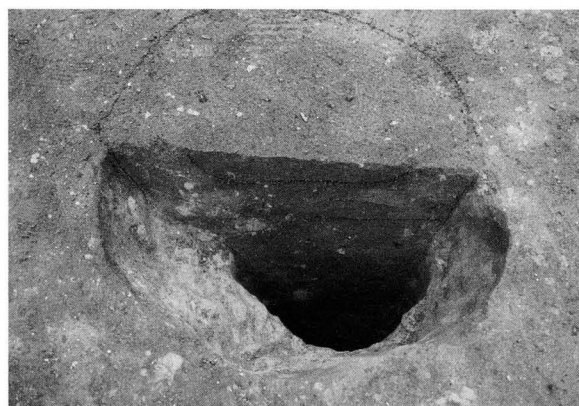
6号柱穴状土坑 (完掘)



12号柱穴状土坑 (断面)



9号柱穴状土坑 (完掘)



9号柱穴状土坑 (断面)



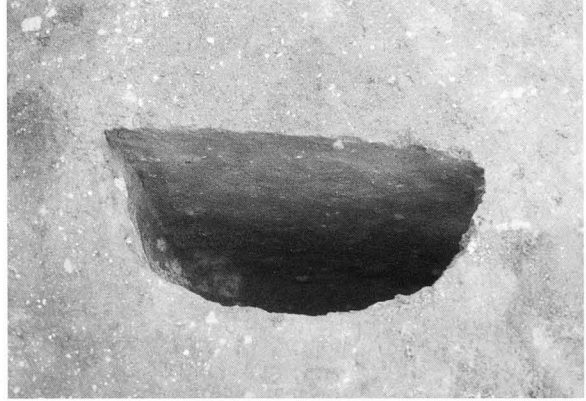
10号柱穴状土坑 (完掘)



10号柱穴状土坑 (断面)



11号柱穴状土坑（完掘）



11号柱穴状土坑（断面）



3号土坑・4号土坑・9号柱穴状土坑～11号柱穴状土坑（完掘）



V層面 出土遺構全景（東から）



VII層（十和田中掘）面（東から）



攪乱部（防火水槽跡）



F区 現況



F区 基本層序



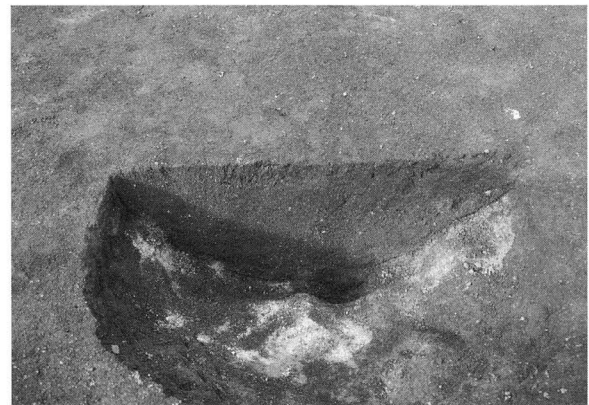
1号土坑 (完掘)



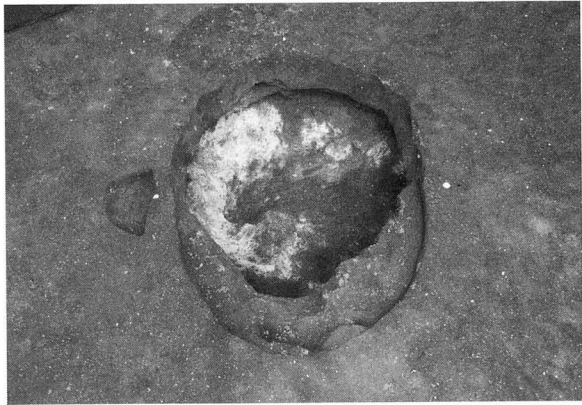
1号土坑 (断面)



2号土坑 (完掘)



2号土坑 (断面)



3号土坑 (完掘)



3号土坑 (断面)



4号土坑 (完掘)



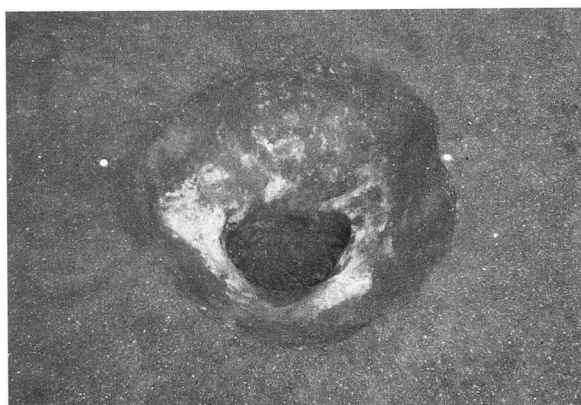
4号土坑 (断面)



5号土坑 (完掘)



5号土坑 (断面)



6号土坑 (完掘)



6号土坑 (断面)



北壁土器出土断面（南から）



II R19・24グリッド遺物出土状況（南東から）



北 壁（南から）



南 壁（北から）

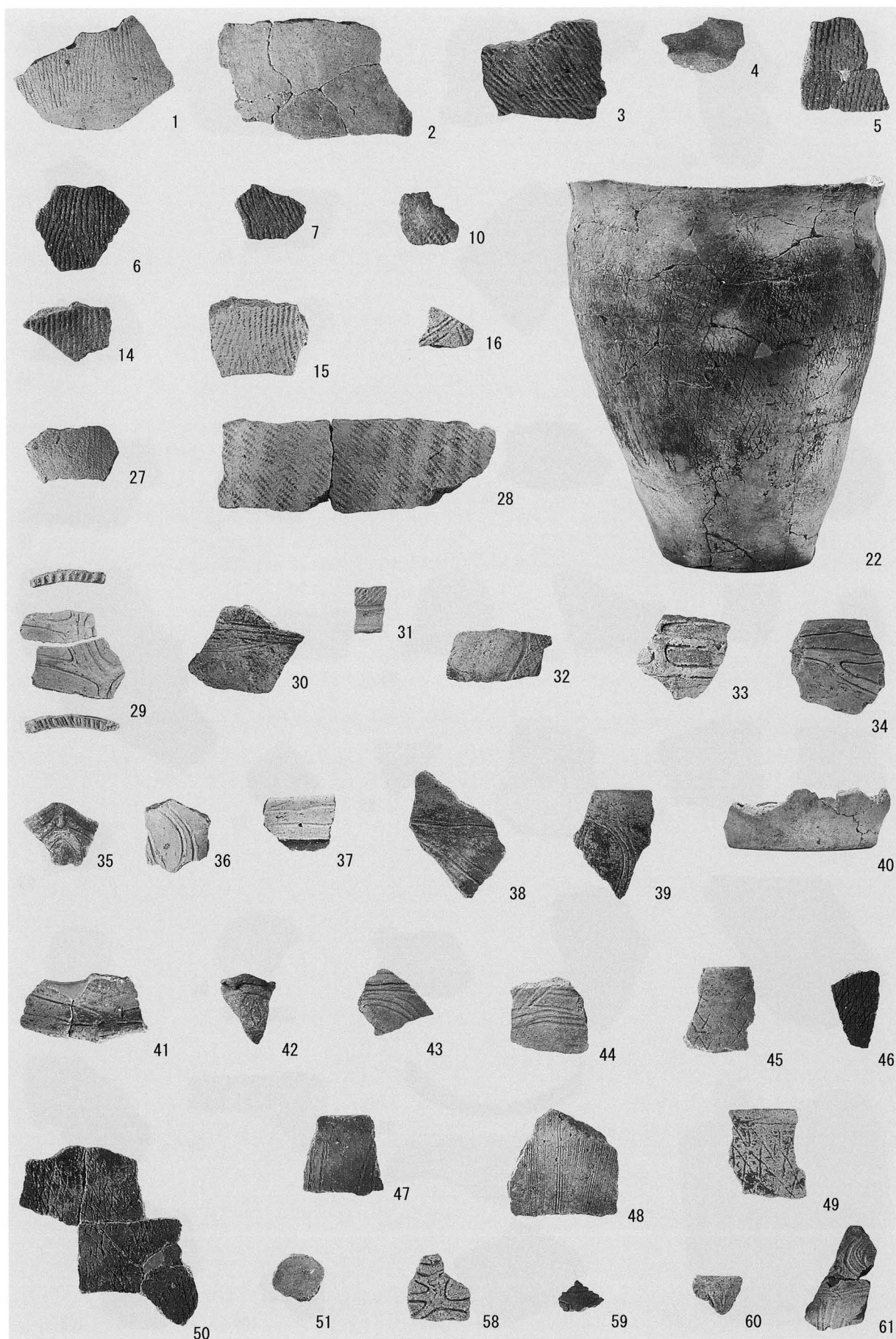


V層（第2検出面）終了全景（東から）



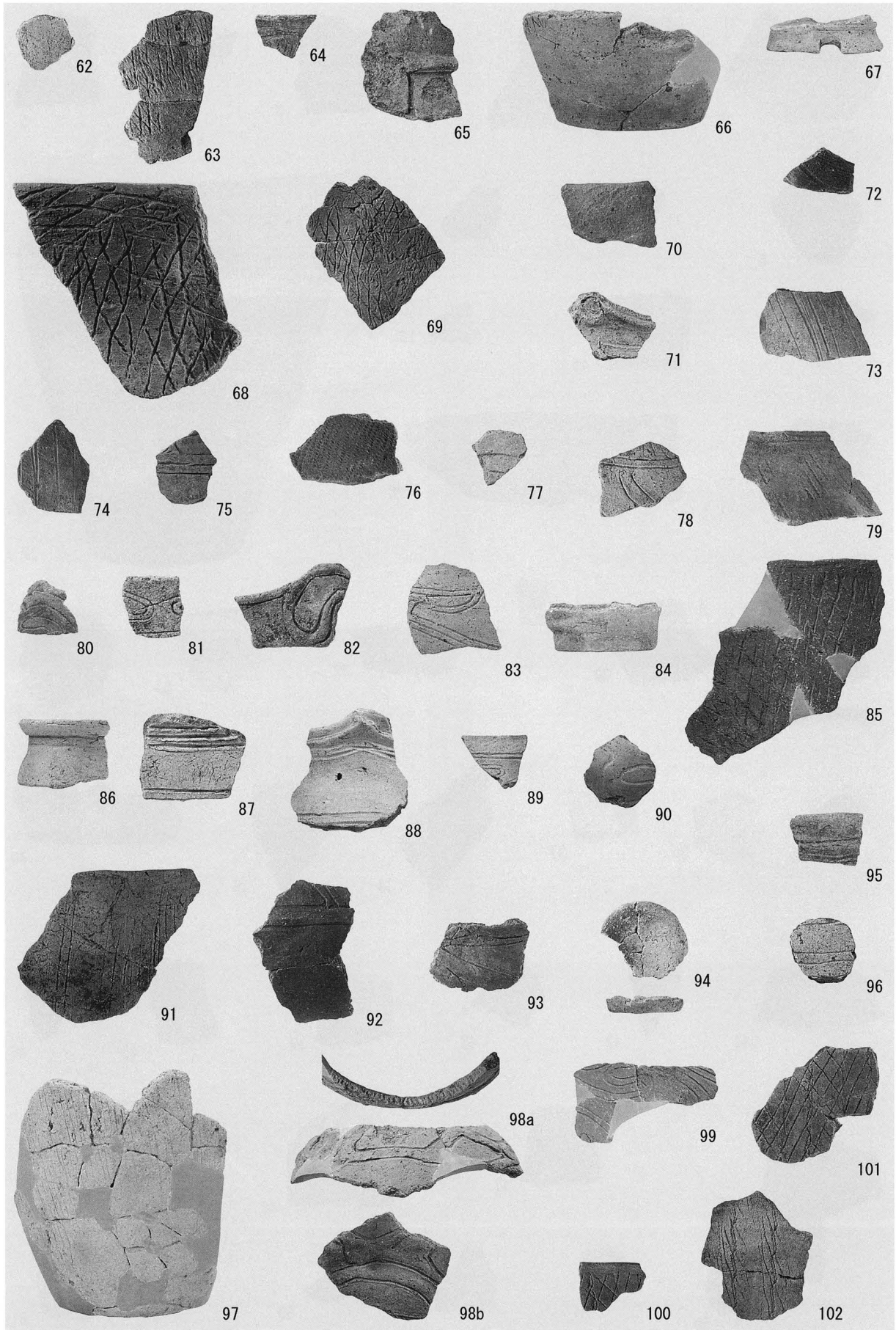
VII層（十和田中掘層）検出（東から）

写真図版22 F区土器出土状況・北壁・南壁断面・終了全景

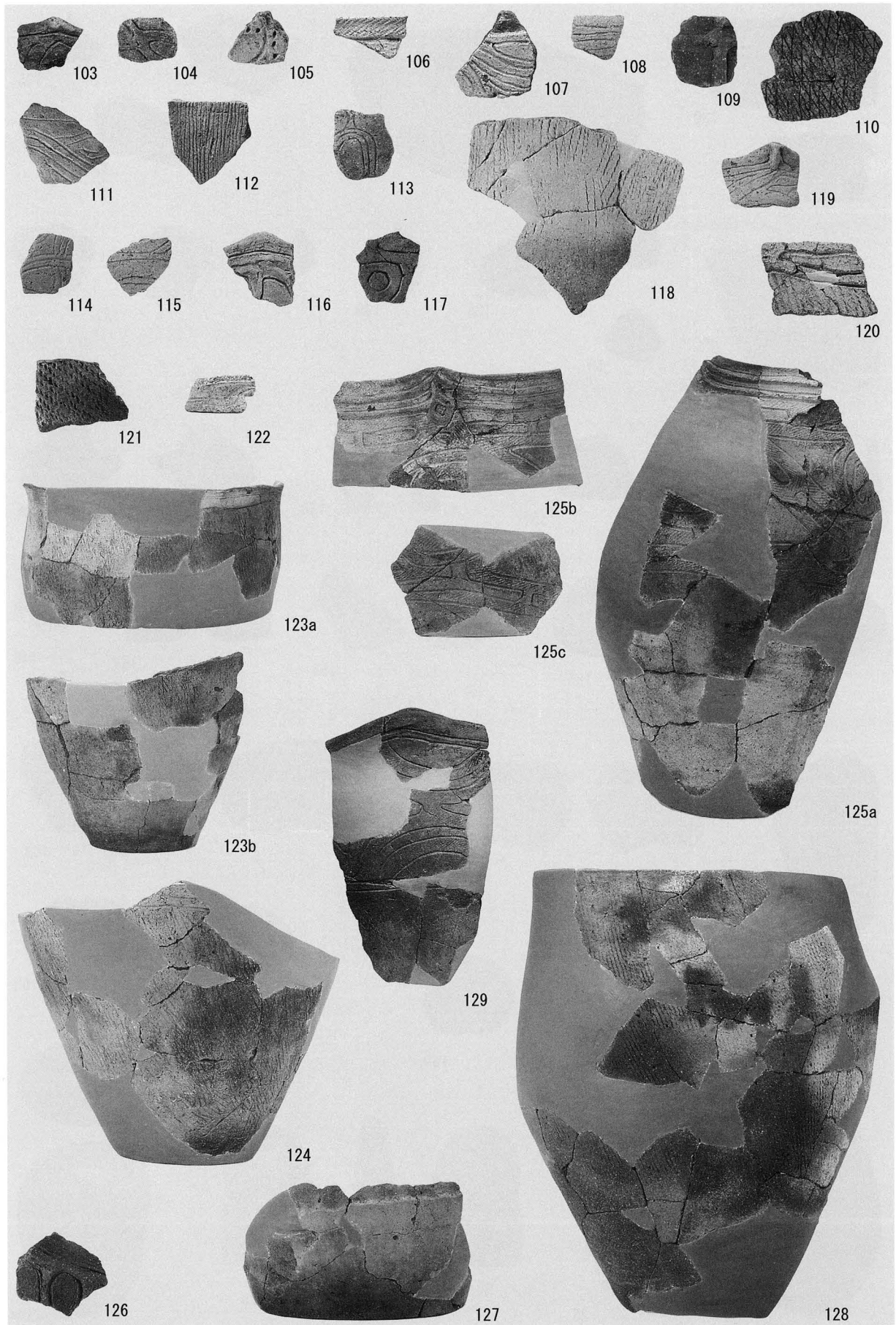


写真图版23 遺物写真 (1)

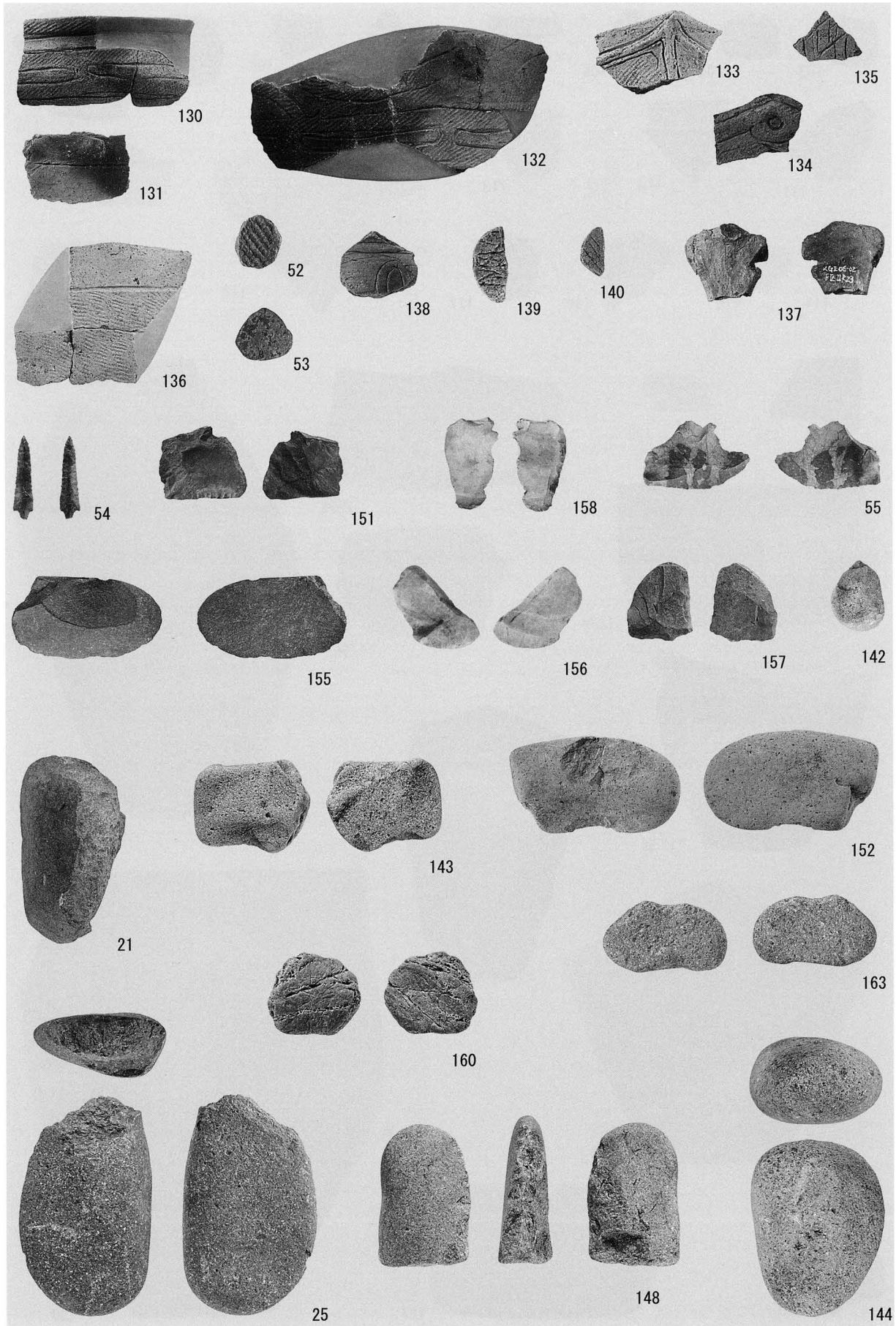




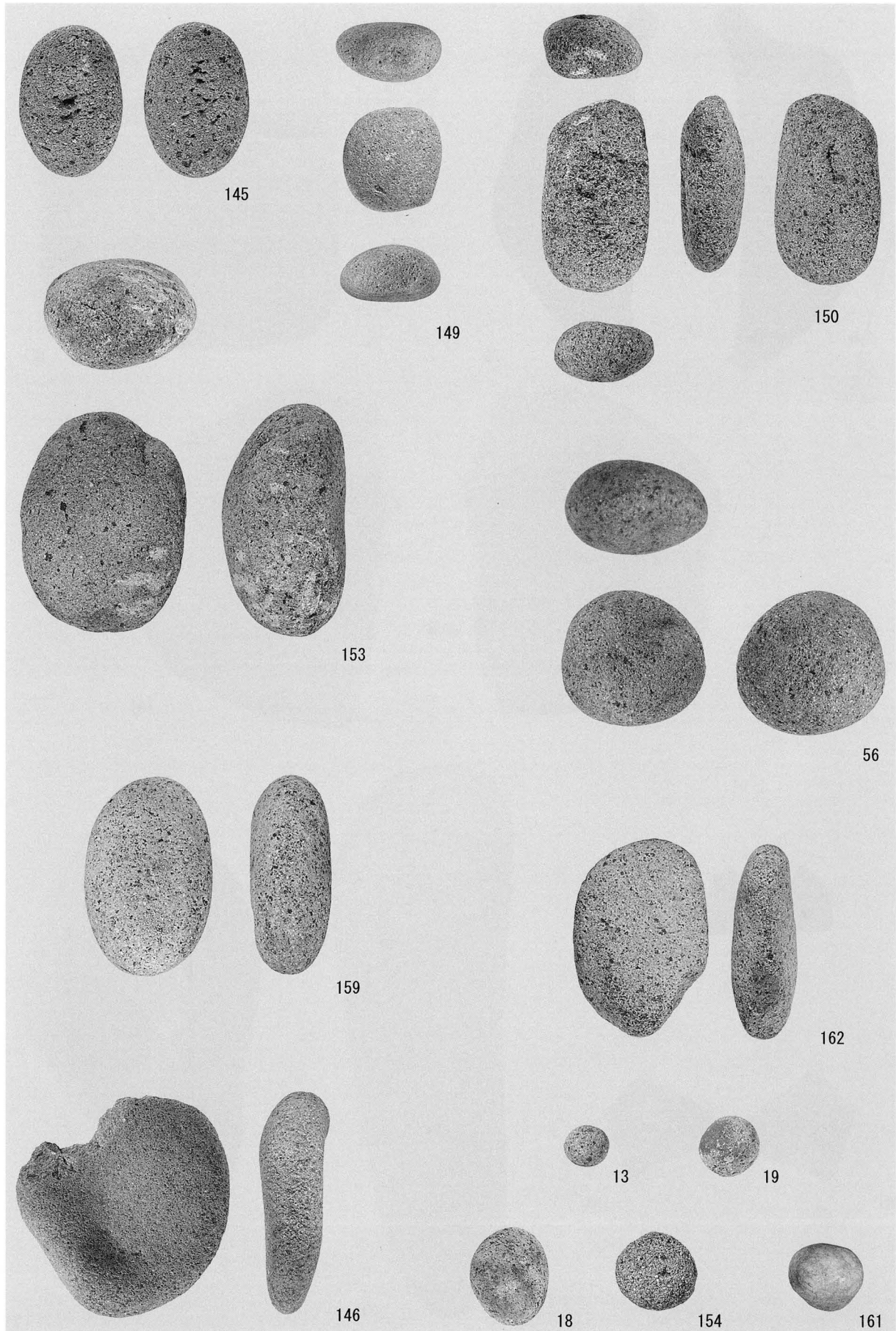
写真图版24 遺物写真 (2)



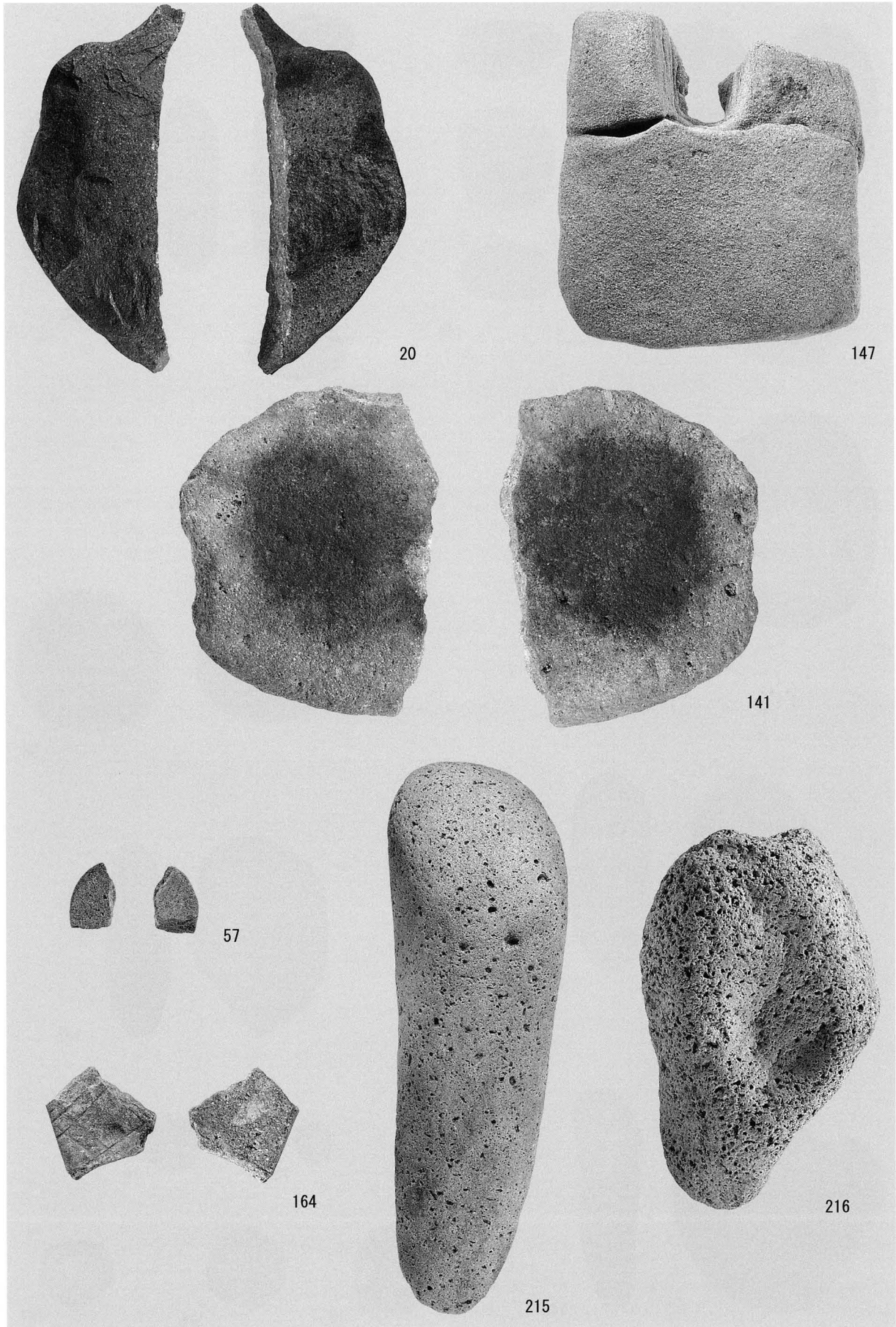
写真図版25 遺物写真 (3)



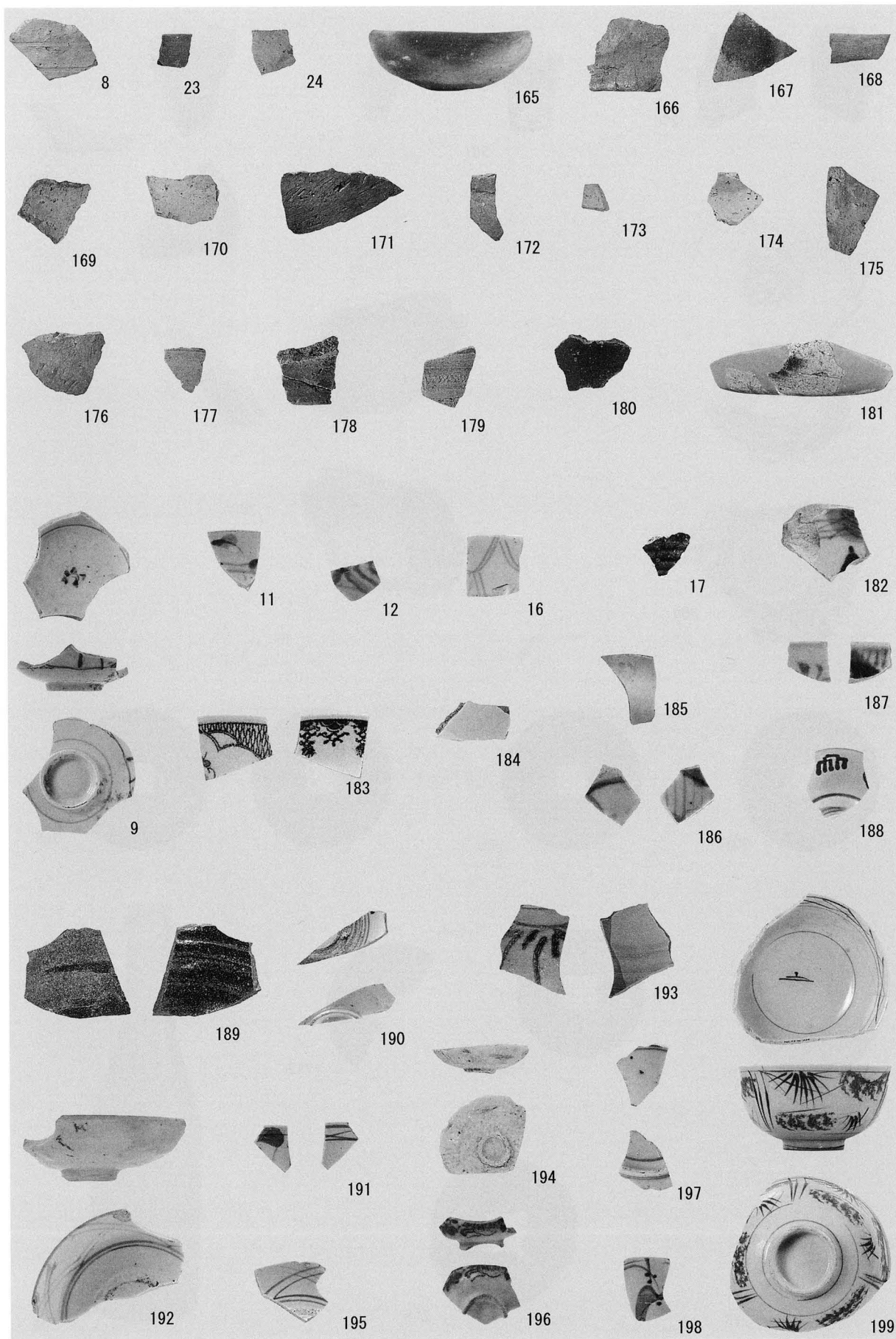
写真図版26 遺物写真(4)



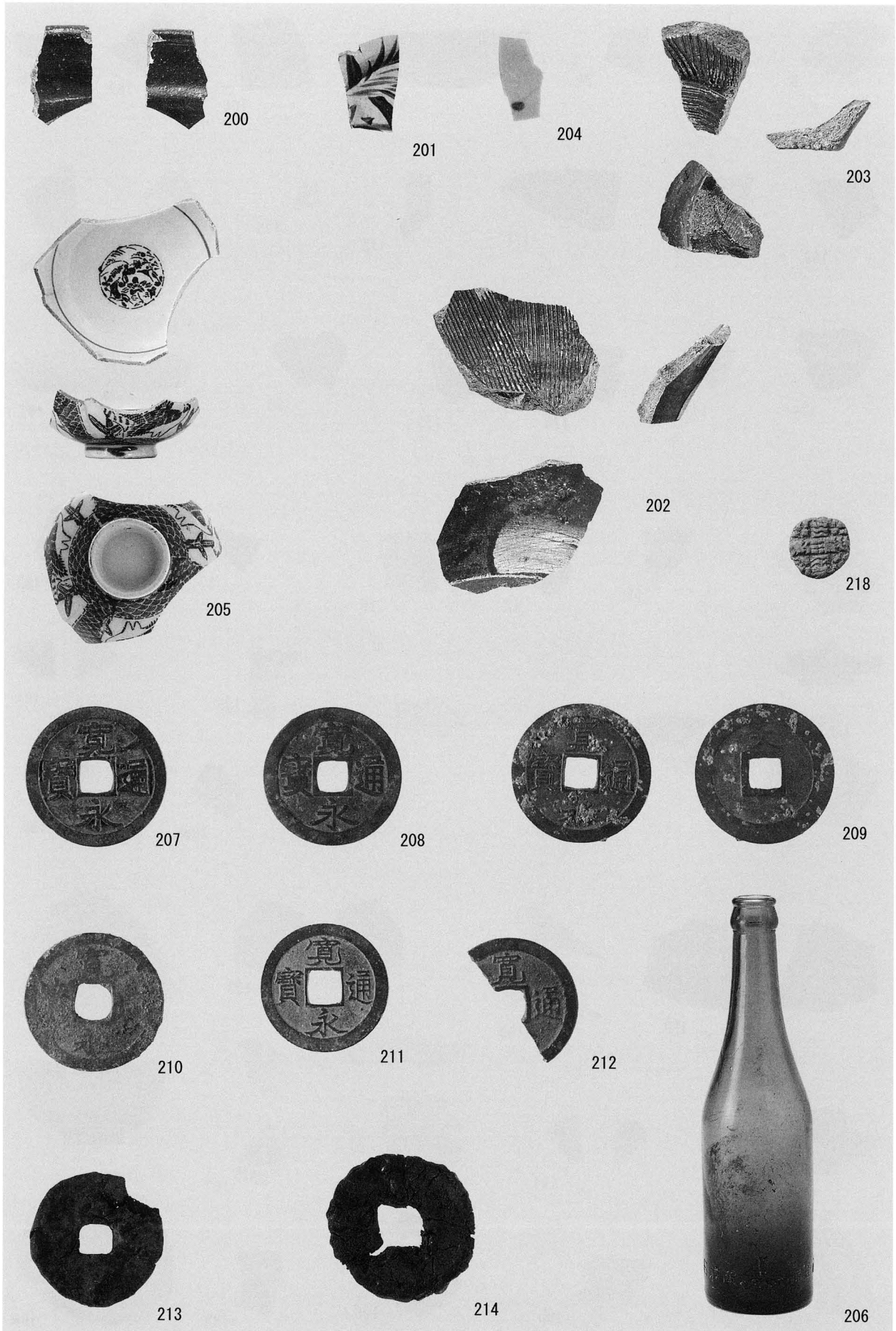
写真図版27 遺物写真 (5)



写真図版28 遺物写真 (6)



写真図版29 遺物写真 (7)



写真図版30 遺物写真 (8)

# 報告書抄録

ふりがな	かわぐちいちいせきだいにじはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書							
副書名	一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第521集							
編著者名	木戸口俊子							
編集機関	(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター							
所在地	〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地 TEL (019) 638-9001							
発行年月日	2007年12月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かわぐちいちいせき 川口 I 遺跡 だいにじちょうさ 第 2 次調査	いわてけんのにへ 岩手県二戸 しきんだいちあぎ 市金田一字 かわぐち ばん 川口 23 番 ほか	03213	I E 79-1188	40度 20分 13秒	141度 16分 34秒	2006.07.01 ～ 2006.09.15	2,133㎡	一般県道上斗米 金田一線豊年橋 地区道路整備事 業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
川口 I 遺跡 第 2 次調査	集落跡	縄文時代 後期前葉	竪穴住居状遺構 1 棟	縄文土器 4 箱	縄文土器は後期前葉が中心 土製品・石製品・琥珀は調査 区東側 E・F 区より出土			
			土坑 17 基	石器 中 2 箱				
		配石遺構 1 基	土製品 6 点					
		奈良時代 ～近世	埋設土器遺構 1 基	土製品 2 点	北大式?と思われるもの 2 点 含む			
			柱穴状土坑 12 個	琥珀 1 点				
		現代 時期不明	柱穴状小土坑 10 個					
			土坑 5 基	土師器 小 1/2 箱				
			溝状遺構 2 条	近世陶磁器・古銭				
			土坑 15 基	陶磁器・ガラス				
			溝状遺構 4 条					
			柱穴状遺構 333 個					
要約	縄文時代後期前葉の遺構、竪穴住居状遺構や配石遺構、埋設土器遺構、土坑のうち、埋設土器遺構を除いて調査区東側からまとまって検出された。検出状況から集落本体は今回の調査区よりも北側にあるものと思われる。8世紀の土師器も少量出土した。近世陶磁器は18世紀～19世紀に属するものと思われる。							



---

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第521集

**川口 I 遺跡第 2 次発掘調査報告書**

一般県道上斗米金田一線豊年橋地区道路整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 平成19年12月10日

発 行 平成19年12月20日

発 行 (財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター  
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地  
電話 (019) 638-9001  
FAX (019) 638-8563

印 刷 (有)小松茂印刷所  
〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原二丁目5-37  
電話 (019) 623-6073

